

島嶼会館建設工事

(構造図)

【竣工図】

大成建設株式会社一級建築士事務所

2013. 08. 31

建物概要・構造設計条件

図面リスト・構造設計概要 G E A 0 0 1

■ 工事名 新・鳥嶋会館 (仮称) 建設工事

■ 建築主 東京都葛飾区新小岩 一部事務組合
代表者 石野田 富弘

■ 建築場所 東京都葛飾区海岸1丁目14番地1号

■ 用途 ホテル

■ 規模 地下 0 階・地上 6 階・塔屋 0 階
軒高 23.53 m
建築面積 約 961.072 m²
延面積 約 4,613.20 m²
増築予定 有 (無)

■ 主要構造 基礎種別 ○直接基礎 ()
●杭基礎 (既成コンクリート杭)
○その他 ()
構造種別 ●S造 ()
○RC造 ()
○SRC造 ()
○その他 ()
架構形式 X方向 純ラーメン構造
Y方向 純ラーメン構造
特殊構造 ○免震構造 (○基礎免震 ○中間免震)
○制振構造
○その他 ()

■ 構造計算の方法
○令第81条第1項に定める基準に従った構造計算 (時刻応答解析)
●令第81条第2項第1号イに規定する構造計算 (保有水平耐力計算)
○令第81条第2項第1号ロに規定する構造計算 (限界耐力計算)
○令第81条第2項第2号イに規定する構造計算 (許容応力度等計算)
○令第81条第3項に定める基準に従った構造計算 (ルート1)
○その他 ()

■ 荷重および変形角

地震力
耐震等級 ○等級3 ○等級2 ○等級1
地震力倍率 1.0
地盤種別 第二種
振動特性係数 Rt= 1.0
地震地域係数 Z= 1.0
局部震度 K= 1.0

●保有水平耐力計算, 許容応力度等計算の場合

設計せん断力時	標準せん断力係数 Co	X方向	Y方向
(設計せん断力時)		0.2	0.2
層間変形角	(保有水平耐力時)	1/232以下	1/232以下
(必要保有水平耐力時)		1/100	1/100
		(1/152)	(1/153)

風圧力
耐風等級 ○等級2 ○等級1
耐風強度倍率 1.0
基準風速 V₀ 34 m/s
地表面粗度区分 ・I ・II ・III ・IV
風圧力の低減・割増 ●無 ○有

積雪荷重
区域 ●一般地域 ○多雪地域
耐積雪等級 ○等級2 ○等級1
耐積雪強度倍率 -
垂直積雪量 30 cm
1cm当りの単位荷重 20 N/m² (多雪地域 (N/m²))
積雪荷重長期 - N/m²
積雪荷重短期 600 N/m²
一般地域の場合は、耐積雪等級は適用外とする

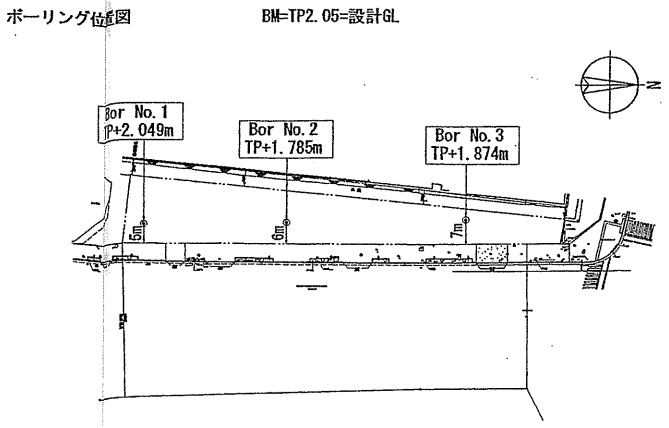
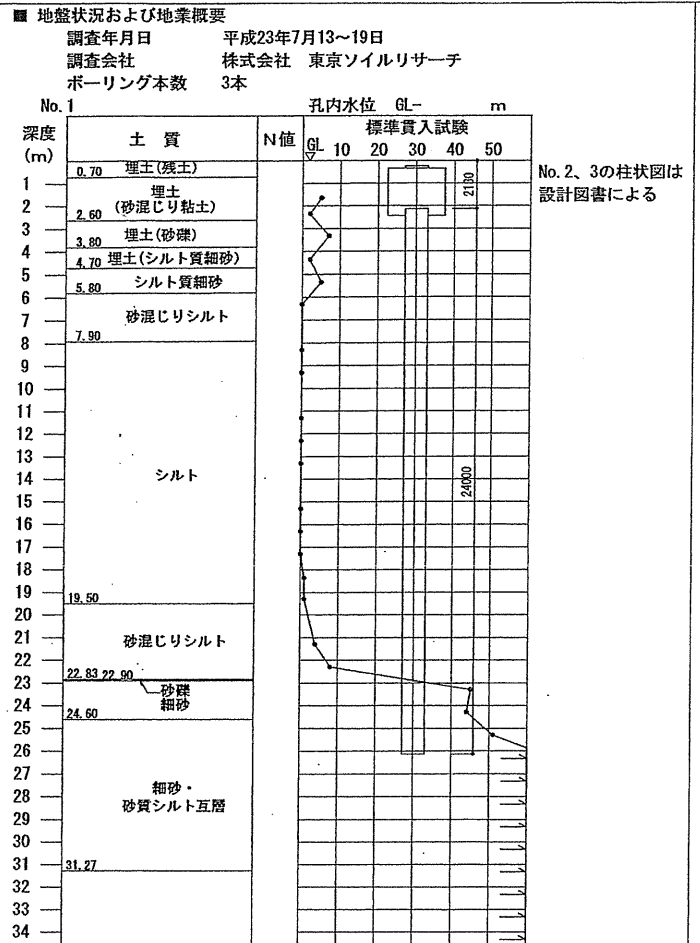
土圧
土の単位体積重量 17 kN/m³
地表面の等分布荷重 5 kN/m²
地下水位 GL- 1.1 m

積載荷重 (kN/m²)

部位	床スラブ	小梁	梁・柱	地震	部位	床スラブ	小梁	梁・柱	地震
居室・屋根 (3)	1.8	1.8	1.3	0.6					
会議室	3.5	3.5	3.2	2.1					
庇	1.0	1.0	-	-					

特殊荷重 (kN)

名称	階	重量	名称	階	重量
受水タンク	6	25.2	ポンプ	1	5.4
キュービクル	6	112.3	排気ファン	3	10.8
GE	6	518.4	ELV		



■ 重要事項
当該工事に重要事項となる項目を下記に示す。(●印及び記述)
重要項目となる項目に関わる仕様は特記仕様書及び設計図による

主たる重要事項となる項目

立地環境関係	○土壌汚染対策	○地盤沈下対策	○塩害対策
建物用途関係	○積雪寒冷地対策 (凍害)	○強風地域対策	
建物性能	○ピットの湧水対策 (食品、医薬等)	○床の遮音対策	○ひびわれ対策 (土間コン、デッキスラブ、外壁)
発注者要求性能	○ひびわれ対策 (土間コン、デッキスラブ、外壁)	○エキスパンションジョイント	○性能発注要求
その他	○品確法認定取得要求 (設計・施工)	○性能発注要求	

主たる重要項目となる項目の性能値及び内容
劣化対策等級 ○等級3 ○等級2 ○等級1

その他の重要事項となる項目及び仕様

- 建築主からの指示事項
・保有水平耐力/必要保有水平耐力 ≥ 1.25 以上確保すること。
- 竣工後の変更に関する申し送り事項
・用途変更の場合は構造設計に関する検討が必要です。
・特殊荷重表に示す機器類を移設する場合は構造設計に関する検討が必要です。
- 地盤に関する申し送り事項
- 既設に関する申し送り事項

図面リスト

図面番号	図面名
C-001	図面リスト・構造設計概要
C-002	構造特記仕様書 (1)
C-003	構造特記仕様書 (2)
C-004	構造特記仕様書 (3)
C-005	構造特記仕様書 (4)
C-006	構造特記仕様書 (5)
C-007	配筋標準図 (共通) ラーメン配筋標準図
C-007-1	配筋標準図 (杭・基礎)
C-008	配筋標準図 (床スラブ)
C-009	配筋標準図 (設備基礎等)
C-010	溶接基準図
C-011	柱梁接合部溶接基準図
C-012	鉄骨継手基準図
C-013	杭伏図・基礎及びピット伏図
C-014	1階床梁伏図・1階柱 2階床梁伏図
C-015	2,3階柱・3,4階床梁伏図
C-016	4,5階柱・5,6階床梁伏図
C-017	M6,6階柱・6,R階床梁伏図
C-018	軸組図 (1)
C-019	軸組図 (2)
C-020	軸組図 (3)
C-021	基礎リスト
C-021-1	鉄骨部材リスト
C-022	基礎梁リスト
C-023	床スラブリスト
C-024	鉄骨小梁リスト-1
C-024-1	鉄骨小梁リスト-2
C-025	鉄骨間柱リスト
C-026	鉄骨継手リスト
C-027	鉄骨詳細図-1
C-028	鉄骨詳細図-2
C-029	日立スーパーハイベース 工法設計施工標準-1
C-030	日立スーパーハイベース 工法設計施工標準-2
C-031	ニューフェローデッキ設計標準仕様書
C-032	目隠し詳細図-1 伏図・軸組図
C-033	目隠し詳細図-2 鉄骨部材リスト

TAISEI For a Lively World

TAISEI CORPORATION
Planners Architects & Engineers

大成建設株式会社 一般建築士事務所
〒163-0606 新宿区西新宿1-25-1
URL: http://www.taisei.co.jp
一級 第233690号
構造設計一級 第5617号
設計 井上 慶一
担当 宮原 貴昭

確認申請図 2012.09.24
見積図
契約図 2012.10.01
竣工図 2013.08.31
当図作成日 2013.08.31

設計番号 01-28350-000

鳥嶋会館建設工事

【竣工図】
発行日 2013.08.31
図面名称
図面リスト
構造設計概要書

総尺
C-001

構造特記仕様書 (1)

構造特記仕様書 (1)

G E A - 0 1 1

● 標準仕様 <付加>
(a) 特記仕様書及び設計図に記載されていない事項は、国土交通大臣官房管轄部監修「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)(平成22年版)」(以下、「公共仕様」という)による。
公共仕様に記載のない事項は、日本建築学会「建築工事標準仕様書」による。
(b) 各工事において、他の工事と関連する事項はそれぞれの特記仕様書、大成標準仕様書及び公共仕様(機械設備工事編(平成22年版)、電気設備工事編(平成22年版))による。
(c) 本特記仕様書のうち下記の【特記仕様(b)】の本工事特有の特記仕様を除く部分は、本特記仕様書を使用するすべてのプロジェクトに共通に適用する大成建設の標準仕様とし、関連する特記仕様を含む。
本工事において記載事項に該当する部位がない場合もある。
本特記仕様書は公共仕様と組合せて使用するものとし、優先順位は下記の【設計図書】の優先順位による。
(d) 章、節、項のタイトル部分、及び項目に示される表記は次による。
なお、<>はその章、節または項の全体に適用し、縦帯の表記はそれを付された項目(又は号)のみに適用する。
(1) <置換> 公共仕様の当該章、節、項の規定全体を、特記仕様書と置換える
(2) <置換 公共仕様>の当該規定を、特記仕様書と置換える
(3) <付加> 公共仕様に、特記仕様書の当該章、節、項の全体を追加する
(4) 付加 公共仕様に、特記仕様書の当該項目等を追加する
(5) <削除> 公共仕様の当該章、節、項の規定全体を削除し、代替する規定は設けない
(6) 削除 公共仕様の当該項目を削除し、代替する規定は設けない

● 3節 山留め
3.3.1 山留めの設置
3.3.2 山留めの管理
3.3.3 山留めの撤去
山留めの撤去
◆ 存置
○ 撤去 撤去範囲(施工時協議による)
● 4章 地業工事
● 1節 一般事項
4.1.1 適用範囲
付加 (b) 基礎種別
● 既製コンクリート杭【3節】
○ 鋼杭【4節】
○ 場所打ちコンクリート杭【5節】
○ 深礎【8節】
○ 直接基礎 根切り底 GL- m 地耐力 kN/m²
上記事項は地盤の状況により変更することがある。
付加 (c) F.T.Pile構法
◆ 採用する(仕様は設計図による)
● 採用なし
4.1.2 基本要品質
4.1.3 施工一般
4.1.4 工法等の変更 <付加>
施工に当り、指定の工法・設計図書の内容等の実施に困難な事情が生じた場合は、工法等の変更について監理者及び設計者と協議する。
● 2節 試験及び報告書
4.2.1 一般事項
置換 (b) (a) によらない試験を行う場合は、監理者と協議の上、試験方法を決定する。
付加 (d) 試験に先立ち試験計画書を作成し、監理者の承認を受ける。
4.2.2 試験杭
(a) 試験杭の位置及び本数
◆ 杭伏図による
● (施工時指示)
杭長は試験杭の結果により、変更する場合がある。
置換 (c) 試験杭は本杭を兼ねることができる。試験杭の結果により、本杭の施工における各種管理基準値を定める。
4.2.3 杭の載荷試験
(a) 鉛直載荷試験
◆ 行わない
○ 行う (b)による)
水平載荷試験
◆ 行わない
○ 行う (b)による)
引き抜き試験
◆ 行わない
○ 行う (b)による)
(b) (1) 杭径(φ)
箇所数()箇所
最大載荷荷重()kN
(2) 試験杭の位置は杭伏図による。
置換 (c) 試験方法は監理者と協議による。
置換 (d) 報告書の記載事項等は監理者と協議による。
4.2.4 地盤の載荷試験
(a) 平板載荷試験
◆ 行う (b)による)
● 行わない
(b) (1) 箇所数()箇所
試験深さ GL-()m
対象地盤()
最大載荷荷重()kN/m²
載荷板
◆ φ300
○ ()
(2) 試験位置は基礎伏図による。
置換 (d) 試験の方法は監理者と協議による。
置換 (e) 報告書の記載事項等は監理者と協議による。
4.2.5 報告書等
● 3節 既製コンクリート杭地業
4.3.1 適用範囲
(b) 工法
○ 打込み工法【4.3.3】
○ セメントミルク工法【4.3.4】
● 特定埋込杭工法【4.3.5】
4.3.2 材料
(a) 杭の種類
● PHC
● SC
○ PRG
○ ()
杭の性能及び曲げ強度等による区分
◆ 杭リストによる
○ ()

(b) 杭の寸法等【4.3.3, 4.3.4, 4.3.5】
杭径(mm) 杭先端レベル(m) 設計支持力(kN/本) 備考
1000 GL-26.13 6600 P3
1000 GL-26.13 5600 P1,P2
杭の継手の箇所数及び杭先端の形状等
◆ 杭リストによる
○ ()
4.3.3 打込み工法
(c) プレポーリング
○ 行う
○ 行わない
プレポーリング掘削深さ
◆ 設計図による
○ ()
プレポーリング掘削径
◆ 設計図による
○ ()
(e) (3) 推定支持力の算定方法
◆ 東京都建築構造設計指針2010年版「12-3-3-1-1 既製コンクリートぐい第5 施工管理等」による
○ ()
置換 (g) 杭頭の水平方向及び鉛直方向の位置は、全本数について測定し監理者及び設計者に報告し、補強の有無を確認する。
4.3.4 セメントミルク工法
置換 (f) (7) 杭頭の水平方向及び鉛直方向の位置は、全本数について測定し監理者及び設計者に報告し、補強の有無を確認する。
4.3.5 特定埋込杭工法(認定条件に適合するもの)
(a) ● プレポーリング拡大根固め工法(Superリーディング工法 α=425 Grade A)
周辺固定液
● 有り
○ 無し
○ 中置拡大根固め工法()
○ () 工法)
置換 (b) 杭頭の水平方向及び鉛直方向の位置は、全本数について測定し監理者及び設計者に報告し、補強の有無を確認する。
4.3.6 継手
(a) 杭の継手の工法
○ アーク溶接
● 機械式継手() 工法)
(e) 溶接部の検査
◆ 外観検査全数
○ その他の検査()
4.3.7 杭頭の処理
(a) 杭頭の処理
◆ レベル止め(切断しない)
○ 切りそろえ(主筋は基礎に定着)
付加 (c) 杭頭が所定の位置より低い場合は、監理者及び設計者の指示により適切な処置を行う。
付加 (d) 杭周囲を必要以上に深掘りしてはならない。
4.3.8 施工記録
4.3.9 受け入れ検査 <付加>
(a) 作業所に搬入された杭は、形状・杭先端部の補強材等について立会い検査を実施し、機能上有害な変形及び損傷のあるものを使用してはならない。
4.3.10 施工精度 <付加>
(a) 杭の打込み精度は1/100以下とする。
(b) 監理者が所定の精度が確保されていないと判断した場合は、監理者及び設計者と協議のうえ適切な処置を行う。
4.3.11 その他 <付加>
ネガティブフリクション対策
◆ 行わない
○ 行う
○ 4節 鋼杭地業
4.4.1 適用範囲
(b) 工法
○ 打込み工法【4.4.3】
○ 特定埋込杭工法【4.4.4】
4.4.2 材料
(a) 鋼杭の材料
鋼管杭
○ SKK400
○ SKK490
H形鋼杭
○ SHK400
○ SHK490M

杭の寸法等【4.4.3, 4.4.4】
杭径(mm) 杭先端レベル(m) 設計支持力(kN/本) 備考
(b) 先端部形状及び補強
◆ 杭リストによる
○ 公共仕様【図4.4.1及び表4.4.2】による
4.4.3 打込み工法
(c) プレポーリング
○ 行う
○ 行わない
プレポーリング掘削深さ
◆ 設計図による
○ ()
プレポーリング掘削径
◆ 設計図による
○ ()
(e) (3) 推定支持力の算定方法
◆ 東京都建築構造設計指針2010年版「12-3-3-1-2 鋼管ぐい第5 施工管理等」による
○ ()
置換 (g) 杭頭の水平方向及び鉛直方向の位置は、全本数について測定し監理者及び設計者に報告し、補強の有無を確認する。
4.4.4 特定埋込杭工法(認定条件に適合するもの)
(a) ○ プレポーリング拡大根固め工法()
○ 中置拡大根固め工法()
○ () 工法)
置換 (b) 杭頭の水平方向及び鉛直方向の位置は、全本数について測定し監理者及び設計者に報告し、補強の有無を確認する。
4.4.5 継手
(a) 杭の継手の工法
○ アーク溶接
○ 機械式継手() 工法)
(c) (4) 溶接部の検査
◆ 外観検査全数
○ その他の検査()
4.4.6 杭頭の処理
(a) 杭頭の処理
◆ ガス切断
○ レベル止め(切断しない)
付加 (c) 杭頭が所定の位置より低い場合は、監理者及び設計者の指示により適切な処置を行う。
付加 (d) 杭周囲を必要以上に深掘りしてはならない。
4.4.7 施工記録
4.4.8 受け入れ検査 <付加>
(a) 作業所に搬入された杭は、形状・杭先端部の補強材等について立会い検査を実施し、機能上有害な変形及び損傷のあるものを使用してはならない。
4.4.9 施工精度 <付加>
(a) 杭の施工精度は、【4.3.10】による。
4.4.10 その他 <付加>
(a) ネガティブフリクション対策
◆ 行わない
○ 行う
(b) 電気防蝕処理
◆ 行わない
○ 行う
○ 5節 場所打ちコンクリート杭地業
4.5.1 適用範囲
(b) 工法
○ アースドリル工法、リバース工法及びオールケーシング工法【4.5.4】
○ 場所打ち鋼管コンクリート杭工法及び拡底杭工法【4.5.5】
付加 (d) 主筋・帯筋の間隔が狭くて、コンクリートの充填性を損うと予想される場合は、監理者及び設計者と協議のうえ適切な処置を行う。
付加 (e) 評定工法の場合は、公的機関の評定条件による。
4.5.2 施工管理技術者
4.5.3 材料その他
杭断面・長期許容支持力【4.5.4, 4.5.5】
杭径(mm) 杭先端レベル(m) 設計支持力(kN/本) 備考
注) 杭径は施工図を示す。

TAISEI For a Lively World
TAISEI CORPORATION
TAISEI DESIGN
Planners Architects & Engineers
大成建設株式会社 建築士事務所
〒163-0605 新宿区西新宿1-25-1
URL: http://www.taisei.co.jp
一般 第233690号
構造設計一般 第5617号
設計 井上 慶一 氏
担当 宮原 貴昭
確認申請図 2012.09.24
見積図
契約図 2012.10.01
竣工図 2013.08.31
当図作成日 2013.08.31
設計番号 01-28350-000
島嶼会館建設工事
【竣工図】
発行日 2013.08.31
図面名称
構造特記仕様書(1)
縮尺
C-002

構造特記仕様書 (2)



TAISEI CORPORATION
TAISEI DESIGN
Planners Architects & Engineers

大成建設株式会社 一級建築士事務所
〒163-0606 新宿区西新宿1-25-1
URL: http://www.aisei.co.jp

一級 第233690号
構造設計一級 第5617号
設計 井上 慶一郎
担当 宮原 貴昭

(a) (1) 鉄筋の種類
 ○ SD295A (D16以下)
 ○ SD345 (D19以上)
 ○ SD390 ()
 ○ SBPD1275/1420 ()

(2) 鉄筋の加工及び組立
 (i) 帯筋
 ◇ 杭リストによる
 ○ ()
 (iii) 鉄筋かごの補強
 ◇ 杭リストによる
 ○ 公共標仕【4.5.3(a)(2)(iii)】による
 (v) 主筋継手の工法
 ◇ 重ね継手
 ○ ()
 (vii) 鉄筋の最小かぶり厚さ
 ◇ 設計図による
 ○ ()

(b) (1) セメントの種類
 ◇ 高炉セメントB種
 ○ 普通ポルトランドセメント
 ○ ()

(3) 設計基準強度 () N/mm²
 コンクリートの強度管理材齢
 ◇ 56日
 ○ ()日
 水セメント比
 ◇ 60%以下
 ○ ()
 スランブ
 ◇ 21cm以下
 ○ ()cm
 粗骨材最大寸法
 ◇ 25 (20) mm
 ○ ()mm
 単位セメント量
 ◇ 330kg/m³以上
 ○ ()

表4.5.1 コンクリートの種別

種別	水セメント比の最大値 (%)	所要スランブ (cm)	粗骨材の最大寸法 (mm)	単位セメント量の最小値 (kg/m ³)	備考
A種	50以下	21	25 (20)	270	無水掘りの場合
B種				330	上記以外の場合

注) () 内は、砕石及び高炉スラグ砕石使用の場合

(5) コンクリート強度の割増し
 ○ 無し
 ◇ 有り (◇ 3N/mm² ○)

付加 (10) 原則として界面活性剤を用い、所要空気量は4.5%を標準とする。
 付加 (11) 再生コンクリート
 ○ 使用不可
 ◇ 使用可

4.5.4 アースドリル工法、リバース工法及びオールケーシング工法

施工法
 ◇ アースドリル工法
 ○ リバース工法
 ○ オールケーシング工法

(c) (4) 孔壁測定
 ◇ 行う (測定は直交2方向とする)
 ○ 行わない
 サンプル数
 ◇ 各軸径ごとに1本以上、かつ同軸径径杭5本ごとに1本以上とする。
 ○ ()

置換 (c) (10) 杭頭部には、設計杭頭レベルより500~1000mm程度の余盛を行う。
 また、主筋の基礎底盤への定着長さは、設計図による。

置換 (c) (14) 杭頭の水平方向及び鉛直方向の位置は、全本数について測定し、監理者及び設計者に報告し、補強の有無を確認する。
 杭頭の水平方向の位置は、杭頭の主筋の中心を杭の中心として測定する。

4.5.5 場所打ち鋼管コンクリート杭工法及び底盤杭工法

施工法
 場所打ち鋼管コンクリート杭工法
 ○ アースドリル工法
 ○ リバース工法

底盤杭工法
 軸部施工法
 ○ アースドリル工法
 ○ リバース工法
 ○ オールケーシング工法
 底盤部施工法
 ○ アースドリル工法
 ○ リバース工法
 ○ () 工法

(a) (3) 孔壁測定
 ◇ 行う (測定は直交2方向とする)
 ○ 行わない
 サンプル数
 ◇ 各軸径径ごとに1本以上、かつ同軸径径杭5本ごとに1本以上とする。
 ○ ()

4.5.6 杭頭の処理
 付加 (b) その他の工法は、監理者と協議する。

4.5.7 施工記録
 4.5.8 施工精度 <付加>
 (a) 杭の施工精度は、【4.3.10】による。

● 6節 砂利、砂及びレベルコンクリート (捨コンクリート) 地業等

4.6.1 適用範囲
 4.6.2 材料
 4.6.3 砂利及び砂地業
 (a) 砂利及び砂地業の厚さ
 ◇ 50mm
 ○ 60mm
 ○ () mm

4.6.4 レベルコンクリート (捨コンクリート) 地業
 (a) 発注強度
 ◇ 15N/mm²
 ○ () N/mm²
 スランブ
 ◇ 18cm
 ○ () cm
 厚さ
 ◇ 50mm
 ○ () mm

4.6.5 床下防湿層
 (a) 防湿層
 ● 有り
 ◇ 無し
 施工範囲
 ◇ 建物内の土間コンクリート下 (ピットを除く)
 ● 意匠図による
 防湿方法
 ◇ ポリエチレンフィルムt=0.15mm
 ● 意匠図による

4.6.6 施工記録
 ○ 7節 地盤改良事業 <付加>
 4.7.1 一般事項 <付加>
 (a) 本節は締固め・強制圧密・固化工法・置換等により、地盤を改良する地業に適用する。
 (b) 使用目的
 ○ 地盤の支持力の増大
 ○ 液状化対策
 ○ その他 ()
 工法
 ○ 深層混合処理工法
 ○ 浅層混合処理工法
 ○ サンドドレン工法
 ○ サンドコンパクションパイル工法
 ○ パイロフロートション工法
 ○ その他 ()
 施工試験
 ◇ 行う
 ○ 行わない

施工試験での確認項目

工法	確認事項
深層混合処理工法	改良コラムのコアによる一軸圧縮強度など
浅層混合処理工法	コアによる一軸圧縮強度又は平板載荷試験
サンドドレン工法	仕上がり砂粒の径、深度、砂投入量、施工時間など
パイロフロートション工法	パイロフロート棒の引き上げ速度、先端及び横引きジット効果、砂投入量、施工時間など
サンドコンパクションパイル工法	砂材料のフィルタ材としての効果、ファブ材使用の場合のネット強度、乾燥時の保存方法、砂粒の折損防止策、所要時間など

材料その他は設計図による

六価クロム対策
 溶出試験または近隣実績などを参考にして、六価クロム等の溶出量が環境基準以下となる固化材を選定すること。

4.7.2 材料 <付加>
 (a) 締固め工法に使用される砂、砂利、鉱さい等は、泥、塵芥等を含まず、改良効果が良好なもので、監理者が承認したものとす。
 (b) 固化工法に使用する固化材は、地盤条件に適したものを選定し、監理者の承認を受ける。

4.7.3 施工計画 <付加>
 (a) 工法の適正とその効果を判定するための試験施工を行うときは、監理者に報告し、承認を受ける。

4.7.4 施工 <付加>
 (a) 締固め工法の施工方法は下記による。
 (1) 材料の使用量は設計図による。
 (2) 所定の量が使用されたことを確認する。
 (3) 改良効果の確認方法は設計図による。設計図に記載のない場合は、監理者と協議のうえ決定する。
 (b) 固化工法の施工は下記による。
 (1) 固化材の保管・取扱いに注意し、施工時には飛散防止に努める。
 (2) 固化材は、所定の量を所定の土とむらなく混合する。

(3) 改良地盤が所定の強度に達するまでは、過大な荷重を加えてはならない。
 また、適切な養生を行う。
 (4) 深層混合処理工法では、所定の密度を得られるよう転圧を行う。
 (5) 深層混合処理工法では、改良体の位置・径及び改良深さの施工精度維持に努める。
 (6) 改良効果の確認方法は設計図による。設計図に記載のない場合は、監理者と協議のうえ決定する。

4.7.5 施工記録 <付加>
 工事の施工記録を作成し、監理者に提出する。

● 8節 深礎、土間コンクリート、その他の工法及び地業 <付加>
 4.8.1 深礎 <付加>
 (a) かぶり厚さ
 ◇ 100mm
 ○ 200mm (手掘り深礎)
 (b) 深礎の工法、径、深さ、設計支持力、材料、配筋の仕様は設計図による。
 (c) 安全対策
 酸素欠乏、孔内ガス発生、孔壁崩壊に対して十分な予防措置をとること。

4.8.2 土間コンクリート <付加>
 土間コンクリートの路床、路盤、基礎梁等の埋戻し、締め、コンクリート配合、スラブ厚及び配筋・目地・養生の仕様は設計図による。設計図に記載のない場合は監理者及び設計者と協議のうえ決定する。

4.8.3 その他の工法及び地業 <付加>
 (a) 下記の工法及び地業は設計図による。
 (1) 特殊杭地業
 (2) その他の特殊工法

● 5章 鉄筋工事
 付加 公共標仕に記載のない事項は、日本建築学会「建築工事標準仕様書・同解説JASS5 (2009)」による。

● 1節 一般事項
 5.1.1 適用範囲
 5.1.2 基本要項
 5.1.3 配筋検査
 付加 (b) 施工者は配筋の全数検査を行い、主要な配筋は監理者の検査を受ける。
 付加 (c) 検査の結果、不合格となった配筋は修正して記録を監理者に提出し、承認を受ける。

● 2節 材料
 5.2.1 鉄筋
 置換 (a) 鉄筋の種類

種類	種類の記号	使用部位	鉄筋径
異形鉄筋 (JIS G 3112)	● SD295A	スラブ・壁・せん断補強	D16以下
	● SD345	小梁	D19~D25
	● SD390	基礎梁・柱型	D29以上
	○ SD490 (大成建設仕様)		
	○ SD490 (JIS仕様)		
高強度せん断補強筋 (JIS G 3137)	○ SBPD1275/1420		

注) 法37条認定を受けた鉄筋

付加 (b) SD490鉄筋の仕様
 大成建設では、高強度鉄筋SD490について特別な仕様を設定している。大成建設仕様を採用する場合はミルシートによる確認、鉄筋業者の加工場に対する指示を徹底すること。以下に大成建設仕様とJIS規格を示す。

付加 (c) SD490鉄筋の機械的性質

種類	降伏点耐力 (N/mm ²)	引張強さ (N/mm ²)	降伏比 (%)	伸び率 (%)	曲げ性	曲げ戻し性
大成建設仕様	490~540	620以上	80以下	13以上	曲げ半径1.5d 曲げ角度90度	曲げ半径1.5d 曲げ戻し角度120度
JIS仕様 (JIS G 3112)	490~625	620以上	—	D32以下: 13以上 D35以上: 11以上 D38以上: 9以上	曲げ半径3.0d 曲げ角度90度	—

注) 付加は大成建設仕様=標準仕様 (JIS G 3112)

付加 (d) 梁貫せん断補強筋に既製品を使用する場合は指定性能評価機関で技術評価を受けたものを使用し、監理者及び設計者の承認を受けること。

5.2.2 溶接金網
 溶接金網

網目の形状	溶接金網 (丸鉄線) (JIS G 3551)	異形鉄筋溶接金網 (JIS G 3551)
寸法 (mm)	◆ 100 ○ 150	◆ 100 ○ 150
鉄線の径 (mm)	◆ φ6 ○ φ4.5	◆ D6 ○ ()

5.2.3 材料試験
 付加 (d) 規格品でJIS表示または規格証明書がある鉄筋は、監理者が必要と認める場合を除き材料試験を行わなくてもよい。
 付加 (e) 使用鉄筋の品質管理及び検査

項目	判定基準	検査方法	時期・回数
鉄筋及び溶接金網	設計図書に適合すること	「規格証明書、刻印、1結束ごとの表示など」と「押印、署名付きの納入書など」の照合。径、長さの測定。	コンクリート工事開始前及び受入れ時

● 3節 加工及び組立
 5.3.1 一般事項
 5.3.2 加工
 (e) 鉄筋の折り曲げ形状及び寸法
 ◆ 設計図による
 ○ 【表5.3.1】による
 (注) RC造の場合の柱のフープ形状は、工場溶接フープ又はスパイラルフープとする。

5.3.3 組立
 置換 (a) 鉄筋の組立は、鉄筋継手部分及び交差部の要所を径0.8mm以上の鉄線と結束し、適切な位置にスペーサー、吊り金物等を使用して行う。
 パーサポート及びスペーサーは、原則として鋼製またはコンクリート製のものをを用いる。鋼製の場合は、型枠に接する部分に防錆処理を施す。スペーサーは、側面に限りプラスチック製も可とする。
 スラブのパーサポートの間隔は、原則として@800とし、鉄筋の継手部分にもパーサポートを設置する。

5.3.4 継手及び定着
 (a) 継手の工法

部位等	継手工法と適用径の範囲	
柱主筋 注)	◆ 重ね継手 (D16以下) ○ 溶接継手 ()	◆ ガス圧接 (D19以上) ○ 機械式継手 ()
梁主筋 注)	◆ 重ね継手 (D16以下) ○ 溶接継手 ()	◆ ガス圧接 (D19以上) ○ 機械式継手 ()
基礎・土圧壁	◆ 重ね継手 () ○ 溶接継手 ()	○ ガス圧接 () ○ 機械式継手 ()
耐圧スラブ	◆ 重ね継手 () ○ 溶接継手 ()	○ ガス圧接 () ○ 機械式継手 ()
壁・スラブ	◆ 重ね継手 () ○ 溶接継手 ()	○ ガス圧接 () ○ 機械式継手 ()

注) D19以上の鉄筋は原則としてガス圧接とする。
 D35以上の鉄筋は原則として重ね継手は禁止する。
 SD490以上の鉄筋継手は原則として機械式継手とする。
 柱主筋に溶接継手は使用してはならない。

(b) 鉄筋の継手位置
 ◆ 設計図による
 ○ ()

(c) 鉄筋の重ね継手長さ、隣り合う継手の位置
 ◆ 設計図による
 ○ ()

(d) 鉄筋の定着の長さ、定着の方法
 ◆ 設計図による
 ○ ()

(e) 溶接金網・スパイラル筋の継手及び定着
 ◇ 設計図による
 ○ ()

付加 (f) 機械式定着工法
 ◇ 適用しない
 ● 適用する (基礎梁)
 大梁や柱の主筋端部に用いる機械式定着板は、(財)日本建築センターや(財)日本建築総合試験所などの性能評価機関で評定された性能評価を受けた製品を使用する。主なメーカーとしては、東京鉄鋼、伊藤製鉄所、合同製鉄などがあるが、これらの製品は、性能評価の内容により使用できるコンクリート強度との組み合わせや使用可能な部位が異なるため、工事にあたっては鉄筋メーカーの選定と共に、十分留意して適用すること。

5.3.5 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔
 置換 (a) ~ (c) 鉄筋のかぶり厚さ
 ◆ 設計図による
 ○ ()
 置換 (d) 鉄筋相互のあき
 ◆ 設計図による
 ○ ()

5.3.6 鉄筋の保護
 5.3.7 各部配筋
 各部の配筋
 ◆ 設計図による
 ○ ()

● 4節 ガス圧接
 5.4.1 適用範囲
 5.4.2 技能資格者
 置換 圧接技量資格者は日本鉄筋継手協会が発行する資格証を有するものとし、技量証明書を監理者に提出し、承認を受ける。

5.4.3 圧接部の品質
 5.4.4 圧接一般
 置換 (b) 形状が著しく異なる場合及び径の差が5mmを超える場合は、原則として圧接をしない。

5.4.5 鉄筋の加工
 5.4.6 圧接端面
 5.4.7 天候による処置
 5.4.8 圧接作業
 5.4.9 圧接完了後の試験
 (2) 圧接部の試験
 ◆ (1) 超音波探傷試験
 採取率1ロットにつき (◆ 30 ○)箇所
 ただし、最初の1ロットは径ごとに引張試験箇所も行う。
 検査方法は、日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書 ガス圧接継手工事 (2009)」による。
 非破壊検査は監理者が承認した第三者機関で行うこと。

確認申請済 2012.09.24
見積書
契約書 2012.10.01
竣工図 2013.08.31
当図作成日 2013.08.31

設計番号 01-28350-000

鳥嶋会館建設工事

【竣工図】
発行日 2013.08.31

図面名称

構造特記仕様書(2)

総尺

C-003

構造特記仕様書 (3)



TAISEI CORPORATION
TAISEI DESIGN
Planners Architects & Engineers

大成建設株式会社 一級建築士事務所
〒163-0606 新宿区西新宿1-25-1
URL: http://www.taisei.co.jp

一級 第23369号
構造設計一級 第5617号
設計 井上 慶一郎
担当 宮原 貴昭

付加 ○ (II) 引張試験
抜取率1ロットにつき (◇ 3 ○)箇所
引張試験の試験機関は、原則として第三者機関(登録検査機関)で行う。

5.4.10 不合格となった圧接部の修正
○ 5節 特殊な鉄筋継手
5.5.1 適用範囲
5.5.2 機械式継手
(a) 機械式継手の種類
◇ 告示第1463号によるA級継手
○ (工法)
置換 (b) 隣り合う継手の位置は【5.3.4】による
置換 (c) 工法、品質の確認方法、不良となった継手の修正方法については、監理者と協議により決定する

5.5.3 溶接継手
付加 (c) フレアグループ溶接
◇ 設計図による
○ ()

5.5.4 突合せ溶接継手 <付加>
(a) 溶接継手は指定性能評価機関で技術評価を受けた工法とする。
(b) 溶接継手の施工及び検査は、日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書 溶接継手工事(2009)」による。
(c) 非破壊検査は監理者が承認した第三者機関(登録検査機関)で行うこと。
(d) SD490の溶接継手
◇ 無し
○ 有り エンクローズ溶接を用いる場合は大成建設 建築技術部へ連絡を行うこと。各成分については、下表を満足すること。

種類	C	Si	Mn	P	S	Cu	Sn	C+Mn/6
溶接継手を用いる場合	0.32以下	0.55以下	1.80以下	0.030以下	0.030以下	0.30以下	0.040以下	0.60以下
	以下	以下	以下	P+S:0.050以下	以下	以下	以下	以下

● 6章 コンクリート工事
付加 公共標仕に記載のない事項は、日本建築学会「建築工事標準仕様書・同解説JASS5(2009)」による。

● 1節 一般事項
6.1.1 適用範囲
6.1.2 基本要品質
6.1.3 コンクリートの種類
6.1.4 コンクリートの強度
【6.1.3、6.2.2、6.2.3、6.2.4、6.3.2、6.3.5、6.4.5、6.5.2、6.8.2、6.11.1、6.11.3、6.13.3、6.14.1、6.14.3、6.15.3、6.16.1】

(a) コンクリートの種類及び強度

種類	使用箇所	設計基準強度 F _c (N/mm ²)	計画供用期間の級 標準	計画供用期間の級 標準	単位水量 F _w (kg/m ³)	スランプ (cm)	備考
普通	基礎・地中梁・1F床	27	標準	27	175以下	15	(高性能) AE減水剤
	2~RF床	24	標準	24	175以下	18	(高性能) AE減水剤
軽量	土間コンクリート	21	-	-	-	12	セメント量280kg/m ³ 以上
	保護コンクリート	18	-	-	-	18	セメント量の規定なし

注1) F_w = Max(F_c, F_d) N/mm²

計画供用期間の級	耐久設計基準強度 F _d (N/mm ²)	計画供用期間 (年)
短期	18	およそ30
標準	24	およそ65
長期	30	およそ100
超長期	36	およそ200

注2) スランプの許容差は、スランプ値が9cm以上18cm以下の場合は±2.5cm、21cm以上の場合は±1.5cm(F_c36を超える場合は±2.0cm)とする。

付加 (b) F_c60を超える高強度コンクリートは、【31章 高強度コンクリート工事】による。

6.1.5 レディーミクストコンクリートの類別
レディーミクストコンクリートの類別
◆ I類
○ II類

● 2節 普通コンクリートの品質
6.2.1 構造体コンクリート強度

構造体コンクリートの強度管理材齢	供試体の養生方法
(28)日 (普通ポルトランドセメント)	標準水中養生
()日 ()	()

注) 強度管理材齢が28日を超過する場合は現場封かん養生とする。

6.2.2 気乾単位容積質量
6.2.3 ワーカービリティ及びスランプ
6.2.4 材料及び調合の条件
試練り
◇ 行う (ただし、I類コンクリートの場合は省略することができる)
● 行わない (I類コンクリート)

材料・調合
【6.3.2、6.3.3、6.3.4、6.3.5、6.4.4、6.4.8、6.5.2、6.11.3、6.13.2、6.15.3】

コンクリートの種類	普通 コンクリート	高強度 注1) コンクリート	軽量 コンクリート
セメントの種類	◆ 普通ポルトランドセメント ○ 低熱ポルトランドセメント ○ 中熱ポルトランドセメント (マスコン) ○ ()	◆ 普通ポルトランドセメント ○ 低熱ポルトランドセメント ○ 中熱ポルトランドセメント (マスコン) ○ ()	◆ 普通ポルトランドセメント ○ 低熱ポルトランドセメント ○ 中熱ポルトランドセメント (マスコン) ○ ()
単位セメント量 (kg/m ³)	270(290)以上 注2)	320(340)以上 注3)	
水セメント比 (%)	50(50)以下 注5), 注6)	50以下	50(50)以下 注4)
骨材	粗骨材 ◆ 砂利または砕石 ○ 高炉スラグ粗骨材 ○ 人工軽骨材 (軽量コンクリートの場合) 細骨材 ◆ 砂または砕砂 ○ 高炉スラグ粗骨材 ○ 人工軽骨材 (軽量コンクリートの場合) アルカリシリカ反応性に関しては無害と判断されたものを使用する。		
混和剤 (JIS A 6204)	◆ AE減水剤 空気量 (%) 4.5 ± 1.5	● 高性能AE減水剤 3.0 ± 1.5 (4.5 ± 1.5) 注7)	○ 流動化剤 5.0 ± 1.5
塩化物量 (kg/m ³)	0.3以下		

注1) F_c36を超えるF_c60以下の場合(呼び強度45を超えるレディーミクストコンクリートは大臣認定を取得したものを採用する。)
注2) ()内は設計基準強度が27N/mm²を超える場合
注3) ()内は設計基準強度が27N/mm²を超える場合または常時土または水に直接接する場合
注4) ()内は低熱ポルトランドセメント、高炉セメントB種、フライアッシュセメントB種、シリカセメントB種の場合
注5) 設計基準強度が27N/mm²を超える場合は55%以下とする。
注6) ()内は凍結の恐れがある場合

6.2.5 コンクリートの仕上り
置換 (a) (I) (1) コンクリート部材の位置及び断面寸法の許容値の標準値 (単位:mm)

項目	許容差	
	短期・標準	長期・超長期
位置	±20	±20
断面寸法		
柱・梁・壁の断面寸法	-5	+15
床スラブ・屋根スラブの厚さ	+20	0
基礎の断面寸法	-10	+5
	+50	+10

(b) (I) コンクリートの打ち出し仕上げ
● 有り (B 種)
○ 無し

付加 (b) (3) コンクリート表面の仕上り状態が公共標仕の仕様以外の場合は建築特記仕様書による。

● 3節 普通コンクリートの材料
6.3.1 一般事項
6.3.2 セメント
(b) ○ 高炉セメントB種 適用箇所 ()
○ フライアッシュセメントB種 適用箇所 ()

6.3.3 骨材
6.3.4 水
付加 (b) 計画供用期間の級が長期および超長期の場合は回収水を用いない。

6.3.5 混和材料
● 4節 コンクリートの発注、製造及び運搬
6.4.1 コンクリート製造工場の選定
6.4.2 コンクリートの発注
6.4.3 調合の一般的条件
6.4.4 計画調合
付加 (f) 施工者は工事に先立ち、調合計画書を作成し、監理者の承認を受ける。

6.4.5 調合管理強度
6.4.6 単位水量
6.4.7 細骨材率
6.4.8 混和材料
6.4.9 運搬
● 5節 普通コンクリートの品質管理
6.5.1 一般事項
6.5.2 スランプ
6.5.3 空気量
6.5.4 塩化物量及びアルカリ総量
6.5.5 コンクリート強度
● 6節 コンクリートの工事現場内運搬並びに打込み及び締固め
6.6.1 工事現場内運搬
6.6.2 コンクリートの練混ぜから打込み終了までの時間の限度
6.6.3 打継ぎ
(b) 打継ぎの寸法
◆ 設計図による
○ ()

6.6.4 打込み
6.6.5 締固め
6.6.6 上層の仕上げ
6.6.7 打込み後の確認等

● 7節 養生
6.7.1 養生温度
6.7.2 湿潤養生
置換 表 6.7.1 湿潤養生の期間

計画供用期間の級 セメントの種類	短期及び標準		長期及び超長期	
	早期ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	中熱ポルトランドセメント	高炉セメントB種、フライアッシュセメント
早期ポルトランドセメント	3日以上	5日以上	7日以上	10日以上
普通ポルトランドセメント	3日以上	5日以上	7日以上	10日以上
中熱ポルトランドセメント	3日以上	5日以上	7日以上	10日以上
高炉セメントB種、フライアッシュセメント	3日以上	5日以上	7日以上	10日以上

6.7.3 振動及び外力からの保護
○ 8節 暑中におけるコンクリートの取扱い
6.8.1 適用範囲
(a) 日平均気温の年平均値が25℃を超える場合
強度管理材齢
◇ 28日
○ ()日

6.8.2 材料及び調合
置換 (e) 構造体強度補正値28S91は原則6N/mm²とし、それ以外は監理者と協議の上決定する。

6.8.3 製造及び打込み
6.8.4 養生
● 9節 型枠
6.9.1 適用範囲
付加 (b) 特殊工法を用いる場合には、監理者の承認を得ること。

6.9.2 一般事項
付加 (d) 外壁等の増打ち厚さ
打継ぎ目地を設けるために、原則として20mm増打ちとする。打継ぎ目地を設けない場合は、タイルやモルタルで10mm以上の仕上げがあれば増打ちしなくてもよい。
化粧目地が深い場合や打込みタイルの場合の増打ちは下記による。
◇ 設計図による
● (意匠図による)

(e) 誘発目地
◆ 有り (壁、腰壁、パラペット、バルコニー)
○ 無し
目地位置
◇ 設計図による
● (意匠図による)

付加 (f) 構造スリット
◇ 有り (壁)
● 無し
構造スリット部の目地材やシーリング材等については建築特記仕様書を参照する。

6.9.3 材料
(a) せき板の材料
◆ 日本農林規格「コンクリート型枠用合板」
○
(b) 合板の厚さ
◆ 12mm
○ ()mm
(d) 断熱材を兼用した型枠材
◆ 使用しない
○ 使用する
(e) MCR工法用シート
◆ 適用しない
○ 使用する
(i) (2) スリーブに用いる材料
◆ 【表6.9.1】による
○ ()

6.9.4 型枠の加工及び組立
6.9.5 型枠の存置期間及び取外し
置換 (b) せき板及び支柱の最小存置期間をコンクリートの圧縮強度による場合は、監理者と協議の上、承認を受ける。
置換 (c) 支柱の最小存置期間は原則として、設計基準強度以上のコンクリート強度が得られるまでとし、かつ、特殊な部分については下表による。
梁下とスラブ下は、コンクリート打設時は2層受け以上とする。

部位	スパン	支柱の存置期間	備考
● 片持梁	2.0m以上	28日以上	
● 片持スラブ、庇	1.5m以上	28日以上	
● スパン梁	8.0m以上	28日以上	
● 大型スラブ	4.0m以上	28日以上	
○ 荷重が著しく大きい場合			

6.9.6 型枠締付け金物の頭処理
● 10節 試験
6.10.1 適用範囲
6.10.2 材料試験
6.10.3 フレッシュコンクリートの試験

6.10.4 コンクリートの強度試験の総則
置換 (b) (3) (ii) 供試体の養生温度はJASS5による。

6.10.5 調合管理強度の管理試験
6.10.6 構造体コンクリート強度の推定試験
付加 (d) 構造体コンクリートの圧縮強度試験機関は、原則として第三者機関(登録検査機関)とする。

○ 11節 軽量コンクリート
6.11.1 一般事項
(c) 常時土または水に直接接する部分
軽量コンクリートを
◇ 用いない
○ 用いる
(d) 軽量コンクリートの種類
○ 1種 気乾単位容積質量 () t/m³ [6.11.3]
○ 2種 気乾単位容積質量 () t/m³

6.11.2 材料
6.11.3 品質
6.11.4 品質管理
6.11.5 運搬並びに打込み及び締固め
置換 (a) 使用する輸送管については、監理者の承認を得る。

○ 12節 寒中コンクリート
6.12.1 一般事項
(b) 材齢91日までの積算温度が840° DD以下の場合に適用する。
強度管理材齢
◇ 91日
○ ()日

6.12.2 材料
6.12.3 品質
(b) 水セメント比は、60%以下とする。

6.12.4 製造、運搬及び打込み
6.12.5 養生
6.12.6 試験
6.12.7 型枠
● 13節 マスコンクリート
6.13.1 一般事項
(a) 適用部位 (基礎、基礎梁)

6.13.2 材料
(a) セメントの種類
● 中熱ポルトランドセメント
○ 低熱ポルトランドセメント
○ 高炉セメントB種セメント
○ ()

6.13.3 品質
6.13.4 品質管理
置換 (a) 荷卸し時のコンクリートの温度の上限は原則35℃とし、それを超える場合は監理者との協議の上で決定する。

6.13.5 養生
○ 14節 無筋コンクリート
6.14.1 一般事項
6.14.2 材料
6.14.3 レディーミクストコンクリートの発注、品質管理等
○ 15節 高い強度のコンクリート
6.15.1 一般事項
6.15.2 品質
6.15.3 材料
6.15.4 コンクリートの製造
6.15.5 品質管理
6.15.6 運搬並びに打込み及び締固め
6.15.7 養生
6.15.8 型枠
○ 16節 流動化コンクリート
6.16.1 一般事項
6.16.2 材料
6.16.3 調合
6.16.4 コンクリートの流動化
6.16.5 品質管理
6.16.6 運搬並びに打込み及び締固め
● 7章 鉄骨工事
● 1節 一般事項
7.1.1 適用範囲
7.1.2 基本要品質
7.1.3 鉄骨製作工場
(a) 鉄骨製作工場
性能評価基準(建築基準法施行規則第1条の3第1項による評定)
○ Sグレード
● Hグレード以上
○ Mグレード以上
○ Rグレード以上

7.1.4 施工管理技術者
(a) 施工管理技術者
◆ 適用する
○ 適用しない

確認申請済 2012.09.24
見積書
契約書 2012.10.01
竣工図 2013.08.31
当図作成日 2013.08.31

設計番号 01-28350-000

高崎会館建設工事

【竣工図】
発行日 2013.08.31

図面名称

構造特記仕様書(3)

縮尺

構造特記仕様書(4)



TAISEI CORPORATION
TAISEI DESIGN
Planners Architects & Engineers

大成建設株式会社一級建築士事務所
〒163-0606 東京都新宿区西新宿1-29-1
URL http://www.aisei.co.jp

一級 第233690号
構造設計一級 第5617号
設計 井上 慶一 監理
担当 宮原 貴昭

TAISEI DESIGN
Planners Architects & Engineers

TAISEI DESIGN
Planners Architects & Engineers

TAISEI DESIGN
Planners Architects & Engineers

TAISEI DESIGN
Planners Architects & Engineers

TAISEI DESIGN
Planners Architects & Engineers

TAISEI DESIGN
Planners Architects & Engineers

TAISEI DESIGN
Planners Architects & Engineers

TAISEI DESIGN
Planners Architects & Engineers

TAISEI DESIGN
Planners Architects & Engineers

TAISEI DESIGN
Planners Architects & Engineers

TAISEI DESIGN
Planners Architects & Engineers

TAISEI DESIGN
Planners Architects & Engineers

【竣工図】
発行日 2013.08.31

構造特記仕様書(4)

図面名称

縮尺

Table with columns for material type (鋼材), grade (種類), and application (使用箇所). Includes sub-sections for reinforcement bars (鋼材), high-strength bolts (高力ボルト), and quality inspection (品質検査).

Table with columns for material type (鋼材), grade (種類), and application (使用箇所). Includes sub-sections for reinforcement bars (鋼材), high-strength bolts (高力ボルト), and quality inspection (品質検査).

Table with columns for material type (鋼材), grade (種類), and application (使用箇所). Includes sub-sections for reinforcement bars (鋼材), high-strength bolts (高力ボルト), and quality inspection (品質検査).

Table with columns for material type (鋼材), grade (種類), and application (使用箇所). Includes sub-sections for reinforcement bars (鋼材), high-strength bolts (高力ボルト), and quality inspection (品質検査).

Table with columns for material type (鋼材), grade (種類), and application (使用箇所). Includes sub-sections for reinforcement bars (鋼材), high-strength bolts (高力ボルト), and quality inspection (品質検査).

Table with columns for material type (鋼材), grade (種類), and application (使用箇所). Includes sub-sections for reinforcement bars (鋼材), high-strength bolts (高力ボルト), and quality inspection (品質検査).

Table with columns for material type (鋼材), grade (種類), and application (使用箇所). Includes sub-sections for reinforcement bars (鋼材), high-strength bolts (高力ボルト), and quality inspection (品質検査).

Table with columns for material type (鋼材), grade (種類), and application (使用箇所). Includes sub-sections for reinforcement bars (鋼材), high-strength bolts (高力ボルト), and quality inspection (品質検査).

構造特記仕様書 (5)

⑤ C -

構造特記仕様書 (5)

G E A - 0 1 5



TAISEI CORPORATION
TAISEI DESIGN
Planners Architects & Engineers

大成建設株式会社 一級建築士事務所
〒163-0606 新宿区西新宿1-25-1
URL: http://www.aisei.co.jp

一級 第233690号
構造設計一級 第5617号
設計 井上 豊一
担当 宮原 貴昭

確認申請日 2012.09.24
見積日
契約日 2012.10.01
竣工日 2013.08.31
当圖作成日 2013.08.31

設計番号 01-28350-000

島嶼会館建設工事

【竣工図】
発行日 2013.08.31
図面名称

構造特記仕様書 (5)

縮尺

C-006

MD009

- 1) 抜取り率
 - ◇ 超音波探傷試験に準じる
 - ()
- 2) 方法
 - ◇ 不可逆性の示温塗料
 - 硬さ試験
- 3) 適用板厚
 - t ≥ 25
 - t > 40
 - 部位 ()
- 4) 溶接条件の確認検査を行う検査会社及び技術資格者は、【7.6.11(b)(5)】による。

- 7.6.11 溶接部の試験〈置換〉
- (a) (1) 試験に先立ち、試験要領書を提出し、監理者の承認を受ける。
 (2) 割れの疑いのある表面欠陥には、JIS Z 2343-1 (非破壊試験浸透探傷試験第1部:一般通則:浸透探傷試験方法及び浸透指示機種の分類)又はJIS Z 2320-1 (非破壊試験-磁粉探傷試験-第1部:一般通則)による試験を行う。
 (b) 完全溶込み部の超音波探傷試験の適用は以下による。
 (1) 試験の規準は、(社)日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準」による。
 (2) 試験箇所数の数え方は、JASS6(表5.1 溶接箇所数の数え方)に準ずる。
 (3) 工場溶接の場合
 - ◆ 行う
 - 行わない
 - 抜取検査方法
 - ◆ JASS6(5.13)による
 - ()
 - ただし、鉄骨製作工場の自主検査は全数検査とする。- (4) 工事現場溶接の場合
 - ◆ 行う
 - 行わない
 - 抜取検査方法
 - ◆ 全数検査
 - ()
- (5) 超音波探傷試験を行う機関及び技能資格者は、次による。
 - (i) 超音波探傷試験を行う機関は、当該工事の鉄骨製作工場に所属しないもので、かつ、当該工事の品質管理の試験を行っていないものとする。
 - (ii) 試験機関は、建築溶接部の超音波探傷試験等に関して、当該工事に相応した技術と実績を有するものとし、試験機関の組織体制、所有探傷機器、技能資格者試験の実績等により、監理者の承認を受ける。
 - (iii) 超音波探傷試験を行う技能資格者は、CIN(日本溶接協会溶接検査認定委員会)の認定事業所に所属し、日本鋼構造協会が認定する建築鉄骨製品検査技術者と建築鉄骨超音波検査技術者の資格を有する者とする。
- (6) 外観検査
 - (i) 超音波探傷試験を行った完全溶込み溶接部は、食違い、仕口のずれ、アンダーカットなどの計測を含む外観検査を行う。
 - (ii) 施工者は、工事現場溶接部の溶接施工前に食違い、仕口のずれを含む外観検査を行う。
- (7) エレクトロスラッグ溶接検査
 - (i) 抜取検査の方法はJASS6(5.13)による。
 - (ii) 溶接内部欠陥の検出、溶込み幅の測定、合否判定基準等は日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査基準・同解説」による。
- (8) 放射線透過試験
 - ◆ 行わない
 - 行う(適用部位: 数量:)
- (9) エンドタブを用いたマクロ試験
 - ◆ 行わない
 - 行う(適用部位: 数量:)
- (10) 磁粉探傷試験・浸透探傷試験
 - ◆ 行わない
 - 行う(適用部位: 数量:)
- (c) (a)及び(b)の試験結果の記録を監理者に提出し、不合格箇所がある場合は、【7.6.12】による補修を行う。

- 7.6.12 不合格溶接の補修その他
- 7節 スタッド溶接・デッキプレート溶接
- 7.7.1 適用範囲
- 7.7.2 スタッド溶接作業における技能資格者
- 置換 (a) スタッド溶接作業を行う技能資格者は、スタッド協会「スタッド溶接工技術検定試験」により、工事に相応した技量を有する者とする。
- 7.7.3 スタッドの仕上り精度
- 7.7.4 スタッド溶接施工
- 置換 (f) デッキプレートを貫通させてスタッド溶接を行う場合は、径19mm以上のスタッドを使い、デッキプレートを梁に密着させて溶接する。デッキプレートの板厚が大きい(t=1.2mm超)等、十分な溶接が行えない場合は、監理者との協議により溶接方法を決定する。
- 7.7.5 スタッド溶接後の試験
- (a) 外観検査及び打撃曲げ試験
 - ◆ 行う
 - 行わない
- 7.7.6 不合格スタッド溶接の補修
- 7.7.7 気温等による処置
- 7.7.8 デッキプレートの溶接
- (a) デッキプレートと鉄骨部材の溶接方法
 - ◆ 隅肉溶接
 - 焼抜き栓溶接
 - ()

- 付加 (b) 合成スラブ用デッキプレートの場合、頭つきスタッドを使用しない時は、焼抜き栓溶接とする。
- 付加 (c) 母材にアンダーカットなどの有害な欠損を生じないように溶接する。
- 付加 (d) デッキプレートの敷込みで、支持が2スパン以上となる場合、大梁上は連続させない。

- 8節 錆止め塗装
- 7.8.1 適用範囲
- 付加 (c) 耐火塗装を行う鋼材の錆止めは、耐火塗装の認定条件によるものとし、本節に該当する仕様がある場合は適用する。無い場合はメーカー仕様とする。
- 7.8.2 工場塗装の範囲
- 置換 (a) (7) 吹付け耐火被覆材が接着する面へのさび止め塗装は行わない。ただし、監理者と協議により承認が得られた範囲は除く。
- 付加 (a) (8) デッキプレート等を貫通してスタッドを溶接する場合の上フランジの表面

7.8.3 塗料の種類

(a) 素地調整及び錆止め塗料の選定

種別	錆止め塗料		回数	適用
	種別	錆止め塗料		
A種	○ JIS K 5625	シアナミド鉛さび止めペイント 2種	2	補修
	◆ JIS K 5674	鉛・クロムフリーさび止めペイント 1種		
B種	○ JASS 18 M-111	水系さび止めペイント		屋内
	○ JIS K 5674	鉛・クロムフリーさび止めペイント 2種		

素地調整 (JASS6 8節 表8.1)

- ◆ 2種
- 1種B

設備配管用スリーブの内面塗装

- ◆ 【表18.3.1】 B種
- 【表18.3.1】 A種
- 行わない

- 7.8.4 工事現場塗装
- 9節 耐火被覆 ……意匠図による
 - 10節 工事現場施工
- 7.10.1 適用範囲
- 7.10.2 建方精度
- 7.10.3 アンカーボルト等の設置
- (a) 構造用アンカーボルト(適用部位:)
- 建方用アンカーボルト(適用部位: エントランスホール柱)
- (b) アンカーボルト及びアンカーフレームの形状
- 構造用 ◆ 設計図による ○ ()
 - 建方用 ◇ 設計図による ● (施工時協議による)
- (c) アンカーボルトの保持及び埋込み工法
- 構造用 主架構柱(◆ A種 ○)
 - 二次部材(◆ B種 ○)
- 特殊アンカーボルトを用いる場合や特記以外の保持・埋込み工法とする場合は、監理者の承認を得ること。設備用アンカーボルト工事については設備図による。
- 建方用 ○ A種 ◆ B種 ○ C種
- (e) (1) 柱底均しモルタルの厚さ
- ◆ 50mm ● 30mm ○ 設計図による
- (e) (4) 柱底均しモルタルの工法
- ◆ A種 ○ B種

- 7.10.4 搬入及び建方準備
- 7.10.5 建方
- 置換 (g) 施工者は、本接合に先立ち、ひずみを修正し、建入れ検査を行い、施工管理記録を作成し、監理者に提出する。
- 11節 軽形鋼構造
- 7.11.1 適用範囲
- 7.11.2 施工
- 12節 溶融亜鉛めっき工法
- 7.12.1 適用範囲
- 付加 (c) 耐火塗装を行う鋼材の錆止めは、耐火塗装の認定条件によるものとし、本節に該当する仕様がある場合は適用する。無い場合はメーカー仕様とする。
- 7.12.2 施工管理技術者施工等
- 7.12.3 亜鉛めっき
- (a) 溶融亜鉛めっき
- 有り
 - 無し
- 適用範囲
- ◆ 屋外露出鉄骨部材 (使用箇所: 目隠し用下地鉄骨、設備架台、庇)
 - ()
- 付着量試験
- ◆ 行わない
 - 行う
- 7.12.4 溶融亜鉛めっき高力ボルト接合
- (a) 溶融亜鉛めっき高力ボルトの摩擦面の処理
- ◆ リン酸塩処理 ($\mu=0.4$ 以上)
- 資料等により確認できない場合は、すべり耐力試験等で確認すること。試験を行う場合は日本建築学会「高力ボルト接合施工ガイドブック」による。
- ◆ プラスト処理
- 7.12.5 搬入及び建方
- 7.12.6 締付けの確認

- 注意事項
- 設備関係
 1. 特記以外の梁貫通孔は設けない。設ける場合は構造設計者の承諾を得ること。
 2. 設備機器の架台及び基礎については構造設計者と打合せのこと。
 - その他

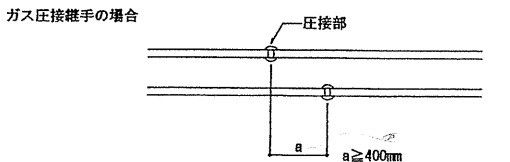
D41以下に適用し、冷間加工とする。

折曲げ角度	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法直径(D)
180°	SR235	16φ以下	3d以上
180°	SR295	D16以下	3d以上
135°	SD295A	19φ	4d以上
90°	SD295B	D19~D41	4d以上
90°	S0345	D19~D41	4d以上
90°	SD390	D41以下	5d以上
90°	SD490	D25以下	5d以上
90°	SD490	D29~D41	6d以上

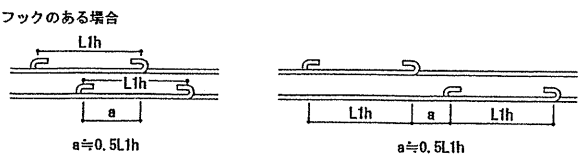
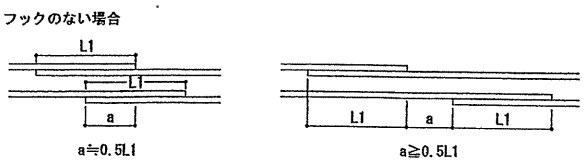
- (1) dは、丸鋼では径、異形鉄筋では呼び名に用いた数値とする。
- (2) スパイラル筋の重ね継手部に90°フックを用いる場合は、余長は12d以上とする。
- (3) 片持スラブ先端、壁筋の自由端部の先端で90°フックまたは135°フックを用いる場合は、余長は4d以上とする。
- (4) スラブ筋、壁筋には、溶接金網を除いて丸鋼を使用しない。
- (5) 折曲げ内法直径を上表の数値よりも小さくする場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い支障ないことを確認した上で、監理者の承認を得ること。
- (6) SD490の鉄筋を90°を超える曲げ角度で折曲げ加工する場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い支障ないことを確認した上で、監理者の承認を得ること。
- (7) 幅止め筋の90°フックまたは135°フックは余長を4d以上とする。

鉄筋種類	コンクリートの設計基準強度 Fc (N/mm ²)	定着長さ									
		重ね継手の長さ					一般				
		L1	L1h	L2	L2h	La	Lb	L3	L3h	L3	L3h
SD295A SD295B	18	45d	35d	40d	30d	20d	15d	15d	20d	10d	10d
	21	40d	30d	35d	25d	20d					
SD345	24, 27	35d	25d	30d	20d	15d	15d	20d	10d	10d	10d
	30, 33, 36	30d	20d	25d	15d						
SD390	39, 42, 45	30d	20d	25d	15d	15d	15d	20d	10d	10d	10d
	48~60	30d	20d	25d	15d						
SD490	21	50d	35d	40d	30d	25d	20d	25d	15d	15d	15d
	24, 27	45d	30d	35d	25d						
SD490	30, 33, 36	40d	30d	35d	25d	25d	20d	25d	15d	15d	15d
	39, 42, 45	35d	25d	30d	20d						
SD490	48~60	40d	30d	35d	25d	25d	20d	25d	15d	15d	15d
		30d	20d	25d	15d						

- (1) フック付き鉄筋の重ね継手長さL1hおよび定着長さL2hは、定着起点から鉄筋の折曲げ開始点までの距離とし、折曲げ開始点以降のフック部は定着長さに含まない。
- (2) フック部の折曲げ内法直径Dおよび余長は、RCA-003「鉄筋の折曲げ最小値」による。
- (3) 梁主筋を柱へ定着する場合、水平定着長さL2hとし余長を8d以上とするか、または全定着長をL2以上とするか、水平定着長さをLaとし、余長を8d以上とする。
なお、Laの値は原則として柱径の3/4倍以上とする。
- (4) 耐圧スラブの下端筋の定着長さは一般定着(L2)とする。
- (5) 片持スラブ及び片持スラブの下端筋定着長さは、< >内寸法とする。
- (6) 保有水平耐力計算を行わない場合の直線重ね継手長さは、40dかつ上表の数値以上とする。施工者は次の指示による。
○ 上表による ○ 最小値を40d(軽量コンクリートを使用する場合は50d)とする



重ね継手の場合(下図のいずれかによる) ただし、壁とスラブは除く



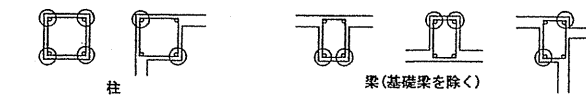
鉄筋相互のあきは下記の値のうち最大のもの以上とする。

- ・丸鋼では径の1.5倍、異形鉄筋では呼び名の数値の1.5倍
- ・粗骨材の最大寸法の1.25倍
- ・25mm

2段筋のあき寸法 a は、上記の各種のうちの最大値とする。ただし、主筋と帯筋またはあばら筋のフックが干渉する場合は、aを40mm程度とする。

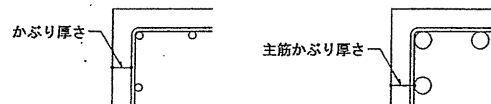
下記に示す鉄筋の末端部には、フックをつける。

- (1) 丸鋼
- (2) あばら筋及び帯筋
- (3) 柱及び梁(基礎梁を除く)の出隅部の鉄筋を重ね継手とする場合(下図○印)
- (4) 柱の出隅部の主筋で最上階(上に柱のない場合も含む)の柱頭部
- (5) 煙突の鉄筋

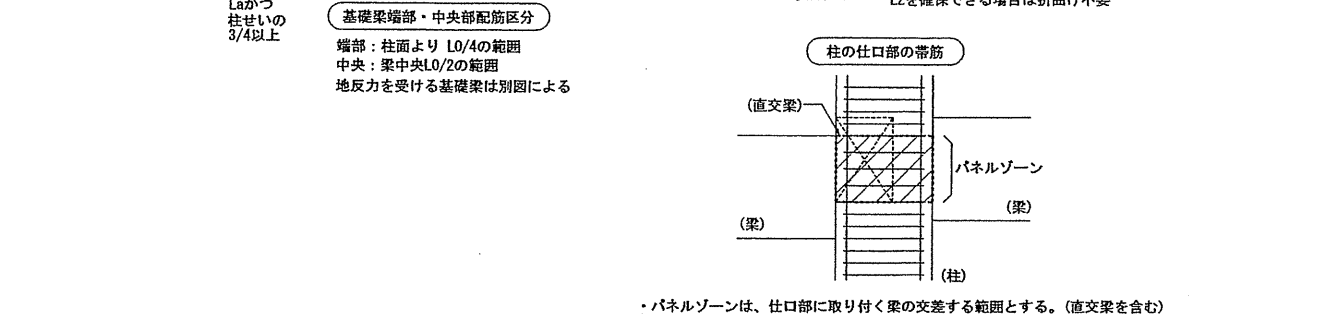
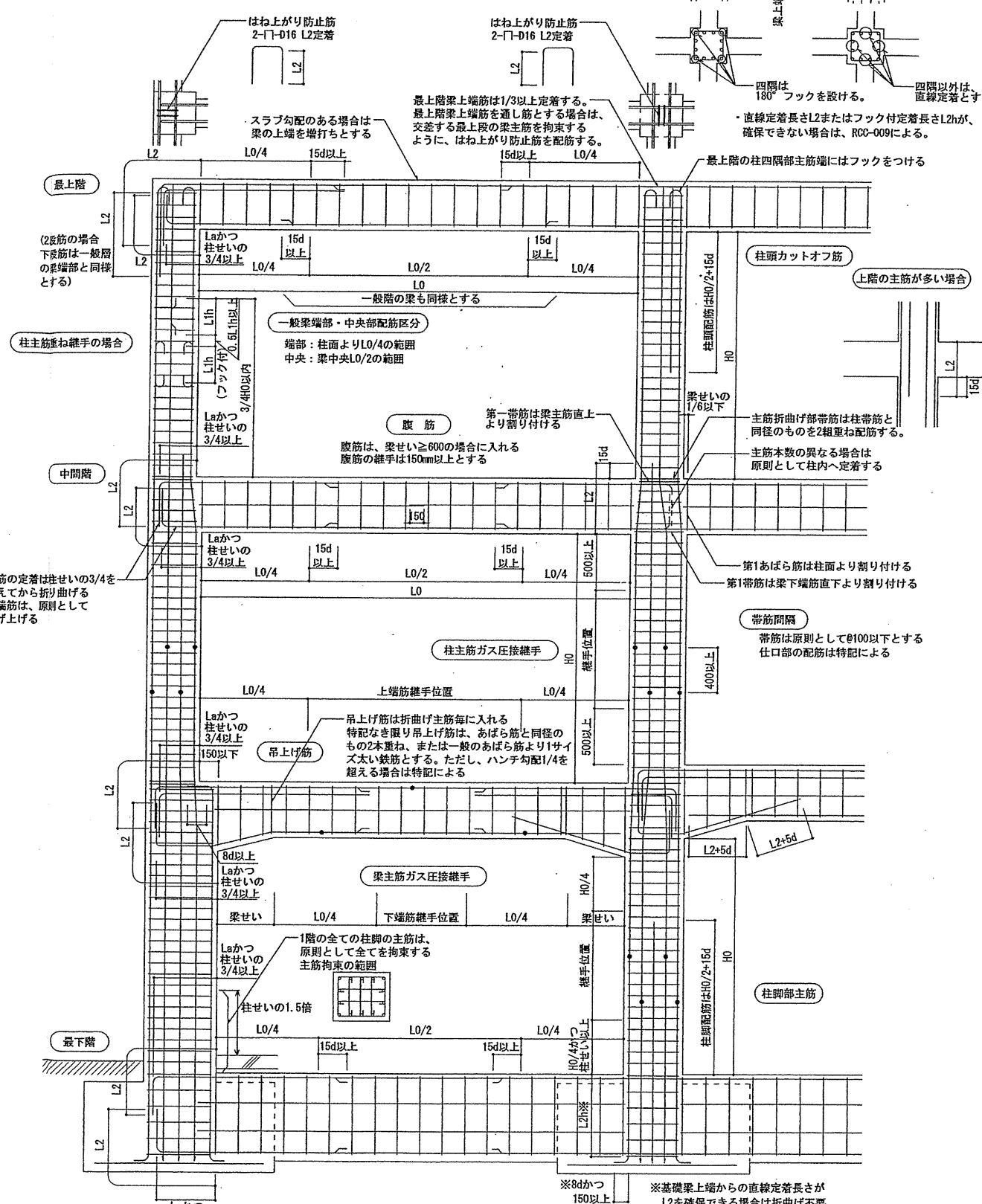


部 位	計画供用期間の級	
	標準・長期	超長期
土に接しない部分	スラブ・非耐力壁	屋外 30 (20) 40 (30)
		屋外 40 (30) 50 (40)
	柱・梁・耐力壁	屋外 40 (30) 40 (30)
土に接する部分	柱・梁・スラブ・壁	50 (40) 50 (40)
	基礎・擁壁	70 (60) 70 (60)
	場所打ちコンクリート杭	100 (60) 100 (60)

- (1) ()内は、最小かぶり厚さを示し、コンクリートの打込み後、確保すべき最小値である。
- (2) 主筋のかぶり厚さは径の1.5倍以上とする。(D38以上を使用する時注意)



- ・本図は部分規定をラーメン形に集約したものである。
- ・本図は、大梁などの主筋に異形鉄筋を使用する場合に適用する。
- ・柱梁接合部に機械式定着工法を適用する場合、各機械式定着工法に定める規定を満足すること。



- ・パネルゾーンは、仕口部に取り付く梁の交差する範囲とする。(直交梁を含む)
- ・パネルゾーンの帯筋比は、0.2%以上とする。パネルゾーンの帯筋の配筋要領は設計図による。

柱脚筋の定着

基礎梁主筋の継手位置

梁貫通孔の可能範囲

基礎梁の通気管と通気管

杭基礎の配筋要領

基礎梁の配筋要領

梁貫通孔の補強要領

置スラブのシャーコネクター

基礎と基礎梁の納まり要領

基礎梁の配筋要領 (地反力を受ける基礎梁)

梁貫通孔の補強要領一覧表

この標準図は、RCG-009の梁せいと貫通孔径の関係を表にしたものである。表中のA、B、CはRCG-009の補強方法を示す。(補強Cは梁中央部のみ可能)
この表は、RCG-008およびRCG-009と共に使用する。

梁径D (mm)	孔径h (mm)																
	50	75	100	125	150	175	200	225	250	275	300	350	400	450	500	550	600
450未満	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
450 ≤ D < 500	A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
500 ≤ D < 525	A	A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
525 ≤ D < 600	A	A	B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
600 ≤ D < 625	B	B	C	C	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
625 ≤ D < 675	A	B	C	C	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
675 ≤ D < 700	A	B	C	C	C	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
700 ≤ D < 750	A	B	B	C	C	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
750 ≤ D < 800	A	A	B	C	C	C	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
800 ≤ D < 825	A	A	B	B	C	C	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
825 ≤ D < 900	A	A	B	B	C	C	C	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
900 ≤ D < 1000	A	A	B	B	C	C	C	C	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1000 ≤ D < 1050	A	A	B	B	B	C	C	C	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1050 ≤ D < 1100	A	A	B	B	B	B	C	C	C	-	-	-	-	-	-	-	-
1100 ≤ D < 1200	A	A	B	B	B	B	B	C	C	C	-	-	-	-	-	-	-
1200 ≤ D < 1250	A	A	B	B	B	B	B	B	C	C	C	-	-	-	-	-	-
1250 ≤ D < 1350	A	B	B	B	B	B	B	B	B	C	C	-	-	-	-	-	-
1350 ≤ D < 1400	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	C	C	-	-	-	-	-
1400 ≤ D < 1500	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	C	C	-	-	-	-
1500 ≤ D < 1600	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	C	C	-	-	-
1600 ≤ D < 1650	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	C	C	-	-
1650 ≤ D < 1750	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	C	C	-
1750 ≤ D < 1800	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	C	C
1800 ≤ D < 2000	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	C
2000 ≤ D < 2200	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)
2200 ≤ D < 2400	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)
2400以上	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)	(B)

①は、孔径150以下、かつ梁径の1/10以下の場合の補強不要範囲
②は、①以外で孔径100以下、かつ梁径が600以上の場合の補強不要範囲
③は、①以外で孔径が200以下、かつ梁径の1/10以下の場合で、あばら筋のピッチが孔径以上の場合の補強不要範囲、ただしあばら筋のピッチが孔径より小さい場合は、補強Bとする。

ピット等の配筋要領

確認申請図 2012.09.24
見積図
契約図 2012.10.01
竣工図 2013.08.31
当圖作成日 2013.08.31

設計番号 01-28350-000
島嶼会館建設工事

【竣工図】
発行日 2013.08.31

図面名称 配筋標準図(杭・基礎)

縮尺 C-007-1
A0009

原則として梁内に定着するか、通し筋とする。スラブ筋の1/2以上通し筋とする。

スラブ端部の定着

増打ち補強がある場合のスラブ端部の定着

増打ち補強がない場合のスラブ端部の定着

・梁上増打ち補強は、RCG-007参照

(1) 斜め補強筋タイプ

(2) 直交補強筋タイプ

・(1)~(3)は壁がない場合、(4)は壁がある場合を示す

・上記以外の場合は構造図による

(1) $0 \leq h \leq 30$ mmかつスラブ下端筋が梁主筋の下を通る場合

(2) $h > 30$ mmかつスラブ下端筋が梁主筋の下を通る場合

(3) $h < t + 70$ mmかつスラブ下端筋が梁主筋の上を通る場合

(4) $h < 3t$ かつ $t_2 > t_1$

・大梁上補強要領

・スラブ筋がD10の場合は、右下図の要領によりスラブ筋の間に補強筋を入れる。

・スラブ筋がD10-φ100以下の場合は、補強筋は不要とする。

床スラブの段違い補強 R C S - 0 0 4

(1) $H \leq t/2$

(2) $t/2 < H \leq t$

(3) $t < H \leq 2t$

(4) $2t < H$

・上記以外の場合は構造図による

スラブ開口部補強 R C S - 0 1 0

開口径 ≤ 600 の場合

開口の最大径が600以下の場合は開口によって切られる鉄筋と同量以上の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め補強筋各1-D13(計2本)かつスラブ筋と同径以上をスラブ上端筋の下に結束する

小開口が連続する場合

小開口が梁際にある場合

溶接金網の定着・継手長さ R C A - 0 1 1

溶接金網の定着の長さ

溶接金網の重ね継手方法(継手の中の横線数 2本以上)

(a) 同方向重ね継手

(b) 向い合せ重ね継手

(c) 背中合わせ重ね継手

(d) 重ね継手平面

デッキ合成スラブ補強要領 R C S - 0 1 8

・本図は鉄骨造の場合に適用する

合成スラブの隅角部補強要領

デッキ型枠スラブの隅角部補強要領

床スラブの壁受け部補強 R C S - 0 0 5

・壁筋の床スラブへの定着は左右交互とする。

バルコニーなどの誘発目地(1) ($L \leq 2000, H \leq 1200$) R C W - 0 1 1

バルコニーなどが長手方向に連続する場合

誘発目地の深さはスラブ上端は25、下端は15、手摺壁は両面共15とする。

誘発目地の位置で、スラブと手摺壁の横筋を全数切断する。

増打ちはスラブ下面のみとする。

t_1, t_2 の厚さはスラブリストによる。ただし、 $t_2 \geq 170$ とする。

誘発目地設置位置については、RCW-011Aを参照する事。

地震時の上下動やクリープ変形などが懸念される場合には、構造設計者の指示によりスラブの下端にダボ筋を入れる。

バルコニーなどの誘発目地(2) R C W - 0 1 1A

・手摺壁や片持スラブの長さが4mをこえる場合は、誘発目地を4m以内に1ヶ所設ける。

・目地の位置、形状については設計者と打ち合せの事。

・目地は手摺壁・スラブ連続の事。

・避難用開口部の両側1m以内には誘発目地を設けない。やむを得ず開口部に誘発目地を設ける場合は、開口部の中央に設ける。

・即座にフレイズなど小開口の場合は、開口の近くに目地を設ける事が望ましい。

・誘発目地周りの詳細については、RCW-011を参照する事。

壁壁・立上り壁の配筋要領 R C W - 0 2 5

土間コンクリート又はスラブからの立上り壁

梁からの立上り壁

スラブ小開口の補強要領 R C S - 0 1 0A

小開口が1つの場合(小開口の大きさは、直径または対角線が300以下とする)

・スラブ筋を切断した場合は、切断した鉄筋量以上を開口部に配筋する

・鉄筋が開口に当たる場合は必ずしもよい(隣接する鉄筋との間隔は50mm以上とする)

TAISEI For a Lively World

TAISEI CORPORATION
TAISEI DESIGN
Planners Architects & Engineers

大成建設株式会社一級建築士事務所
〒163-0606新宿区西新宿1-25-1
URL: http://www.taisei.co.jp

一級 第233690号
構造設計 一級 第5617号
設計 井上 慶一 氏
担当 宮原 貴昭 氏

確認申請図 2012.09.24
見積図
契約書 2012.10.01
竣工図 2013.08.31
当圖作成日 2013.08.31

設計番号 01-28350-000

高嶺会館建設工事

【竣工図】
発行日 2013.08.31
図面名称
配筋標準図(床スラブ)

縮尺

G-008

小底・花台などの配筋要領

設備基礎 3

名称	設置階	A	B	H
給水ポンプ	M 6	900	1400	200
ろ過器	M 6	1300	1300	200

梁貫通孔補強 ② 2面プレート

梁せい	390			600 (582~600)			700		
ウェブ厚	10	16	25	13	16	19, 22			
D	150	250	200	250	300	250	300	250	300
t	2x9	2x12	2x12	2x16	2x12	2x16	2x16	2x19	2x22
a	300	500	450	500	530	500	530	500	530

床スラブの段違い補強

スラブ段差コーナ一部補強要領

上記以外の場合は特記による

設備基礎 1

名称	設置階	A	B	C	H

R/C屋上立上り配管貫通孔廻り

詳細寸法は建築図参照

鉄骨造のバラベツ

バラベツ天端の誘発目地配筋要領 (A) TYPE

バラベツの誘発目地配筋要領

誘発目地は、約3mピッチで設けること
 ・バラベツの誘発目地部分のよこ筋を切断する
 ・バラベツ天端のよこ筋も切断する (A) TYPE
 ・防水層をバラベツ天端で止める場合の誘発目地範囲については、意匠図参照 (B) TYPE
 ・立上りコンクリートは屋根スラブと同時打ちとする
 ・止むを得ず打ち継ぐ場合は、屋上スラブ面より100mm程度上部で外勾配をつけて打ち継ぐ
 ・バラベツの詳細寸法については意匠図参照
 ・吊り金物がある場合はRCW-010A参照

梁貫通孔の可能範囲

貫通孔間隔はhの平均値の3倍以上

本図は鉄骨造の梁のみに適用する。(鉄骨鉄筋コンクリート造の鉄骨梁は適用外) 上記の条件に適合しない場合は設計者の承認を得ること。

設備基礎 2

名称	設置階	TYPE	A	B	C	H	P	個数
キュービクル	M 6	1	500	3000	150	900	2500	2
			500	2700	150	900	2500	2
			500	2000	150	900	2500	2
燃料小出槽	M 6	1	350	3100	150	500	2000	2
発電機	M 6	1	350	2900	150	500	1100	2
受水槽	M 6	1	350	3400	150	500	2000	2
空調屋外機	M 6	1	350	2600	150	500	2300	3
ガス給湯器	M 6	1	500	1000	150	500	2000	4
			500	1000	150	500	1200	2

梁貫通孔補強 ① 1面プレート

梁せい	390			600 (582~600)		
ウェブ厚	10	12以下			16	
D	100	100	150	200	250	100
t	9	9	9	12	16	12
a	290	270	380	450	500	270

梁せい	700		
ウェブ厚	13		
D	100	150	200
t	9	9	12
a	280	380	450

鉄骨造のバラベツ (ダブルバラベツの場合)

※外壁がALCの場合は、持出し長さは厚さの6倍以下とする

誘発目地は、約3mピッチで設けること
 ・バラベツ天端のみ、よこ筋を切断する

バラベツ天端の誘発目地配筋要領 (A) TYPE

立上りコンクリートは屋根スラブと同時打ちとする
 止むを得ず打ち継ぐ場合は、屋上スラブ面より100mm程度上部で外勾配をつけて打ち継ぐ
 ・バラベツの詳細寸法については意匠図参照
 ・吊り金物がある場合はRCW-010A参照

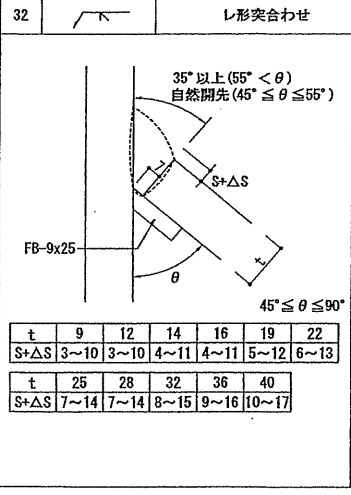
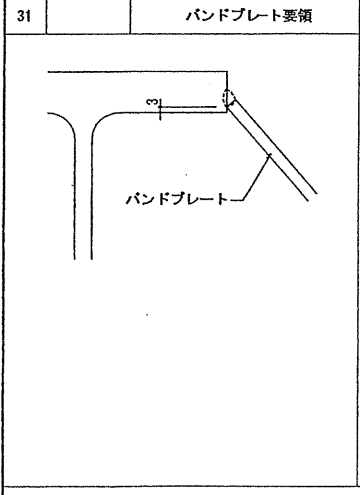
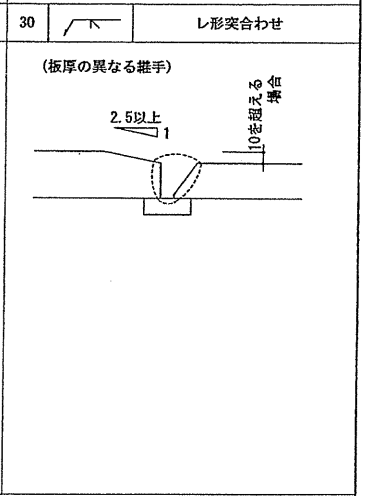
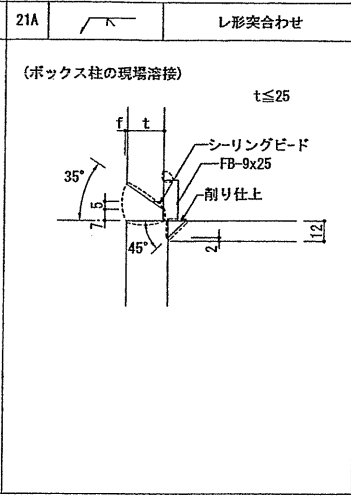
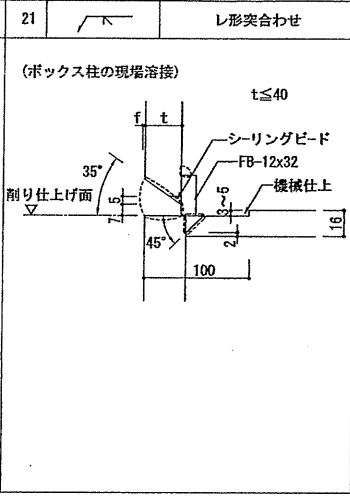
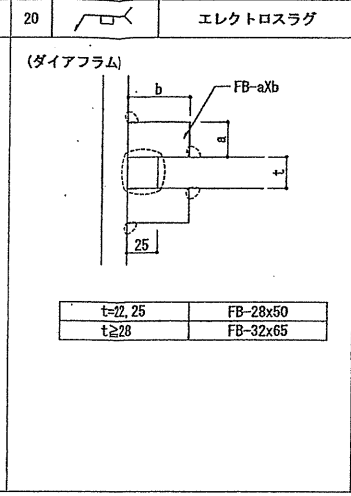
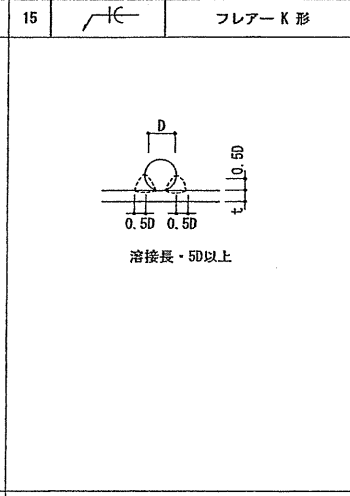
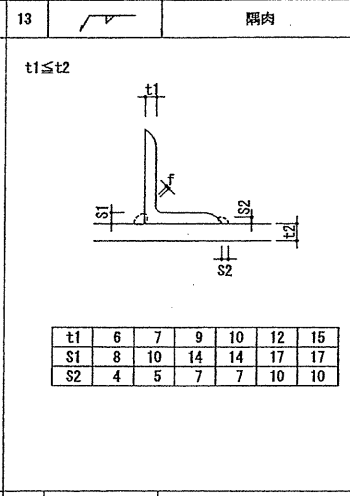
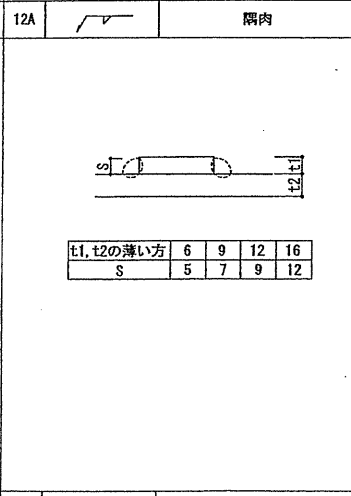
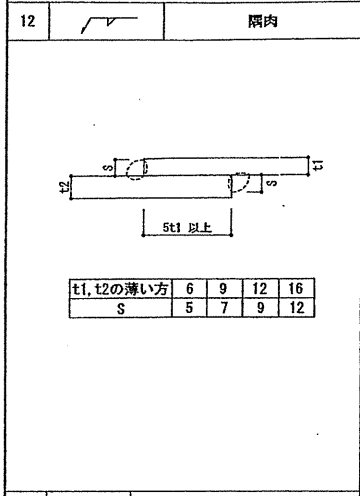
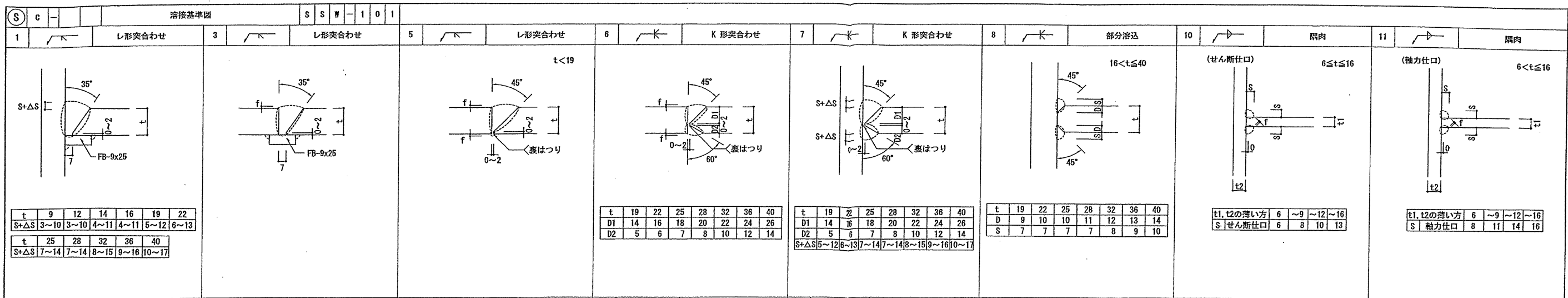
竣工図

竣工日 2013. 08. 31

図面名称

配筋標準図 (設備基礎等)

縮尺



告示1464号による鉄骨溶接部の製作誤差許容値

・H12建告1464号の第二号のイの検査方法及び補強方法等については、「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」を適用する。

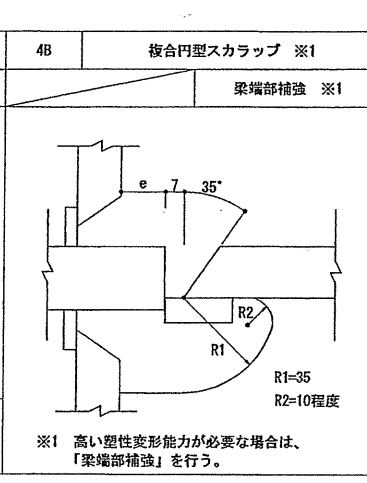
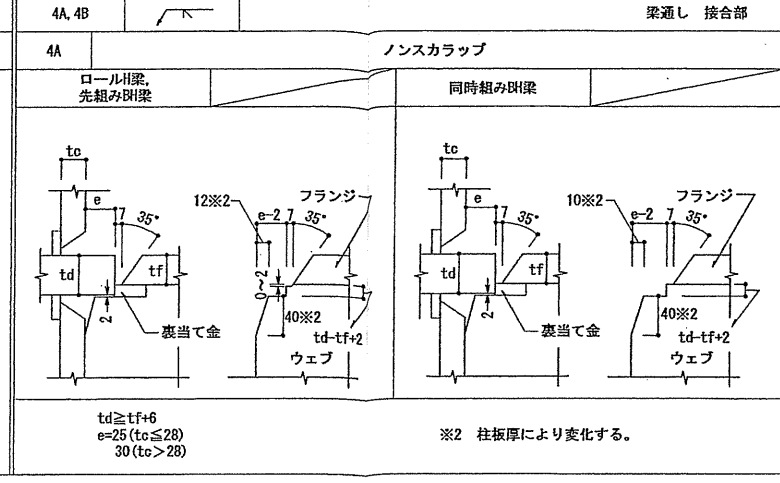
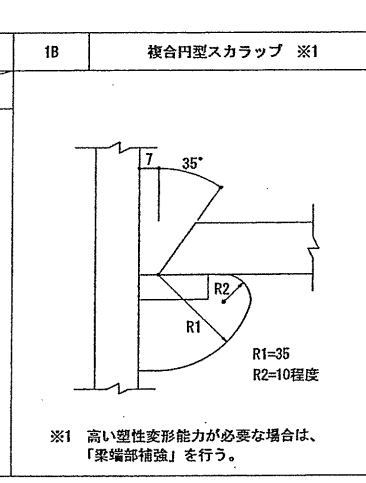
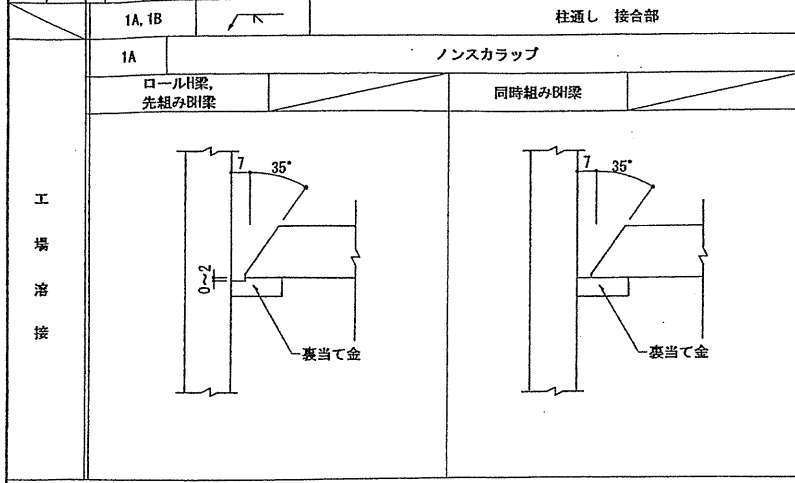
名称	凡例図	許容値
1. 仕口のずれ(ダイヤフラムとフランジのずれ) e		$t1 \geq t2$ $e \leq t1/5$ かつ $e \leq 4mm$ $t1 < t2$ $e \leq t1/4$ かつ $e \leq 6mm$
2. 突合せ継手の食い違い e		$t \leq 15mm$ $e \leq 1.5mm$ $t > 15mm$ $e \leq t/10$ かつ $e \leq 3mm$
3. アンダーカット e		$e \leq 0.3mm$ アンダーカット部分の長さの総和が溶接部分全体の長さの10%以下であり、かつその断面が鋭角的でない場合にあっては、アンダーカットの深さを1mm以下とする事ができる

共通事項

- 本溶接基準図は特記なき場合は、手溶接又はCO2 半自動溶接とする。
- 適用板厚は原則として6mm以上かつ40mm以下とする。
- 本溶接基準図は400N/mm² 級鋼及び490N/mm² 級鋼を対象としている。
- 溶接材料の強度は母材の強度以上とする。
- 裏当て金の材質は母材と同等以上の材を使用することを原則とする。取付は断続隅肉溶接とする。
- 裏当て金のない完全溶込み溶接は裏はつり後、裏溶接とする。
- 裏はつりは切屑部を除去し、裏開先の底部をU型とすること。
- 余盛りの値はJASS6による。
- 組立溶接の脚長は4mm以上、ビード長さは40mm以上とし、原則として母材の開先内には行わない。
- 本溶接基準図の内容を変更する場合は、必ず構造設計者の承諾を得ること。

溶接ワイヤの使用区分(JIS Z3312)

	溶接条件		適用鋼材の引張強さ	
	入熱(kJ/cm)	バス間温度(°C)	400N/mm ² 級	490N/mm ² 級
1	15~20	≤150	YGW-11, 15, 18, 19	YGW-11, 15, 18, 19
2	15~30	≤250	YGW-11, 15, 18, 19	YGW-11, 15, 18, 19
3	15~40	≤350	YGW-11, 15, 18, 19	YGW- 18, 19



【共通事項】

- 「現場溶接」タイプについて高い塑性変形能力が必要な場合は、いずれかの「梁端部補強」タイプを選択のこと。
- 梁端部補強における図中のS0～S3およびB0の寸法は梁リストによる。
- 原則として、裏当て金の形状はFB-9x25とする。

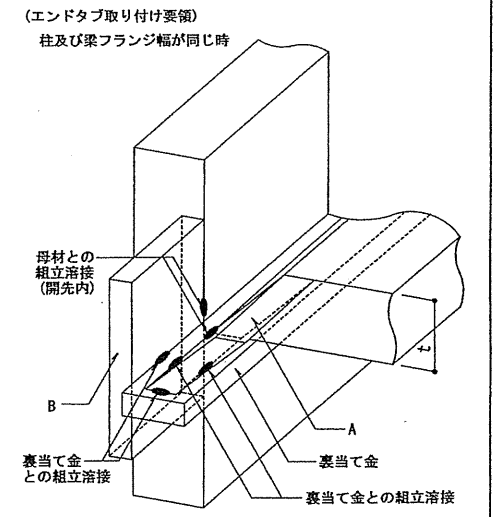
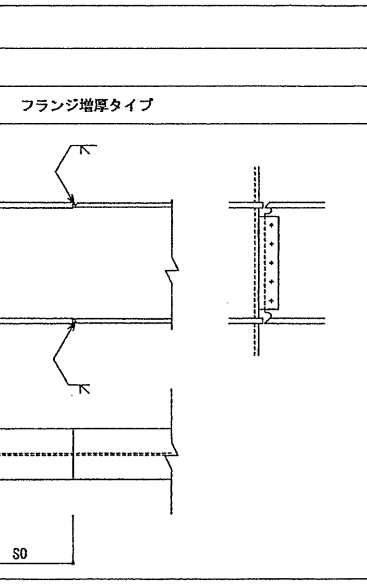
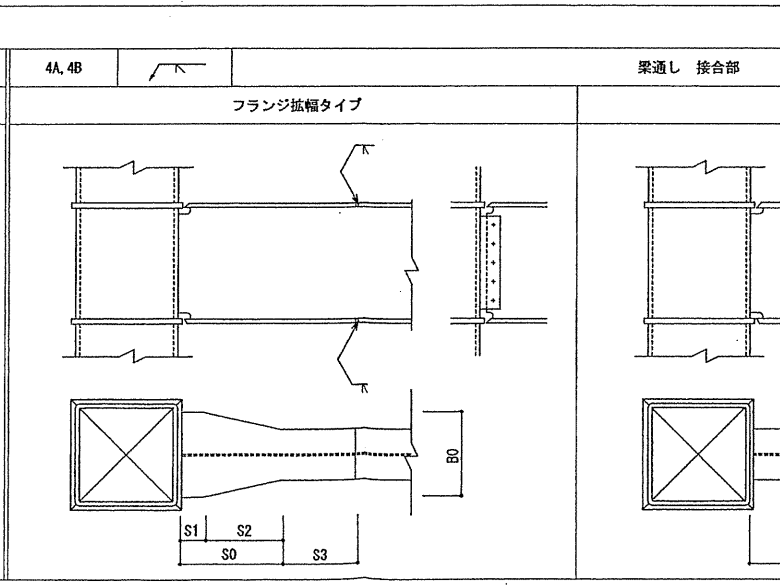
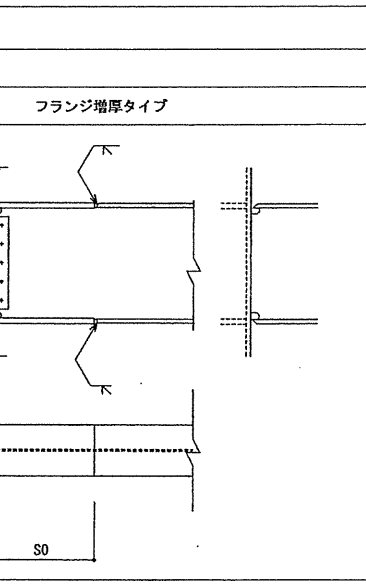
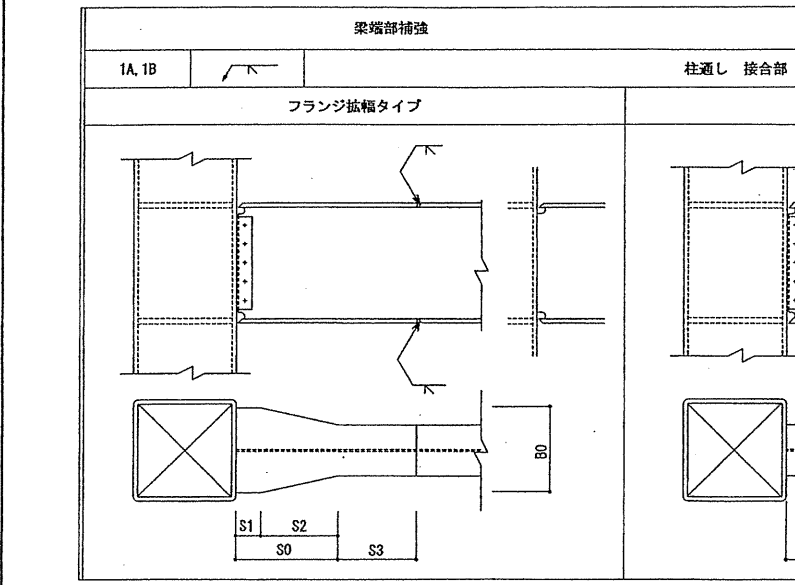
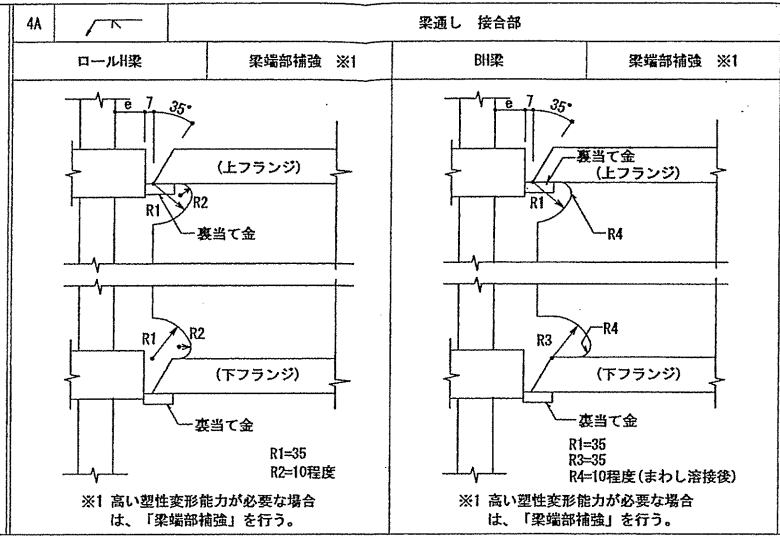
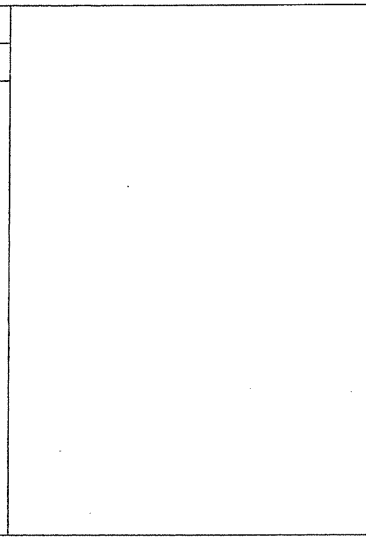
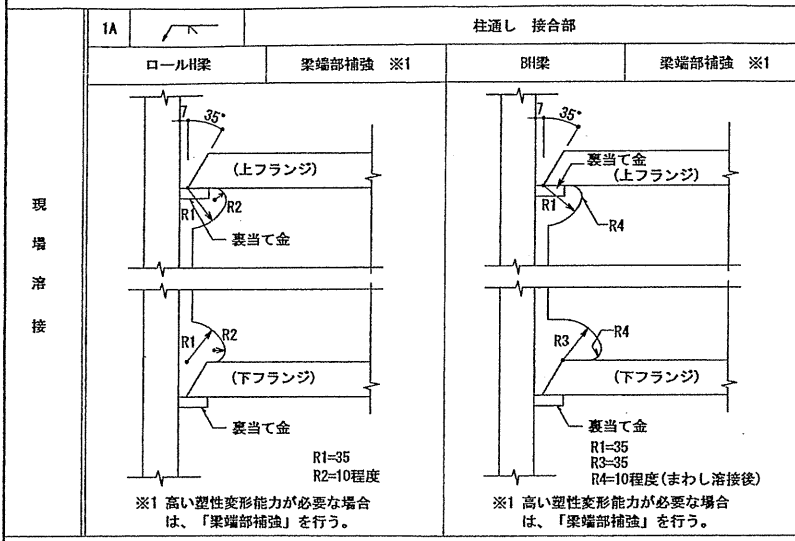
TAISEI
For a Lively World

TAISEI CORPORATION
Planners Architects & Engineers

大成建設株式会社 一級建築士事務所
〒163-0606 新宿区西新宿1-25-1
URL: http://www.taisei.co.jp

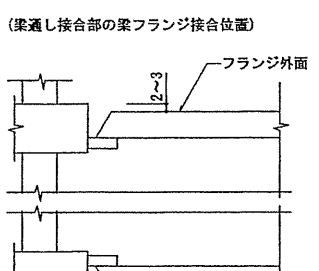
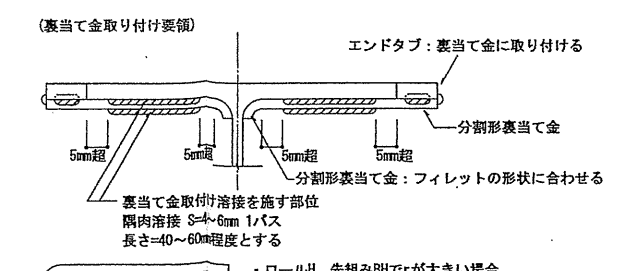
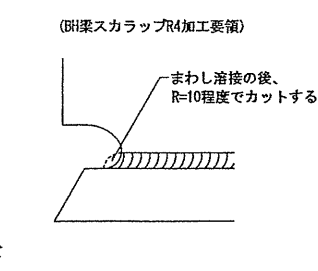
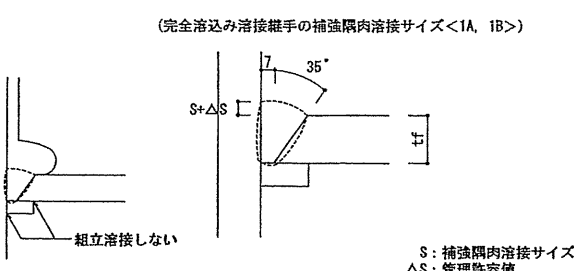
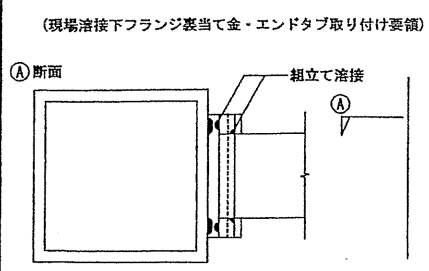
一級 第233690号
構造設計一級 第5617号

設計 井上 豊一 氏
担当 宮原 貴昭 氏



確認申請図	2012.09.24
見積図	
契約図	2012.10.01
竣工図	2013.08.31
当図作成日	2013.08.31

設計番号 01-28350-000



tf	9	12	14	16	19	22	25	28	32	36	40
S+ΔS	3~10	3~10	4~11	4~11	5~12	6~13	7~14	7~14	8~15	9~16	10~17

- ・ロールH、先組みBHでrが大きい場合
- ・ロールH、先組みBHでrが小さい場合
- ・同時組みBHの場合

t	36mm未満	36mm以上
A	12x38	12x50
B	9x38x70	9x50x70

- ・エンドタブは裏当て金に取り付けることとし母材に直接取付けないこと。
- ・エンドタブを切断する場合は5mm残して切断する。
- ・代替エンドタブの使用については構造設計者の承諾を得ること。

島嶼会館建設工事

【竣工図】
発行日 2013.08.31
図面名称
柱梁接合部溶接基準図

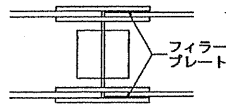
一般事項

1. 梁継手は第1種保有力継手である。適用可能スパンは、梁内法長さ3.5m以上かつ、梁せいの5倍以上とする。また、端部・中央で部材断面が異なる場合は、端部断面で継手を決定する。
2. 柱継手はボルト孔を控除した全軸力継手である。
3. 高力ボルトは、日本鋼構造協会規格JSS II 09(トルシア形高力ボルト)S10Tまたは、日本工業規格JIS B1186(摩擦接合用高力六角ボルト)F10Tとする。
4. スプライスプレートの材質は母材と同材質とする。
5. 継手部のクリアランスは10mmとする。
6. 摩擦面の処理

- (1) 摩擦面の処理は、平グラインダなどにより黒皮などをスプライスプレート全面の範囲について除去した後、自然発生の赤さび面、またはショットプラスト面とする。サンドプラスト面は不可とする。
- (2) 浮きさびとなった物は、ワイヤーブラシで清掃する。
- (3) 摩擦面には、塗料を塗布してはならない。
- (4) 溶融亜鉛めっきの場合は、摩擦面はめっき後軽くプラスト処理を施す。プラスト以外の特別な処理を施す場合は、その方法を特記する。

7. 継手部に1mmを超える板厚差がある場合は、以下の表によりフィラープレート挿入する。フィラープレートの表面の状態は、両表面とも部材の接合面と同仕様とする。フィラープレートの材質は、母材の種類によらずSS400材としてよい。

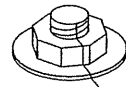
板厚の差 Δt (mm)	フィラープレート厚 (mm)
1 < Δt ≤ 2.4	1.6
2.4 < Δt ≤ 3.9	3.2
3.9 < Δt ≤ 5.3	4.5
5.3 < Δt ≤ 6.8	6
6.8 < Δt ≤ 8.3	6+1.6
8.3 < Δt ≤ 10	9



8. 高力ボルトの締付け

締付けに先立ち、施工条件に見合った条件下でボルトに導入される軸力の確認試験を行う。1次締付け終了後(下表参照)にボルト・ナット・座金から部材表面にわたるマークを付ける。本締め完了後にマークのずれによって共回り・軸回りの有無、ナット回転量を目視検査する。

ボルトの呼び径	1次締付けトルク値
M16	約 100N・m
M20	約 150N・m
M22	約 150N・m



9. 高力ボルトの諸元は下記の通りとする。

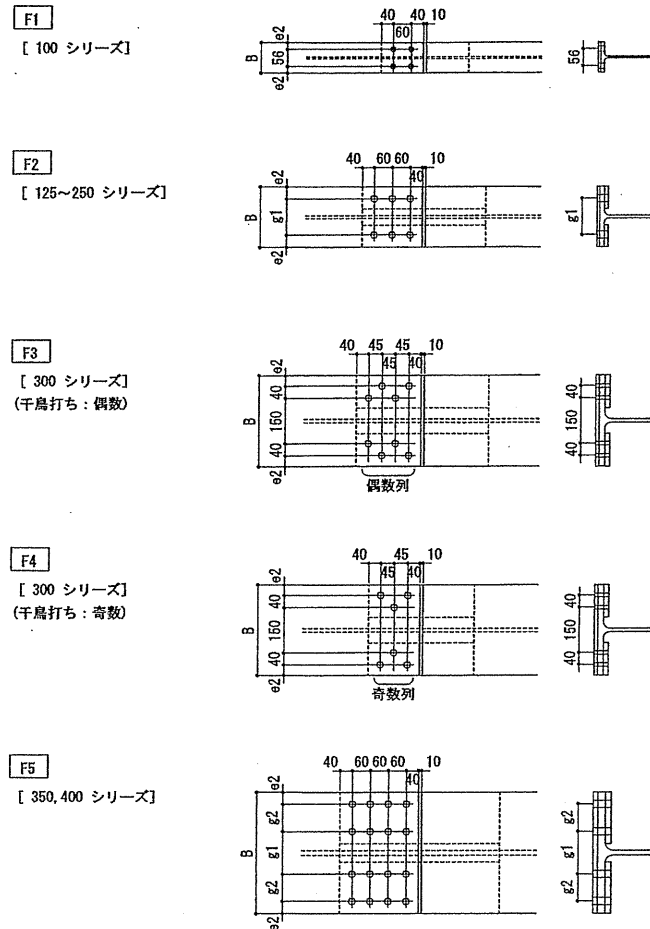
呼び径	ボルト孔径 φ (mm)	標準ピッチ P (mm)	標準はしあき e1 (mm)	最小へりあき e2 (mm)
M16	18.0	60	40	22.0
M20	22.0	60	40	27.5
M22	24.0	60	40	32.5

10. フランジ幅による諸元は下記の通りとする。

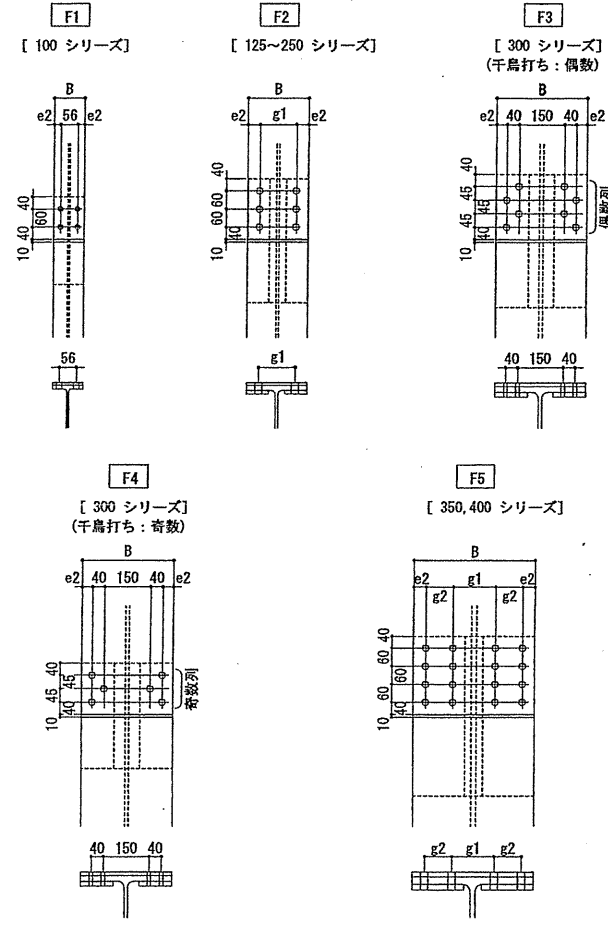
H形鋼 フランジ幅	高力ボルト使用区分			ゲージ		添板幅		ボルト配置
	M16	M20	M22	g1	g2	外側	内側	
100 シリーズ	○	△	△	56	100			1列
125 シリーズ	○	△	△	75	125			
150 シリーズ	○	○	△	90	150	60		
175 シリーズ	○	○	△	105	175	70		
200 シリーズ	○	○	○	120	200	80		
250 シリーズ	○	○	○	150	250	100		
300 シリーズ	○	○	○	150	40	300	110	千鳥打ち
350 シリーズ	○	○	○	140	70	350	140	
400 シリーズ	○	○	○	140	90	400	170	

11. 梁の継手基準図は原則として建設省住宅局建築指導課監修鉄骨構造標準接合部委員会「鉄骨構造標準接合部H型鋼編(SCSS-H97)」に基づいて定めている。

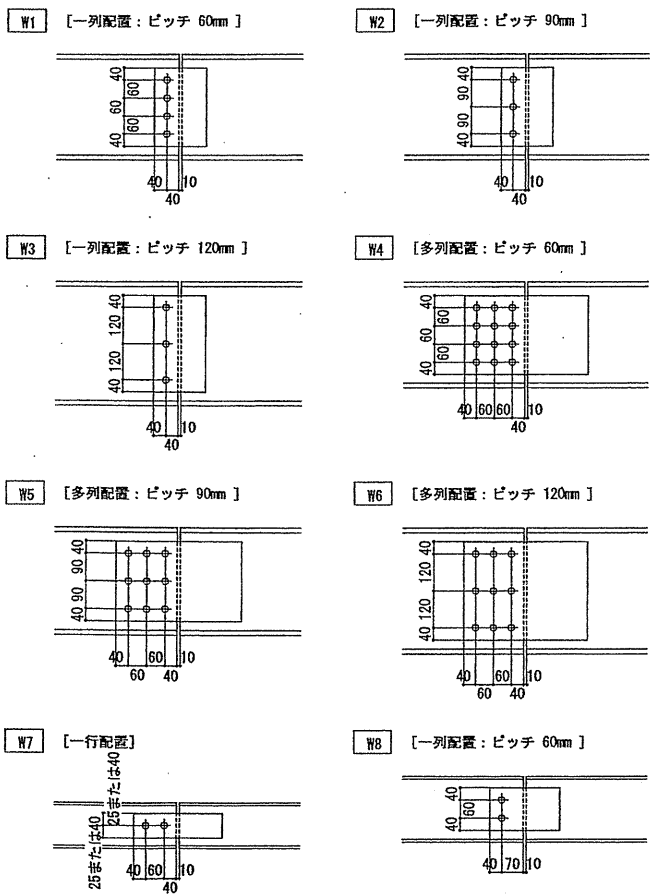
梁フランジ高力ボルトの配置



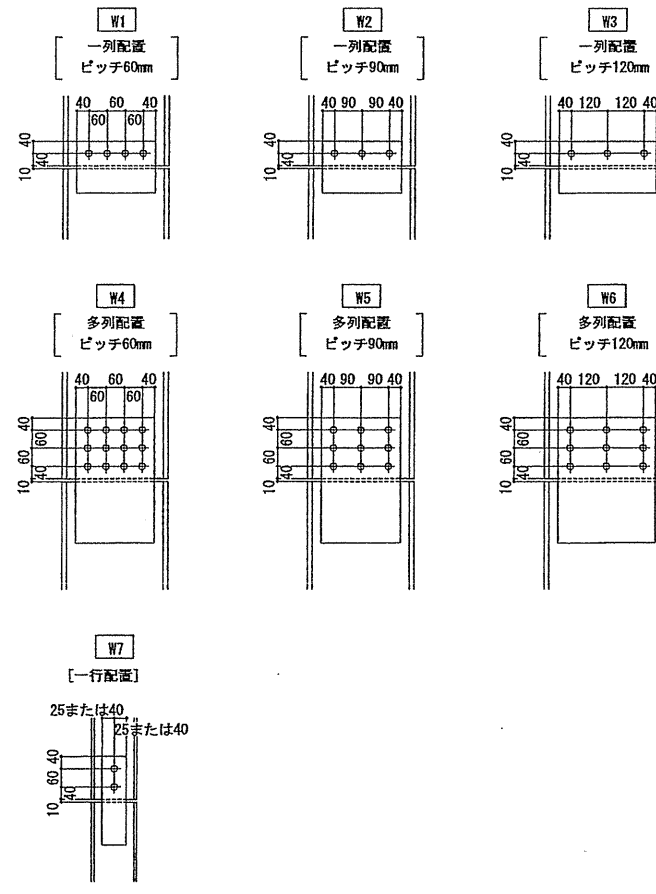
柱フランジ高力ボルトの配置



梁ウェブ高力ボルトの配置



柱ウェブ高力ボルトの配置



TAISEI CORPORATION
TAISEI DESIGN
Planners Architects & Engineers

大成建設株式会社一級建築士事務所
〒163-0606 新宿区西新宿1-25-1
URL: http://www.taisei.co.jp

一級 第233690号
構造設計一級 第5617号
設計 井上 慶一
担当 宮原 貴昭

確認申請日 2012. 09. 24
見積日
契約日 2012. 10. 01
竣工日 2013. 08. 31
当図作成日 2013. 08. 31

図号 01-28350-000

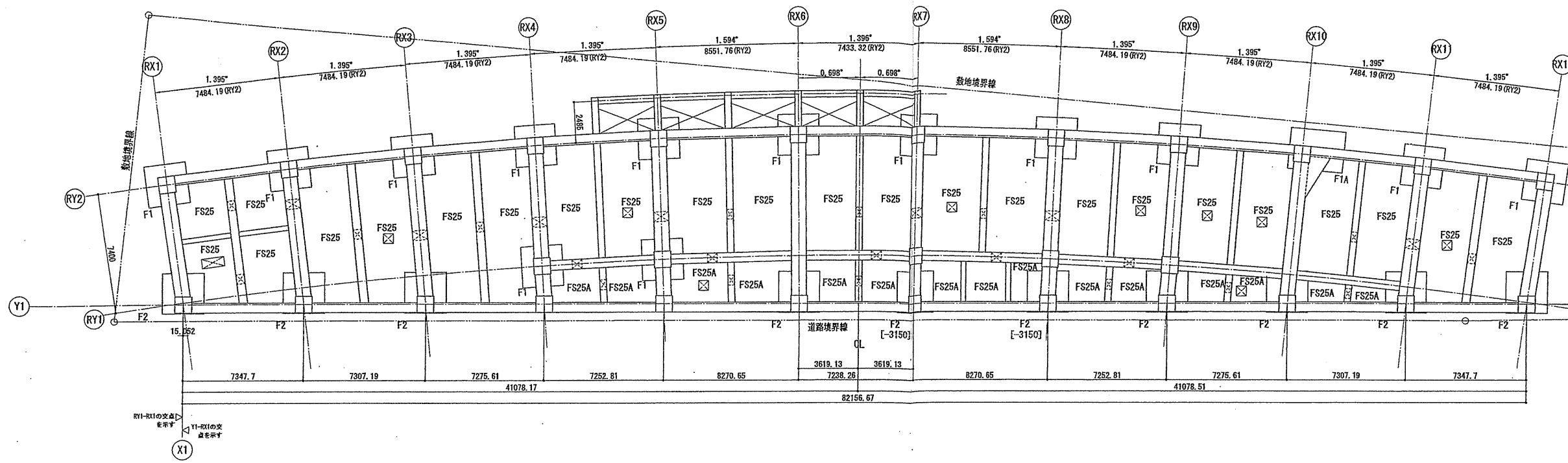
鳥嶋会館建設工事

【竣工図】
発行日 2013. 08. 31

図面名称

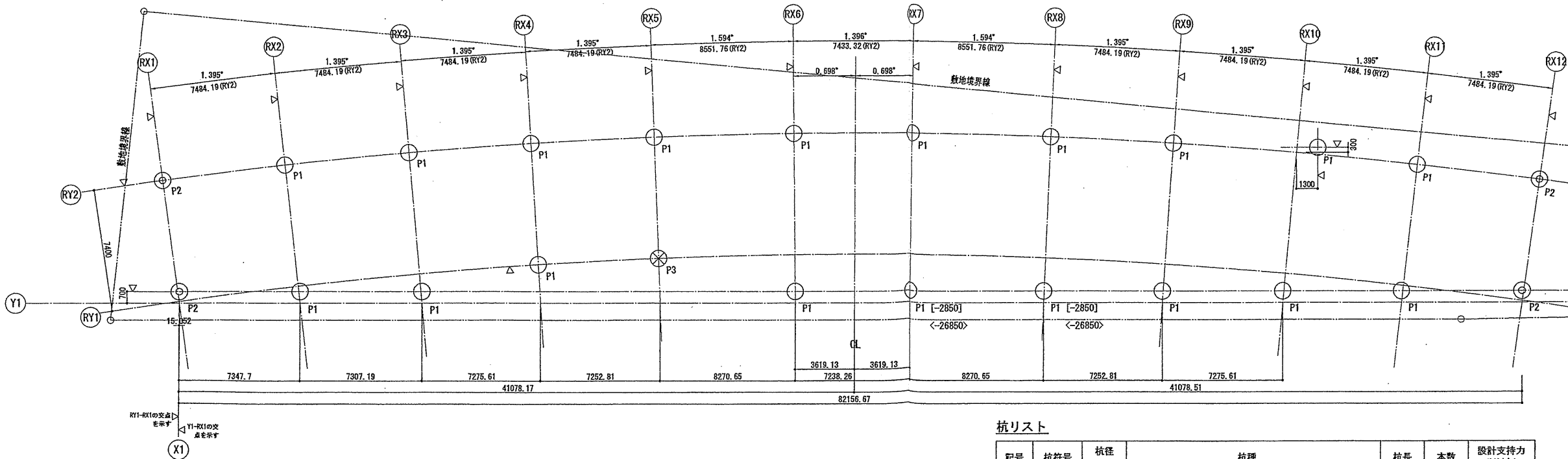
鉄骨継手基準図

縮尺



基礎及びピット伏図 1/150

- 特記外は下記に依る
- ・IFL=GL+200
 - ・底盤天端レベル FL-1980
 - ・//// 部底盤天端レベル FL-1250まで増打
 - ・基礎下端レベル GL-2430
 - ・[]内はGLからの基礎下端レベルを示す。
 - ・[]部は埋戻しを示す。
 - ・[]部は人通孔を示す。
 - ・[]部は垂場を示す。



杭伏図 1/150

- 特記外は下記に依る
- ・杭工法 Superニーディング工法 ($\alpha=425$ Grade A)
 - ・杭頭レベル GL-2130
 - ・[]内はGLからの杭頭レベルを示す。
 - ・< >内はGLからの杭先端レベルを示す。
 - ・▷ は杭心を示す。

杭リスト

記号	杭符号	杭径 (mm)	杭種	杭長	本数	設計支持力 (kN/本)
○	P1	1000	上杭 Hi-SC105(SKK490) 1000φ t=12 L= 5.0m	24.0m	19本	5600
			中杭 MS-TS105 φ90100 B種 L= 10.0m			
			下杭 BF-105 90110 A種 L= 9.0m			
◎	P2	1000	上杭 Hi-SC105(SKK490) 1000φ t=14 L= 5.0m	24.0m	4本	5600
			中杭 MS-TS105 φ90100 C種 L= 10.0m			
			下杭 BF-105 90110 C種 L= 9.0m			
⊗	P3	1000	上杭 Hi-SC105(SKK490) 1000φ t=9 L= 5.0m	24.0m	1本	6600
			中杭 MS-hi 105 1000φ A種 L= 10.0m			
			下杭 BF105 100120 A種 L= 9.0m			

確認申請日	2012.09.24
見積日	
契約日	2012.10.01
竣工日	2013.08.31
当図作成日	2013.08.31

設計番号 01-28350-000

高嶺会館建設工事

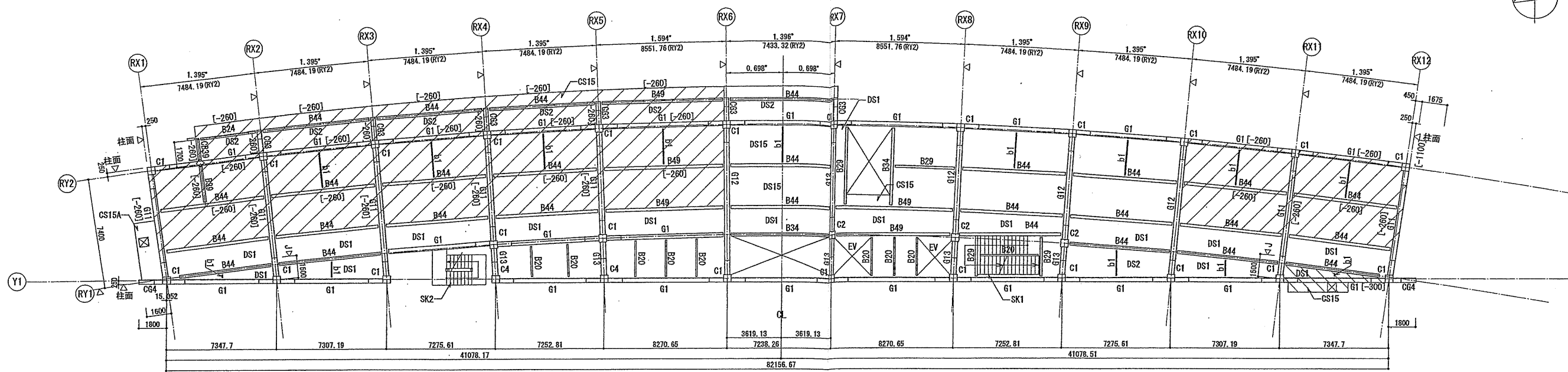
【竣工図】
発行日 2013.08.31

図面名称

杭伏図
・基礎及びピット伏図

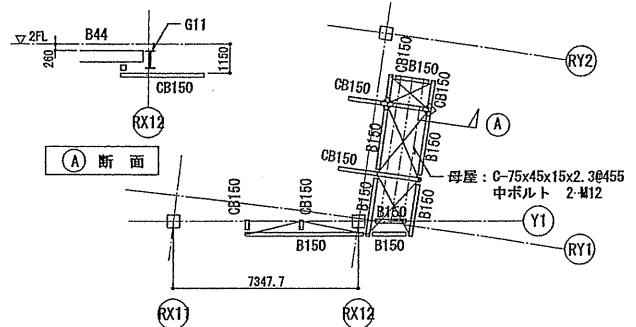
縮尺 A1:1/150 A3:1/300

C-013



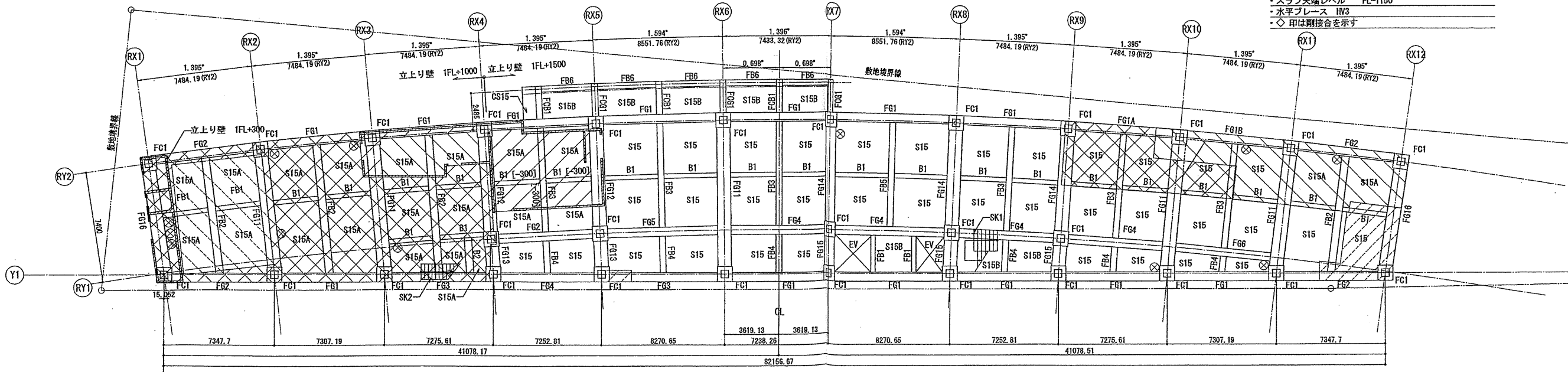
1階柱 2階床梁伏図 1/150

- 特記外は下記に依る
- ・スラブ天端レベル FL-10
 - ・梁天端レベル FL-160
 - ・部スラブ天端レベル FL-110
 - ・部スラブ天端レベル FL-150
 - ・[]内はFLからの梁天端レベルを示す。
 - ・△は柱心を示す。
 - ・鉄骨の現場継手位置は柱芯から1200とする。
 - ・部は床開口を示す。
 - ・RX4, RX5, RX7~RX9 Y1-RY1間の鉄骨現場継手位置は柱間の中央部とする。
 - ・CG4の現場継手位置は柱芯から800とする。
 - ・二階梁位置は軸組図参照とする。
 - ・床スラブ DS3
 - ・2G1の鉄骨現場継手位置は柱芯から1400とする。



2FL-1150床梁伏図 1/150

- 特記外は下記に依る
- ・スラブ天端レベル FL-1150
 - ・水平ブレース HV3
 - ・印は剛接合を示す



1階床梁伏図 1/150

- 特記外は下記に依る
- ・1FL=GL+200
 - ・スラブ天端レベル FL-50
 - ・基礎梁天端レベル FL-430
 - ・[]内はFLからの梁天端レベルを示す。
 - ・部スラブ天端レベル FL-10
 - ・部スラブ天端レベル FL-100
 - ・部スラブ天端レベル FL-100~150
 - ・部スラブ天端レベル FL-180
 - ・部スラブ天端レベル FL-300
 - ・部は床開口を示す。
 - ・部は立上り壁を示す。

確認申請書	2012.09.24
見積書	
契約書	2012.10.01
竣工図	2013.08.31
当図作成日	2013.08.31

設計番号 01-28350-000

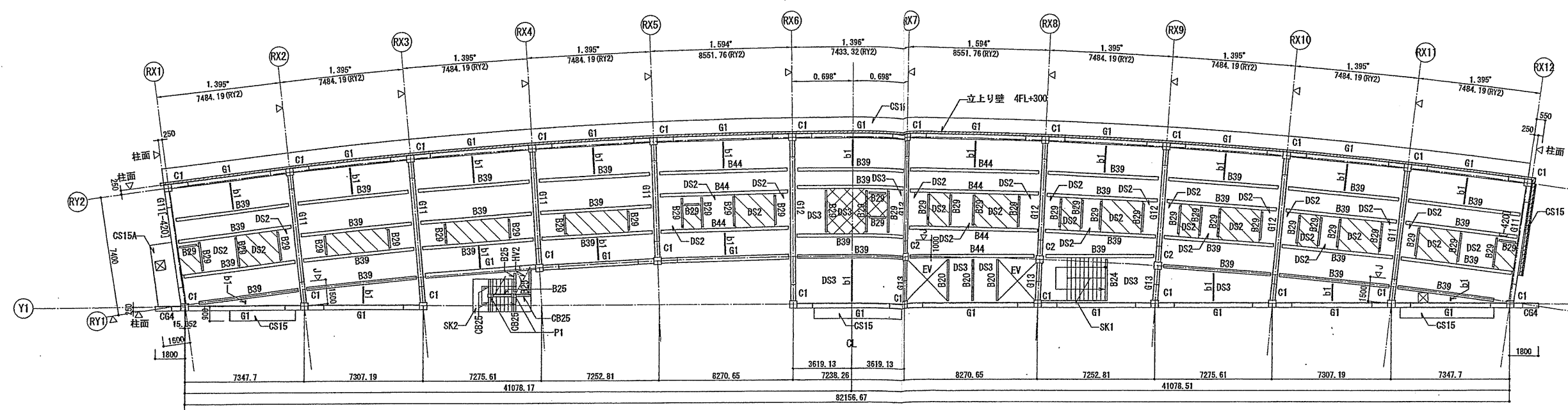
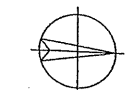
島嶼会館建設工事

【竣工図】
発行日 2013.08.31
図面名称

1階床梁伏図
・1階柱2階床梁伏図

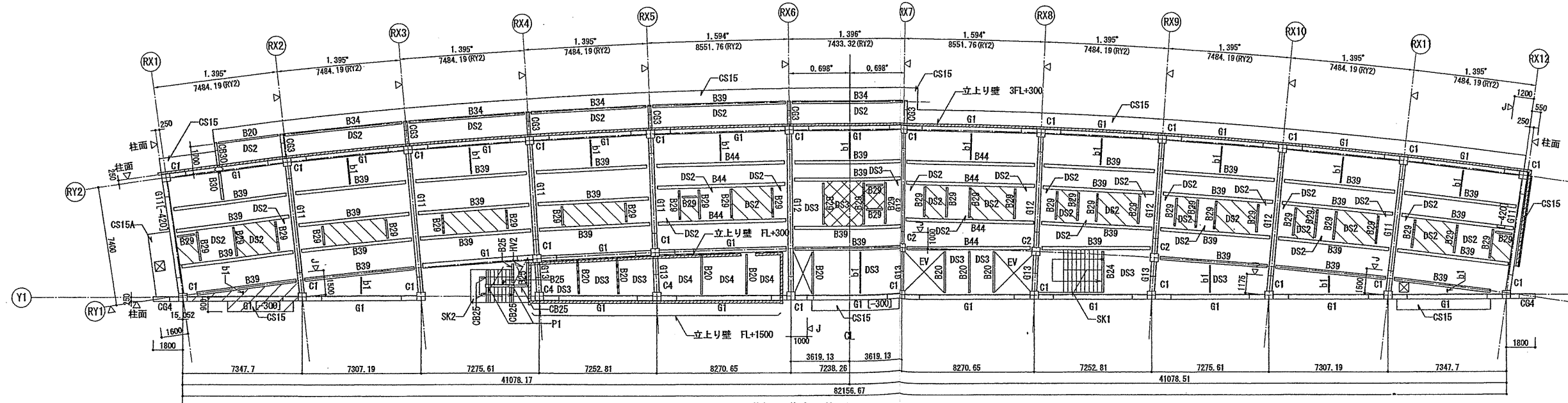
縮尺 A1:1/150 A3:1/300

C-014



3階柱 4階床梁伏図 1/150

- 特記外は下記に依る
- ・スラブ天端レベル FL-10
 - ・梁天端レベル FL-160
 - ・部スラブ天端レベル FL-270
 - ・部スラブ天端レベル FL-300
 - ・[]内はFLからの梁天端レベルを示す。
 - ・▷ は柱心を示す。
 - ・鉄骨の現場継手位置は柱芯から1200とする。
 - ・部は床開口を示す。
 - ・RX4, RX5, RX7~RX9 Y1-RY1間の鉄骨現場継手位置は柱間の中央部とする。
 - ・CG4の現場継手位置は柱芯から800とする。
 - ・は立上り壁を示す。
 - ・床スラブ DS1
 - ・二段梁位置は軸組図参照とする。



2階柱 3階床梁伏図 1/150

- 特記外は下記に依る
- ・スラブ天端レベル FL-10
 - ・梁天端レベル FL-160
 - ・部スラブ天端レベル FL-150
 - ・部スラブ天端レベル FL-270
 - ・部スラブ天端レベル FL-300
 - ・[]内はFLからの梁天端レベルを示す。
 - ・▷ は柱心を示す。
 - ・鉄骨の現場継手位置は柱芯から1200とする。
 - ・部は床開口を示す。
 - ・水平ブレース HV1
 - ・RX4, RX5, RX7~RX9 Y1-RY1間の鉄骨現場継手位置は柱間の中央部とする。
 - ・CG4の現場継手位置は柱芯から800とする。
 - ・は立上り壁を示す。
 - ・床スラブ DS1
 - ・二段梁位置は軸組図参照とする。
 - ・3G1の鉄骨現場継手位置は柱芯から1400とする。

確認申請書	2012.09.24
見積書	
契約書	2012.10.01
竣工図	2013.08.31
当図作成日	2013.08.31

設計番号 01-28350-000

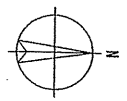
島嶼会館建設工事

【竣工図】
発行日 2013.08.31
図面名称

2,3階柱
- 3,4階床梁伏図

縮尺 A1:1/150 A3:1/300

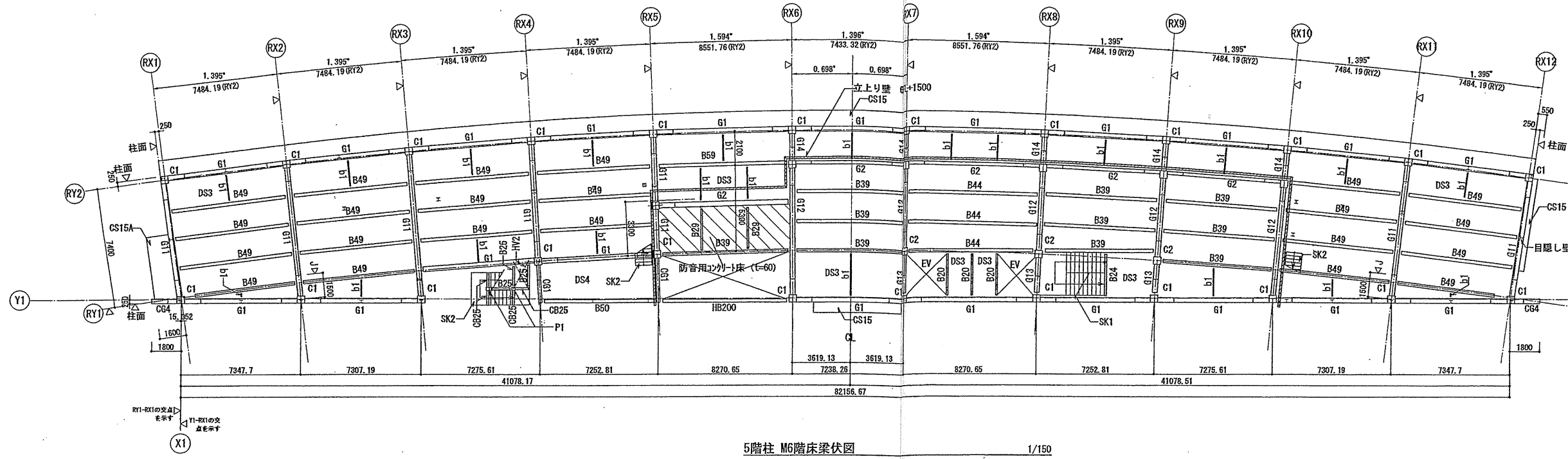
C-015



TAISEI CORPORATION
TAISEI DESIGN
Planners Architects & Engineers

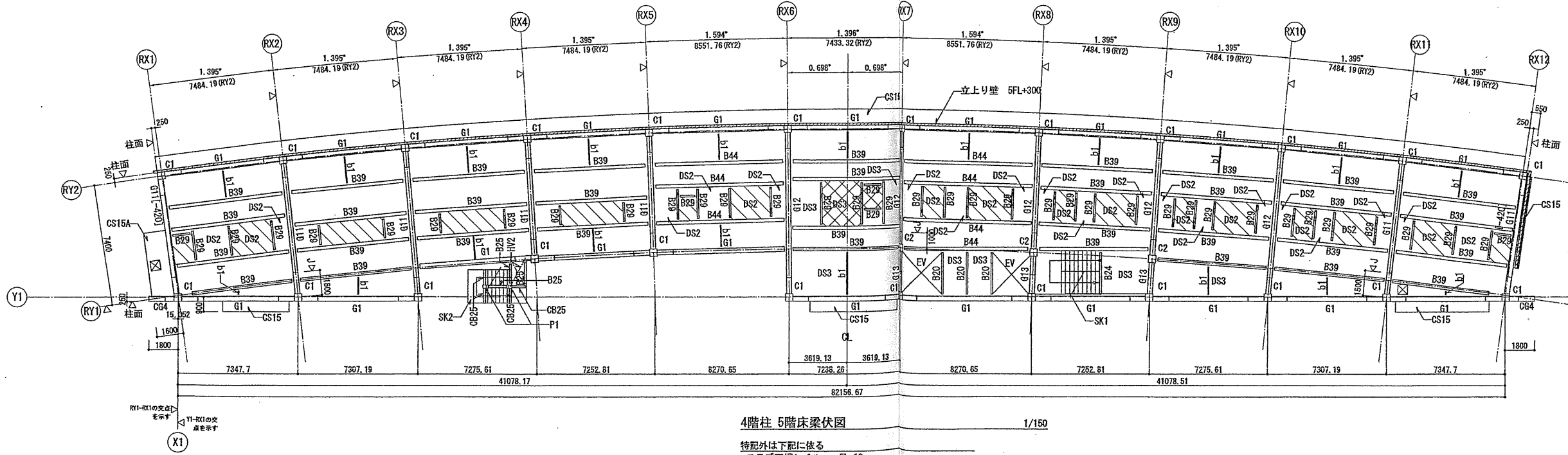
大成建設株式会社一級建築士事務所
〒163-0606新宿区西新宿1-25-1
URL: http://www.taisei.co.jp

一級 第233690号
構造設計一級 第5617号
設計 井上 慶一
担当 宮原 貴昭



5階柱 M6階床梁伏図 1/150

- 特記外は下記に依る
- ・スラブ天端レベル FL-10
 - ・梁天端レベル FL-160
 - ・▷ は柱心を示す。
 - ・鉄骨の現場継手位置は柱芯から1200とする。
 - ・[] 部は床開口を示す。
 - ・RX4, RX5, RX7~RX9 Y1-RY1間及びRX6~RX10 RY2-1950~RY2間の鉄骨現場継手位置は柱間の中央部とする。
 - ・CG4の現場継手位置は柱芯から800とする。
 - ・[] は立上り壁を示す。
 - ・床スラブ DS1
 - ・二段梁位置は軸組図参照とする。



4階柱 5階床梁伏図 1/150

- 特記外は下記に依る
- ・スラブ天端レベル FL-10
 - ・梁天端レベル FL-160
 - ・[] 部スラブ天端レベル FL-270
 - ・[] 部スラブ天端レベル FL-300
 - ・[] 内はFLからの梁天端レベルを示す。
 - ・▷ は柱心を示す。
 - ・鉄骨の現場継手位置は柱芯から1200とする。
 - ・[] 部は床開口を示す。
 - ・RX4, RX5, RX7~RX9 Y1-RY1間の鉄骨現場継手位置は柱間の中央部とする。
 - ・CG4の現場継手位置は柱芯から800とする。
 - ・[] は立上り壁を示す。
 - ・床スラブ DS1
 - ・二段梁位置は軸組図参照とする。

確認申請図 2012.09.24
見積図
契約図 2012.10.01
竣工図 2013.08.31
当図作成日 2013.08.31

設計番号 01-28350-000

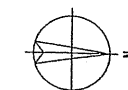
島嶼会館建設工事

【竣工図】
発行日 2013.08.31
図面名称

4,5階柱
・5, M6階床梁伏図

縮尺 A1:1/150 A3:1/300

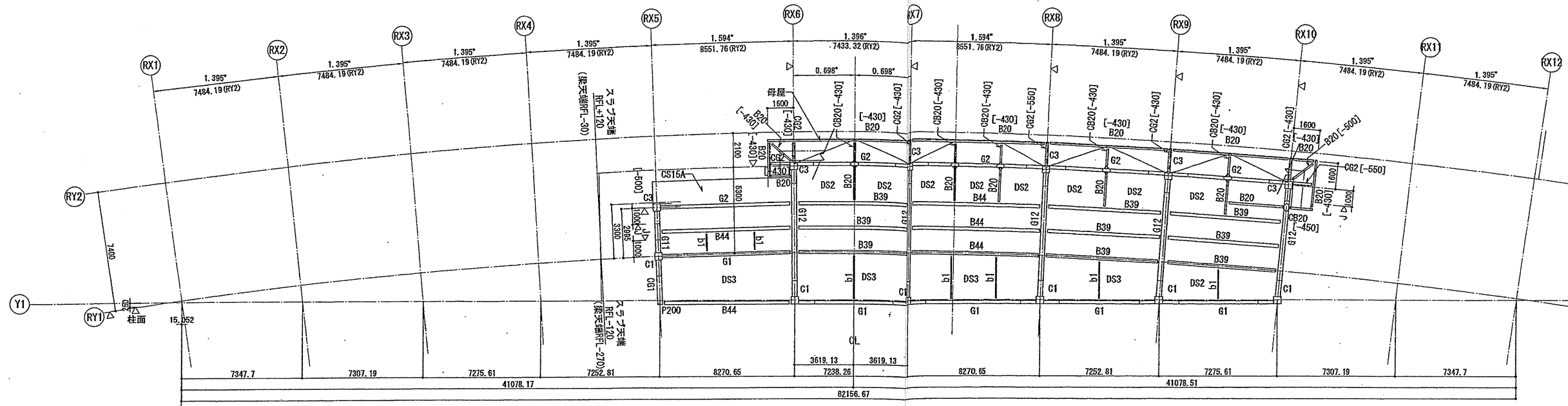
C-016



TAISEI CORPORATION
TAISEI DESIGN
Planners Architects & Engineers

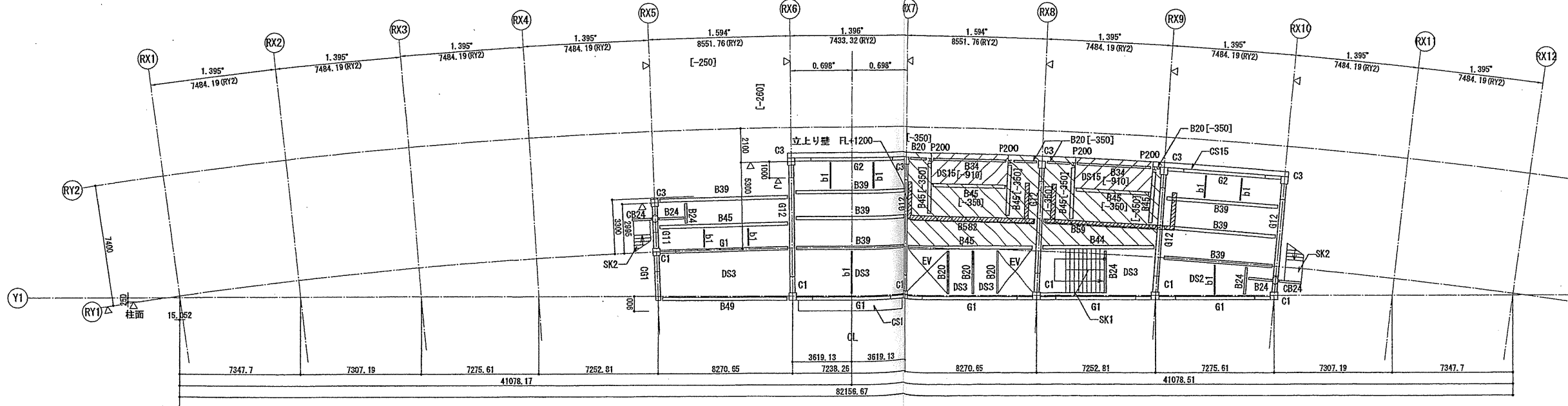
大成建設株式会社一級建築士事務所
〒163-0606新宿区西新宿1-25-1
URL: http://www.taisei.co.jp

一級 第233690号
構造設計一級 第5617号
設計 井上 慶一
担当 宮原 貴昭



6階柱 R階床梁伏図 1/150

- 特記外は下記に依る
- ・スラブ天端レベル FL±0~-100
 - ・梁天端レベルはスラブ天端-150とする。
 - ・[]内はFLからの梁天端レベルを示す。
 - ・△ は柱心を示す。
 - ・水平ブレース HV1
 - ・鉄骨の現場継手位置は柱芯から1200とする。
 - ・◇印は剛接合を示す
 - ・床スラブ DS1



M6階柱 6階床梁伏図 1/150

- 特記外は下記に依る
- ・スラブ天端レベル FL-10
 - ・梁天端レベル FL-160
 - ・[]内はFLからの梁天端レベルを示す。
 - ・△ は柱心を示す。
 - ・◇印は剛接合を示す
 - ・は立上り壁を示す。
 - ・床開口を示す。
 - ・鉄骨の現場継手位置は柱芯から1200とする。
 - ・◇印は剛接合を示す
 - ・は立上り壁を示す。
 - ・床スラブ DS1

確認申請図 2012.09.24
見積図
契約図 2012.10.01
竣工図 2013.08.31
当図作成日 2013.08.31

設計番号 01-28350-000

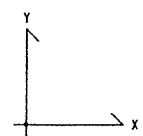
鳥嶺会館建設工事

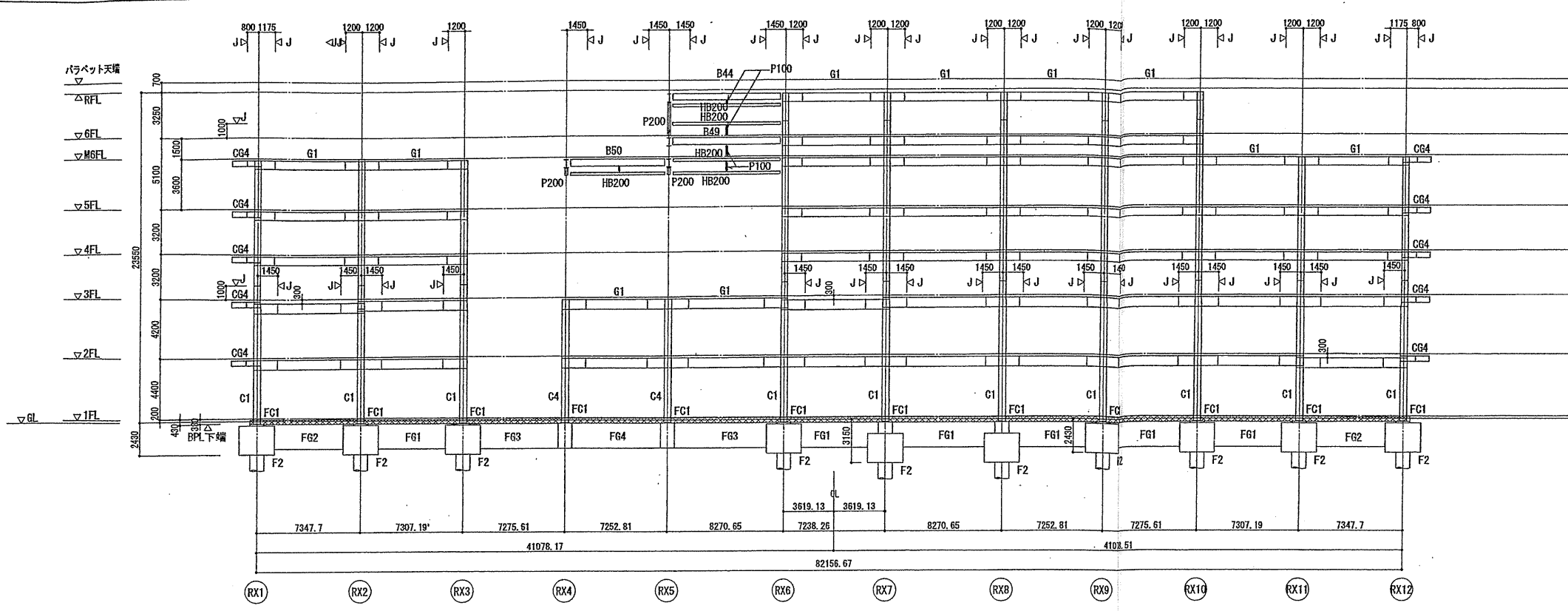
【竣工図】
発行日 2013.08.31
図面名称

M6, 6階柱
・6, R階床梁伏図

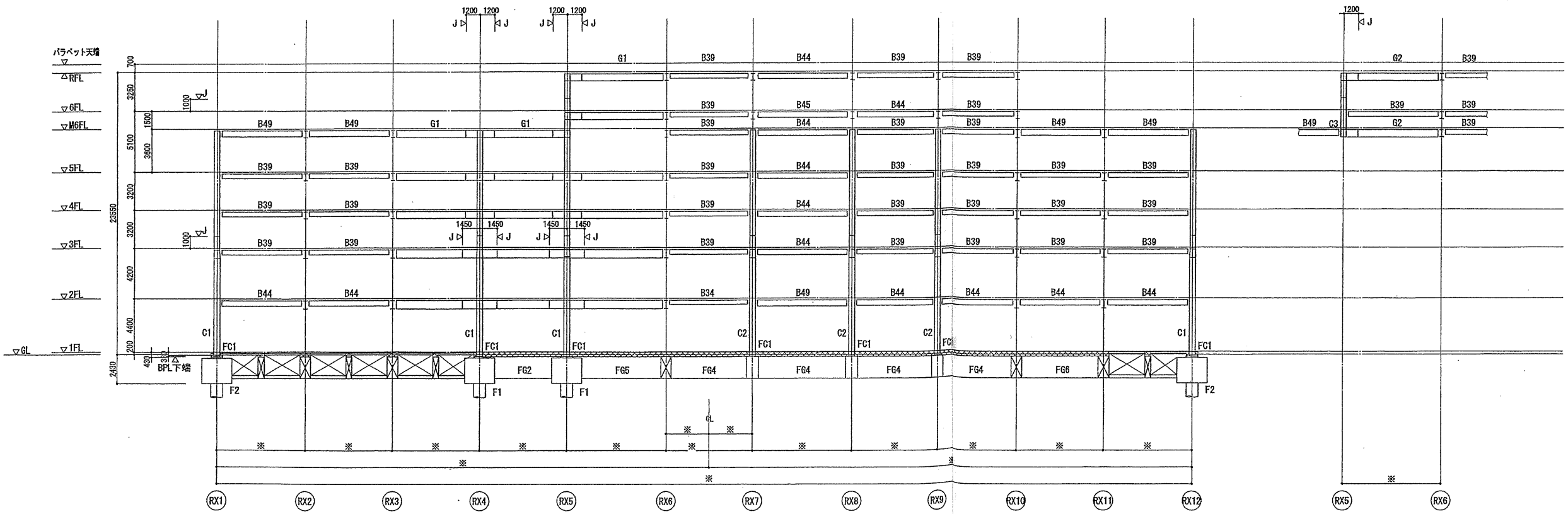
縮尺 A1:1/150 A3:1/300

C-017





Y1通り軸組図 1/200



RY1通り軸組図 1/200

RY1通り+3300 軸組図 1/200

- 特記外は下記に依る
- 柱符号は下階に依る
 - 梁符号は上階に依る
 - 鉄骨梁天端レベル FL-160
 - 基礎梁天端レベル FL-430
 - 基礎下層レベル GL-2430
 - <J は鉄骨現場継手位置を示す。
 - ※ 増付コンクリート
 - ※ 寸法は意匠図による。

確認申請図	2012.09.24
見積図	
契約図	2012.10.01
竣工図	2013.08.31
当図作成日	2013.08.31

設計番号 01-28350-000

島嶼会館建設工事

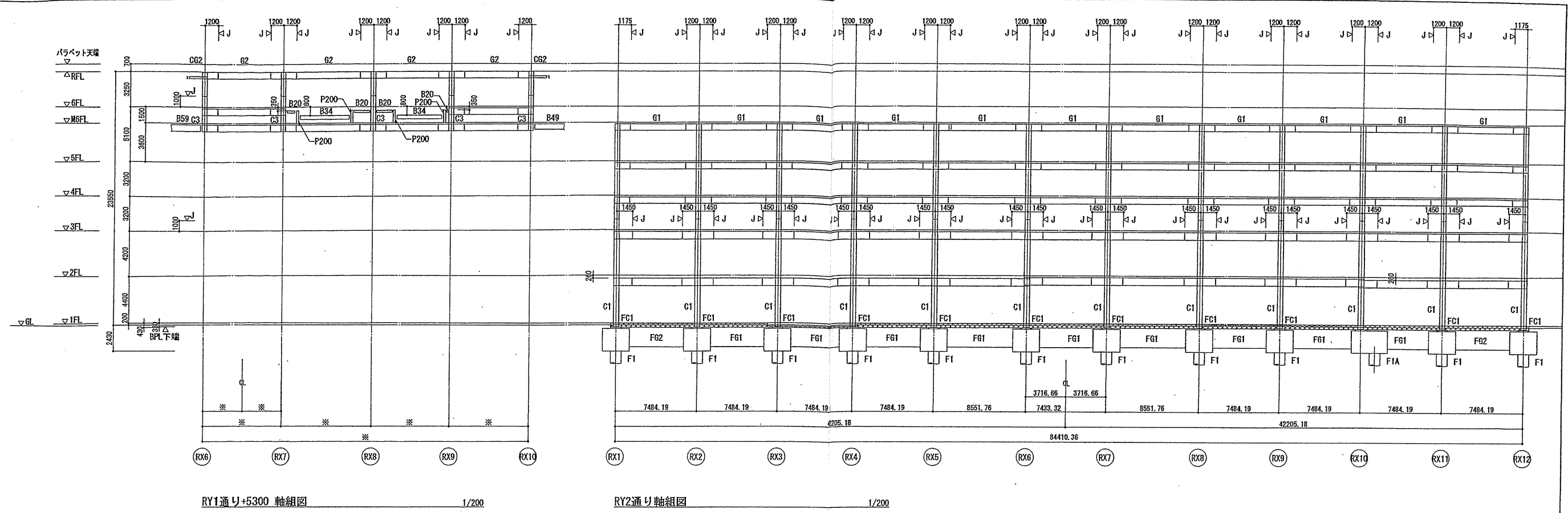
【竣工図】
発行日 2013.08.31

図面名称

軸組図 (1)

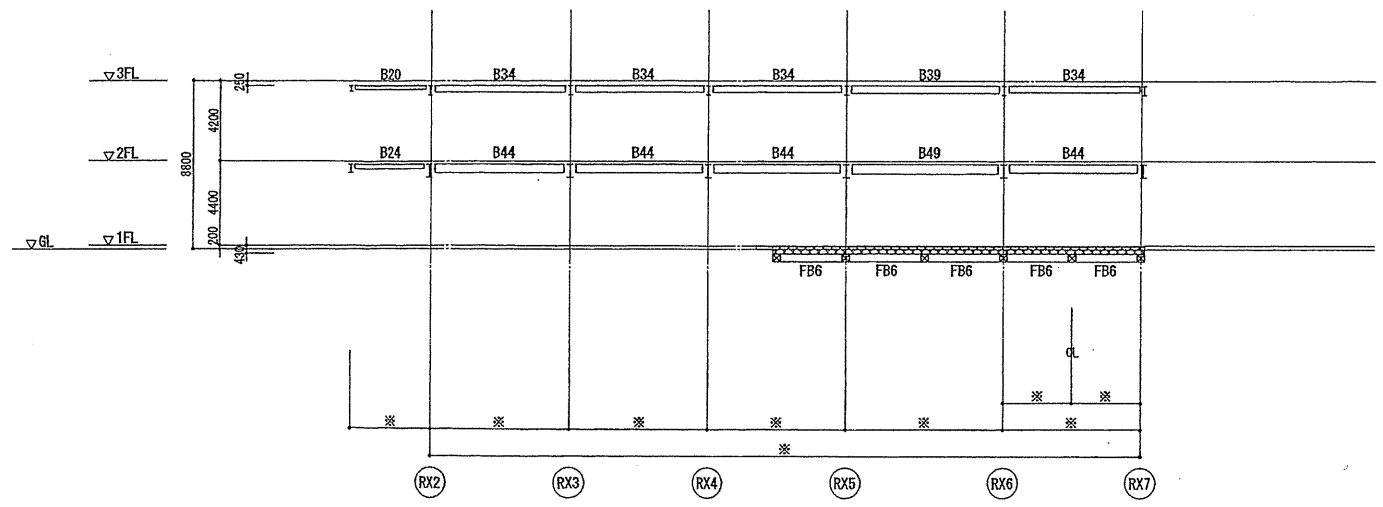
縮尺 A1:1/200 A3:1/400

C-018



RY1通り+5300 軸組図 1/200

RY2通り軸組図 1/200



RY2通り+2485 軸組図 1/200

- 特記外は下記に依る
- ・柱号は下階に放す
 - ・梁号は上階に放す
 - ・鉄骨梁天端レベル FL-160
 - ・基礎梁天端レベル FL-430
 - ・基礎下端レベル GL-2430
 - ・◁J は鉄骨現場継手位置を示す。
 - ・☒☒☒ 増打コンクリート
 - ・※寸法は意匠図による。

確認申請図	2012.09.24
見積図	
契約図	2012.10.01
竣工図	2013.08.31
当図作成日	2013.08.31

設計番号 01-28350-000

島嶼会館建設工事

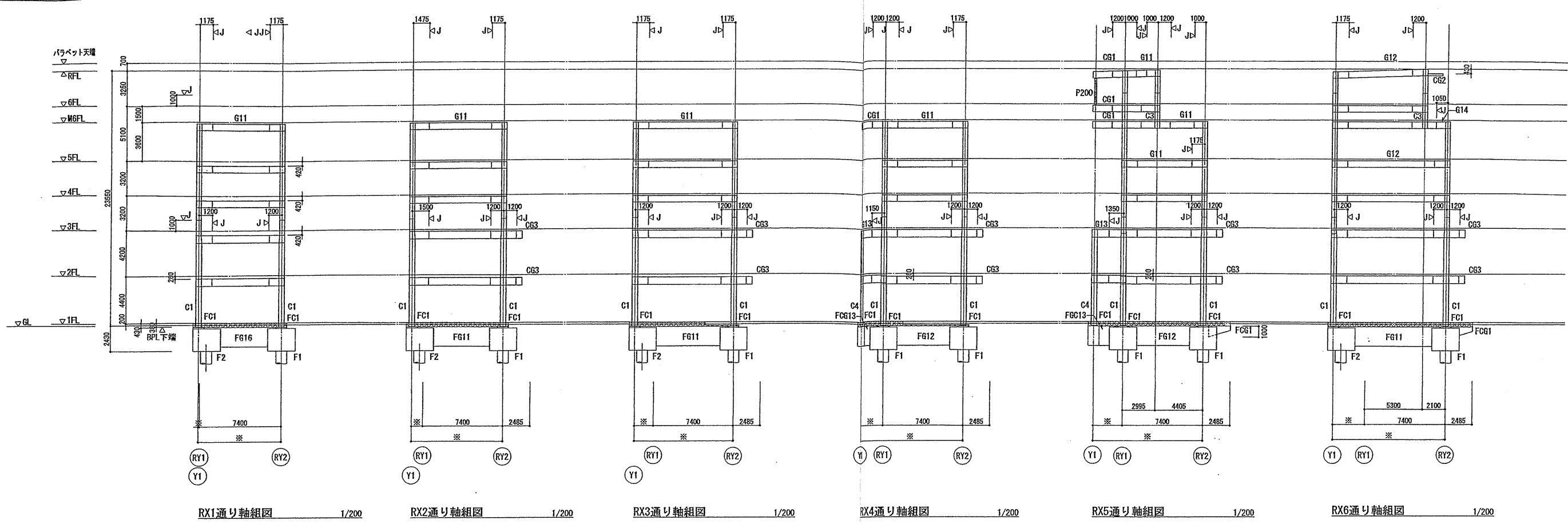
【竣工図】
発行日 2013.08.31

図面名称

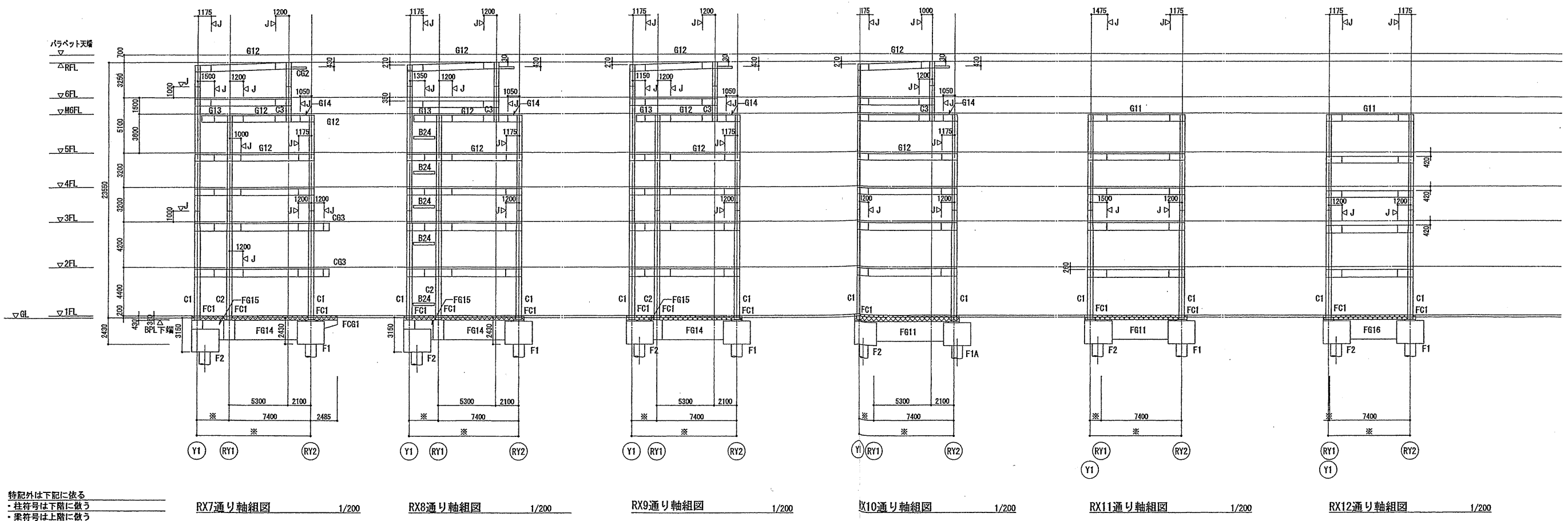
軸組図(2)

縮尺 A1:1/200 A3:1/400

C-019



RX1通り軸組図 1/200 RX2通り軸組図 1/200 RX3通り軸組図 1/200 RX4通り軸組図 1/200 RX5通り軸組図 1/200 RX6通り軸組図 1/200



RX7通り軸組図 1/200 RX8通り軸組図 1/200 RX9通り軸組図 1/200 RX10通り軸組図 1/200 RX11通り軸組図 1/200 RX12通り軸組図 1/200

- 特記外は下記に依る
- 柱符号は下階に依る
 - 梁符号は上階に依る
 - 鉄骨梁天端レベル FL-160
 - 基礎梁天端レベル FL-430
 - 基礎下端レベル BL-2430
 - <J は鉄骨現場接合手位置を示す。
 - [] は増打コンクリート
 - ※寸法は意匠図による。

確認申請図	2012. 09. 24
見積図	
契約図	2012. 10. 01
竣工図	2013. 08. 31
当図作成日	2013. 08. 31

設計番号 01-28350-000

鳥嶋会館建設工事

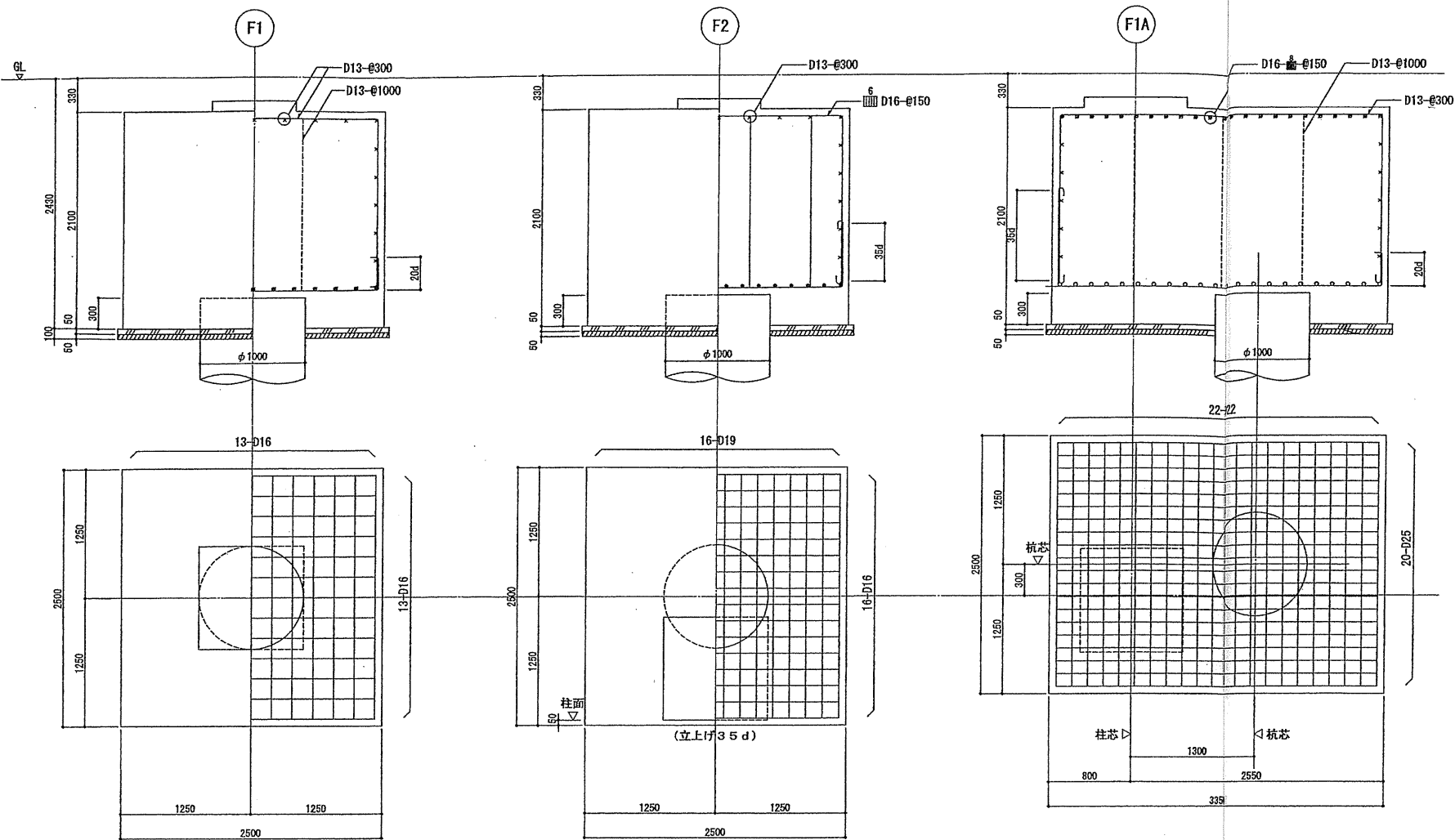
【竣工図】
発行日 2013. 08. 31

図面名称

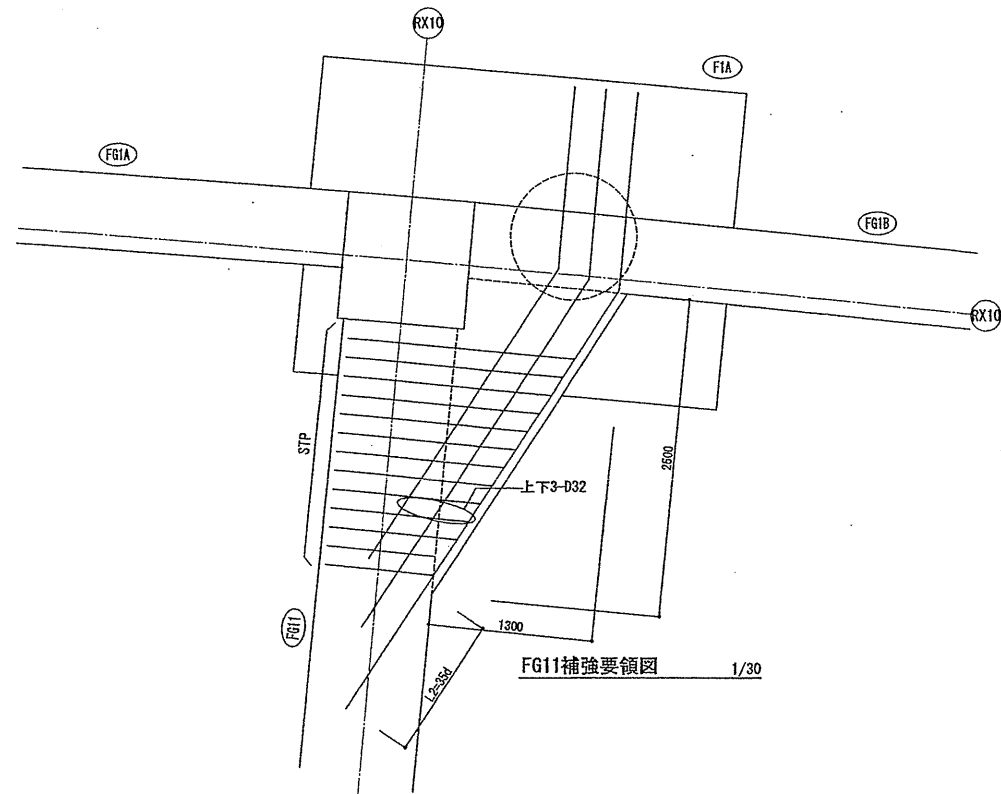
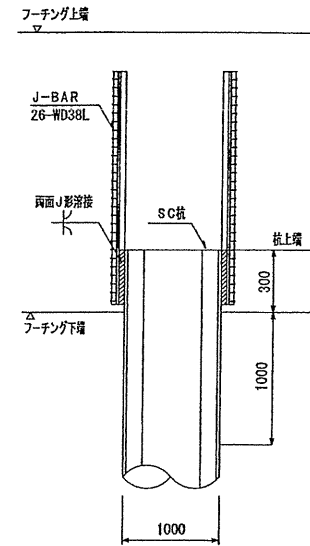
軸組図 (3)

縮尺 A1:1/200 A3:1/400

C-020



杭頭部納まり標準図



確認申請図	2012.09.24
見積図	
契約図	2012.10.01
竣工図	2013.08.31
当図作成日	2013.08.31

設計番号 01-28350-000

島嶼会館建設工事

【竣工図】
 発行日 2013.08.31
 図面名称

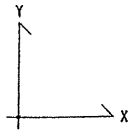
基礎リスト

縮尺 A1:1/30 A3:1/60

C-021

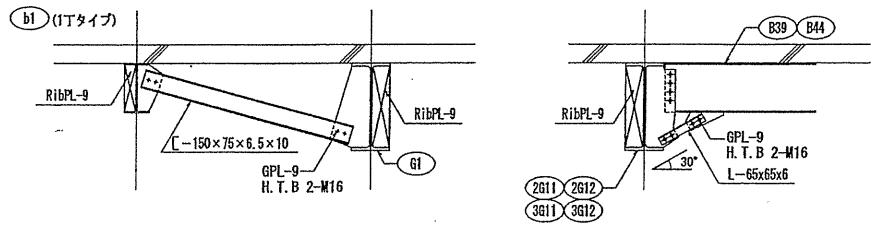
柱リスト 1/30

特記外は下記に依る
 ・鋼材 BCP325
 ・アンカーボルト ABR400



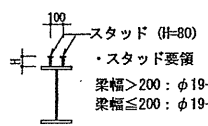
階	符号	C1	C2	C3	C4	P1
6階		□ -450x450x19	-	□ -450x450x19	-	-
M6階		□ -450x450x19	-	□ -450x450x28	-	-
5階		□ -450x450x22	□ -450x450x22	-	-	□ -200x200x9 (STKR400)
4階		□ -450x450x22	□ -450x450x22	-	-	□ -200x200x9 (STKR400)
3階		□ -450x450x25	□ -450x450x25	-	-	□ -200x200x9 (STKR400)
2階		□ -500x500x28	□ -500x500x28	-	□ -500x500x25	□ -200x200x9 (STKR400)
1階		□ -500x500x28	□ -500x500x32	-	□ -500x500x25	□ -200x200x9 (STKR400)
柱脚		スーパーハイベース GX500-L2-48	スーパーハイベース GX500-L2-48		スーパーハイベース GX500-M2-42	
B. PL		PL-56x780x780	PL-56x780x780		PL-48x740x740	PL-19x400x400 (SS400)
A. Bolt		8-M48	8-M48		8-M42	4-M20 L=500 ダブ 射撃ト・フック付
RibPL		-	-		-	-
備考		-	-		-	-
符号		FC1				
柱型						
主筋		24-D32				
帯筋		D16-C-@100				

横補剛材取付要領



大梁リスト

特記外は下記に依る
 ・鋼材 端部: SN400B 中央部: SS400
 ○付は、端部: SM490B 中央部: SM490Aとする。



	G1	G2	G11	G12	G13	G14
R階	全端 H - 600x200x11x17	柱端 H - 600x200x11x17 中央・他端 H - 596x199x10x15	全端 H - 600x200x11x17	全端 H - 588x300x12x20		
6階	全端 H - 588x300x12x20	柱端 H - 600x200x11x17 中央・他端 H - 596x199x10x15	全端 (SH) - 600x300x12x22	全端 (SH) - 600x300x12x25	全端 (SH) - 600x300x12x22	全端 (BH) - 600x300x25x31
M6階	全端 H - 588x300x12x20	柱端 H - 588x300x12x20 中央・他端 H - 582x300x12x17	全端 (SH) - 600x300x12x22	全端 (SH) - 600x300x12x25	全端 (SH) - 600x300x12x22	全端 (BH) - 600x300x25x31
5階	全端 H - 588x300x12x20		全端 (SH) - 600x300x12x25	全端 (SH) - 600x300x12x25	全端 (SH) - 600x300x12x22	
4階	全端 (H) - 588x300x12x20		全端 (SH) - 600x300x16x25	全端 (SH) - 600x300x16x28	全端 (SH) - 600x300x16x28	
3階	全端 (H) - 700x300x13x24 中央 (H) - 692x300x13x20		全端 (SH) - 700x300x16x25	全端 (SH) - 700x300x16x28	全端 (BH) - 700x300x19x28	
2階	全端 (H) - 700x300x13x24 中央 (H) - 692x300x13x20		全端 (SH) - 700x350x16x28	全端 (SH) - 700x350x16x32	全端 (BH) - 700x300x22x32	

片持ち梁リスト

特記外は下記に依る
 ・鋼材 SN400B
 ○付は SN490B

	CG1	CG2	CG3	CG4
R階	元端 H - 588x300x12x20 先端 H - 588x300x12x20 (SS400)	全端 H - 200x100x5.5x 8 (SS400)		
6階	元端 H - 588x300x12x20 先端 H - 588x300x12x20 (SS400)			
M6階	全端 (H) - 600x300x16x32		元端 H - 390x300x10x16 先端 H - 390x300x10x16 (SS400)	
5階			元端 H - 390x300x10x16 先端 H - 390x300x10x16 (SS400)	
4階			元端 H - 390x300x10x16 先端 H - 390x300x10x16 (SS400)	
3階			元端 H - 700x300x13x24 先端 H - 700x300x13x24 (SS400)	元端 H - 390x300x10x16 先端 H - 390x300x10x16 (SS400)
2階			元端 H - 700x300x13x24 先端 H - 700x300x13x24 (SS400)	元端 H - 390x300x10x16 先端 H - 390x300x10x16 (SS400)

確認申請済 2012.09.24
 見積図
 契約済 2012.10.01
 竣工図 2013.08.31
 当該作成日 2013.08.31

設計番号 01-28350-000

鳥嶋会館建設工事

【竣工図】
 発行日 2013.08.31

図面名称

鉄骨部材リスト

縮尺 A1:1/30 A3:1/60

基礎梁リスト 1/30

特記外は下記に依る
・幅止め筋 D10 → ϕ1000

符号	FG1	FG2			FG3			FG4	FG5			FG6			FG1A			FG1B		
位置	全断	RX1, RX4, RX12 端	中央	RX2, RX9, RX11 端	RX3, RX8 端	中央	RX4, RX9 端	全断	RX5 端	中央	RX9 端	RX10 端	中央	RX11 端	RX13 端	中央	RX10 端	RX10 端	中央	RX11 端
断面																				
上端筋	8-D35	11-D35	8-D35	8-D35	8-D35	6-D35	6-D35	6-D35	8-D35	6-D35	6-D35	6-D35	4-D35	4-D35	8-D35	8-D35	8-D35	11-D35	11-D35	8-D35
下端筋	6-D35	11-D35	8-D35	8-D35	6-D35	6-D35	6-D35	6-D35	6-D35	6-D35	6-D35	6-D35	5-D35	5-D35	6-D35	9-D35	9-D35	6-D35	6-D35	6-D35
肋筋	D13-□-ϕ150	D16-■-ϕ125			D13-■-ϕ150			D13-□-ϕ150	D13-□-ϕ150			D13-□-ϕ150			D13-■-ϕ150			D13-■-ϕ125		
腹筋	3x2-D13	3x2-D13			3x2-D13			3x2-D13	3x2-D13			3x2-D13			3x2-D13			3x2-D13		

符号	FG11			FG12			FG13	FG14			FG15	FG16		
位置	RY1 端	中央	RY2 端	RY1 端	中央	RY2 端	全断	RY1 端	中央	RY2 端	全断	RY1 端	中央	RY2 端
断面														
上端筋	18-D35	9-D35	12-D35	21-D35	14-D35	14-D35	21-D35	14-D35	12-D35	12-D35	21-D35	16-D35	11-D35	11-D35
下端筋	12-D35	7-D35	12-D35	14-D35	12-D35	12-D35	14-D35	18-D35	12-D35	12-D35	18-D35	11-D35	7-D35	11-D35
肋筋	D16-■-ϕ150			D16-■-ϕ150			D16-■-ϕ150	D16-■-ϕ150			D16-■-ϕ150	D16-■-ϕ150		
腹筋	3x2-D13			3x2-D13			3x2-D13	3x2-D13			3x2-D13	3x2-D13		

基礎小梁リスト 1/30

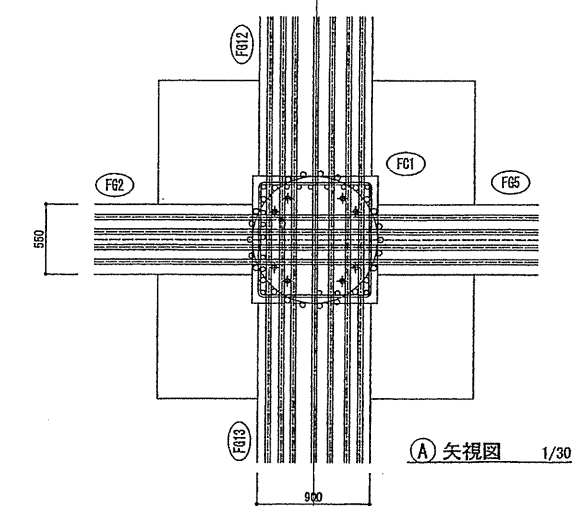
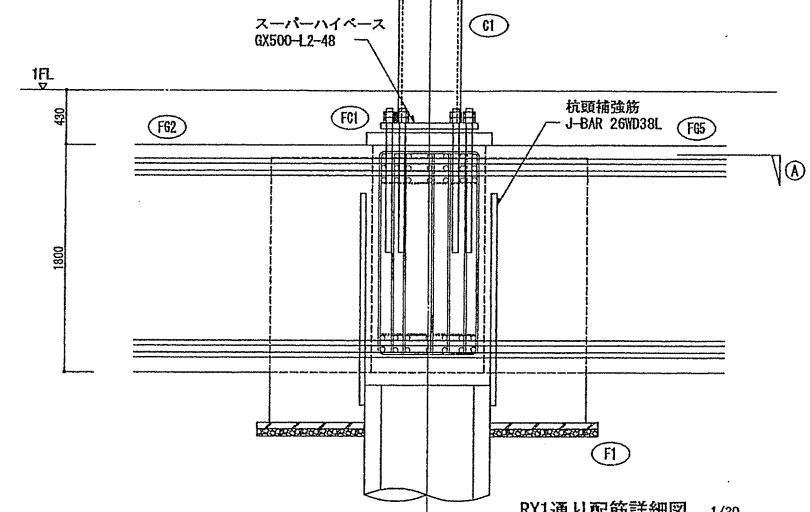
特記外は下記に依る
・幅止め筋 D10 → ϕ1000

符号	FB1	FB2		FB3			FB4	FB5		FB6	FCG1		FCB1	
位置	全断	端部	中央	RY1 端	中央	RY2 端	全断	端部	中央	全断	元端	先端	元端	先端
断面														
上端筋	3-D22	5-D25	5-D25	6-D25	4-D25	4-D25	6-D25	3-D22	3-D22	4-D19	3-D35	3-D35	4-D25	4-D25
下端筋	3-D22	5-D25	10-D25	4-D25	6-D25	4-D25	4-D25	3-D22	5-D22	4-D19	3-D35	3-D35	4-D25	4-D25
肋筋	D13-□-ϕ200	D13-□-ϕ150		D13-□-ϕ200			D13-□-ϕ200	D13-□-ϕ200		D13-□-ϕ200	D13-□-ϕ200		D13-□-ϕ200	
腹筋	3x2-D13	3x2-D13		3x2-D13			3x2-D13	3x2-D13		-	1x2-D13	-	1x2-D13	-

小梁リスト 1/30

特記外は下記に依る
・幅止め筋 D10 → ϕ1000

符号	B1	B2
位置	全断	全断
断面		
上端筋	3-D22	3-D22
下端筋	3-D22	3-D22
肋筋	D10-□-ϕ200	D13-□-ϕ100
腹筋	1x2-D10	1x2-D10



確認申請日 2012.09.24
見積日
契約日 2012.10.01
竣工日 2013.08.31
当図作成日 2013.08.31

設計番号 01-28350-00

島嶼会館建設工事

【竣工図】

発行日 2013.08.31

図面名称

基礎梁リスト

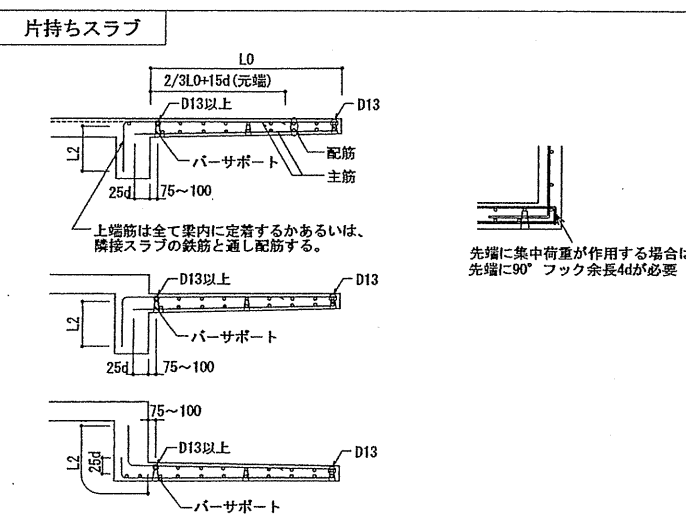
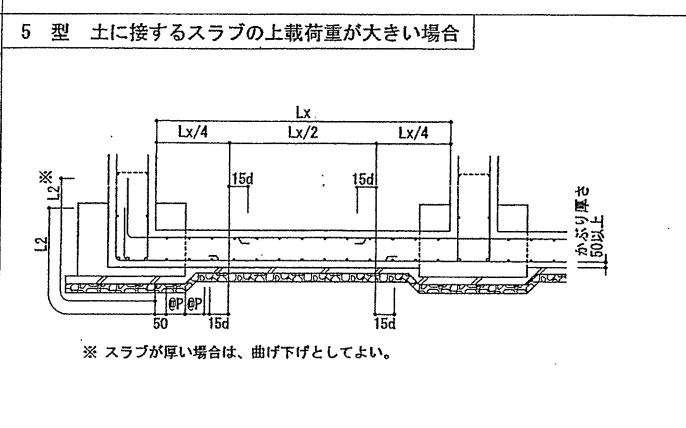
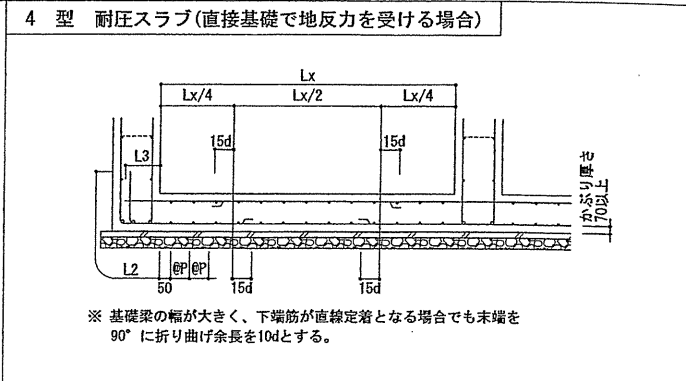
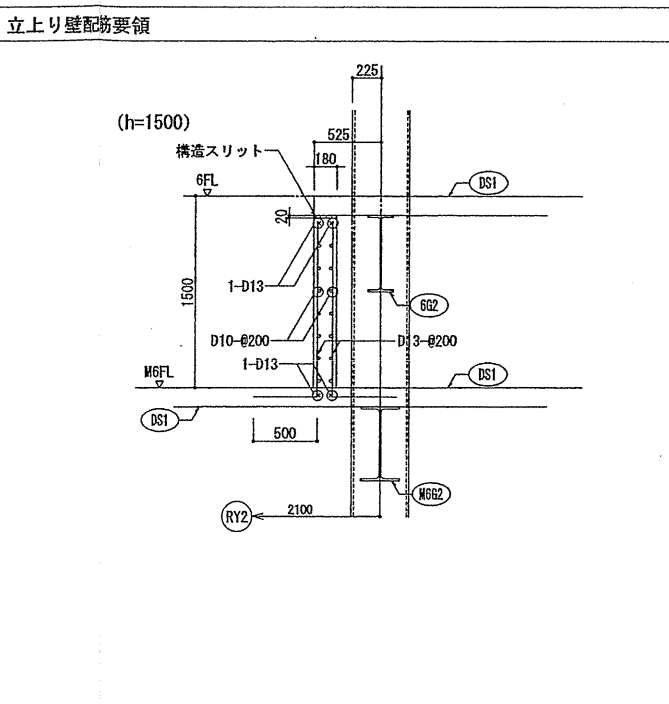
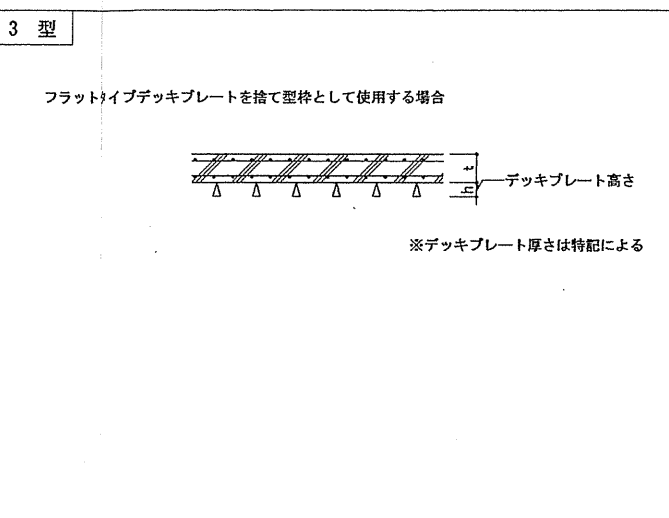
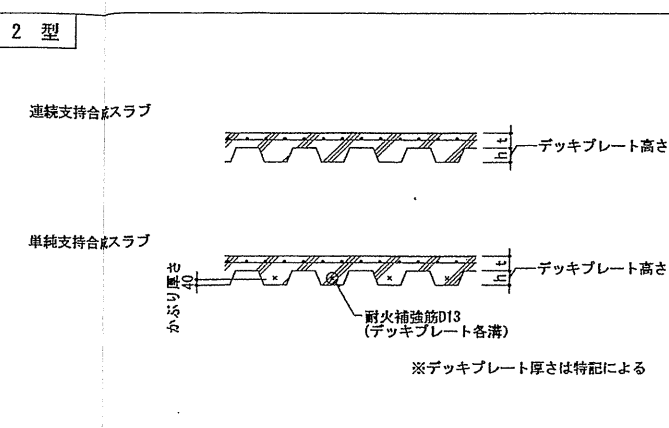
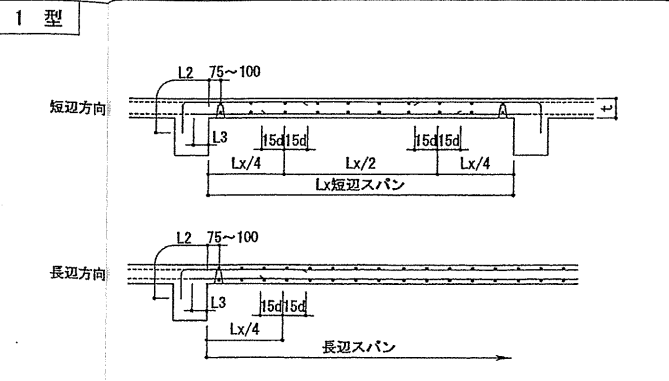
縮尺 A1:1/30 A3:1/60

C-022

一般スラブ								
符号	類型	t スラブ厚 (mm)	位置	短辺方向		長辺方向		備考
				端部	中央	端部	中央	
S15	1	150	上端筋 下端筋	D13-φ100 D13-φ100	← ←	D10+D13-φ200 D10-φ200	← ←	
S15A	1	150	上端筋 下端筋	D13-φ100 D13-φ100	← ←	D13-φ200 D13-φ200	← ←	
S15B	1	150	上端筋 下端筋	D10+D13-φ200 D10-φ200	← ←	D10+D13-φ200 D10-φ200	← ←	
DS15	3	150	上端筋 下端筋	D10+D13-φ200 D10-φ200	← ←	D10-φ200 D10-φ200	← ←	フェローデッキに変更可
S6	3	60	上端筋 下端筋	溶接金網φ6-φ150		溶接金網φ6-φ150		防音用床

耐圧スラブ								
FS25	5	250	上端筋 下端筋	D13-φ150 D13-φ150	← ←	D13-φ200 D13-φ200	← ←	
FS25A	5	250	上端筋 下端筋	D13-φ200 D13-φ200	← ←	D13-φ200 D13-φ200	← ←	

片持ちスラブ							
符号	t スラブ厚 (mm)		位置	主筋		配筋 配筋	備考
	元端	先端		元端	先端		
CS15	150	150	上端筋 下端筋	D13-φ200 D10-φ200	← ←	D10-φ200 D10-φ200	
CS15A	150	150	上端筋 下端筋	D13-φ100 D10-φ100	← ←	D10-φ200 D10-φ200	



確認申請書 2012.09.24
見積書
契約書 2012.10.01
竣工書 2013.08.31
当図作成日 2013.08.31

設計番号 01-28350-000

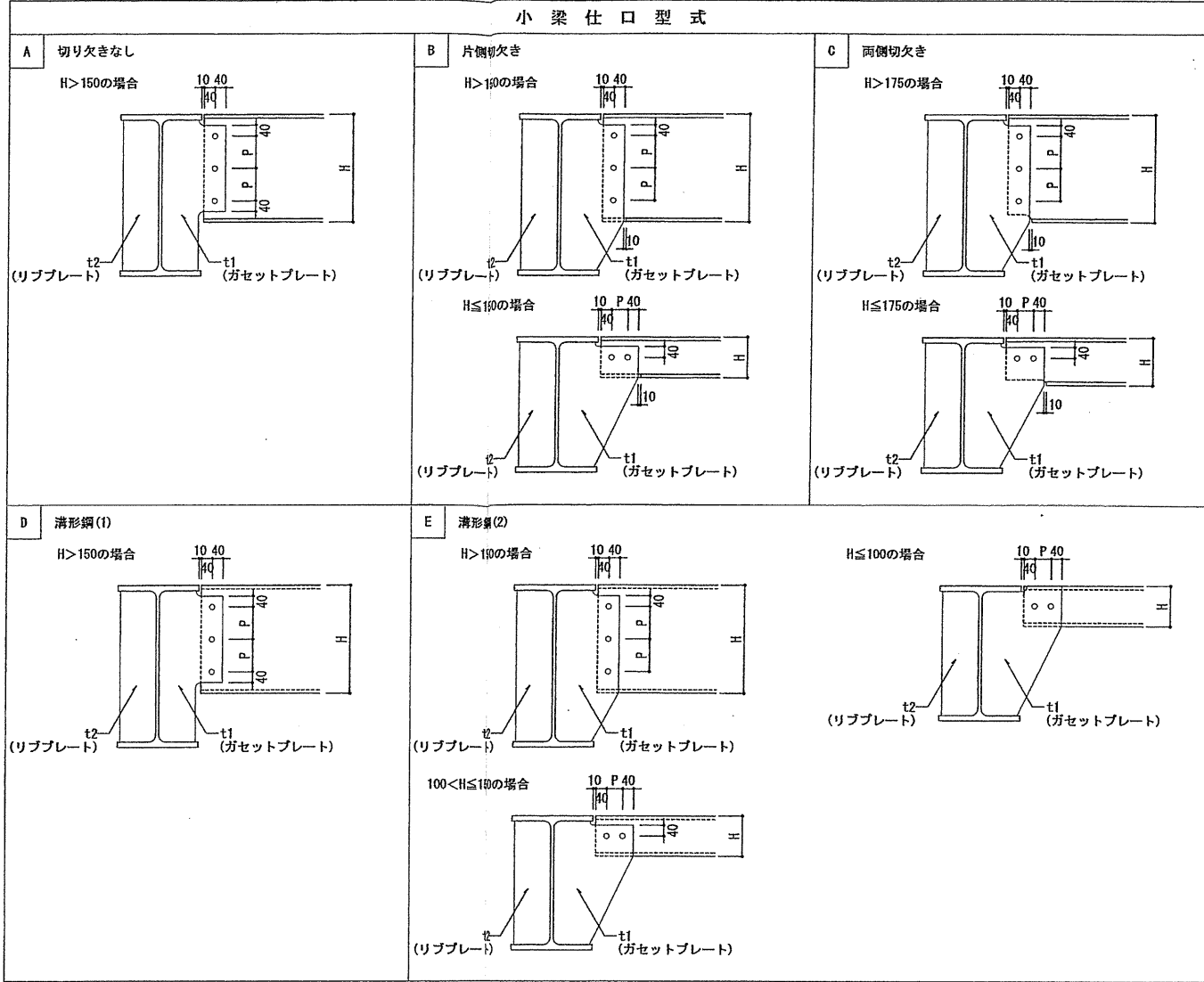
鳥嶋会館建設工事

【竣工図】
発行日 2013.08.31
図面名称

床スラブリスト

縮尺

部材 (SS400)	仕口			備考				
	採用	符号	断面					
H形鋼 (細幅)	B15	H-150x 75x 5x 7	B	2-M16	6	6	60	
	B17	H-175x 90x 5x 8	A	2-M16	6	6	60	
	B19	H-198x 99x4.5x 7	A	2-M16	6	6	60	
	B20	H-200x100x5.5x 8	A	2-M16	6	6	60	
	B24	H-248x124x 5x 8	A	2-M20	9	6	90	
	B25	H-250x125x 6x 9	A	2-M20	9	6	90	
	B29	H-298x149x5.5x 8	A	3-M20	9	6	60	
	B30	H-300x150x6.5x 9	A	3-M20	9	6	60	
	B34	H-346x174x 6x 9	A	3-M20	9	6	90	
	B35	H-350x175x 7x11	A	3-M20	9	6	90	
	B39	H-396x199x 7x11	A	4-M22	9	6	70	
	B40	H-400x200x 8x13	A	4-M20	9	6	60	
	B44	H-446x199x 8x12	A	4-M22	9	6	90	
	B45	H-450x200x 9x14	A	4-M20	9	6	90	
	B49	H-496x199x 9x14	A	4-M22	12	9	90	
	B50	H-500x200x 10x16	A	4-M22	12	9	90	
B51	H-506x201x 11x19	A	4-M22	16	12	90		
B59	H-596x199x 10x15	A	5-M22	16	12	90		
B60	H-600x200x 11x17	A	5-M22	16	12	90		
B61	H-606x201x 12x20	A	5-M22	16	12	90		
H形鋼 (中幅)	B148	H-148x100x 6x 9	B	2-M16	6	6	60	
	B194	H-194x150x 6x 9	A	2-M16	9	6	60	
	B244	H-244x175x 7x11	A	2-M20	12	9	60	
	B294	H-294x200x 8x12	A	3-M20	12	9	60	
	B340	H-340x250x 9x14	A	3-M20	16	12	60	
	B390	H-390x300x 10x16	A	3-M22	16	12	90	
	B440	H-440x300x 11x18	A	4-M22	16	12	90	
	B482	H-482x300x 11x15	A	4-M22	16	12	90	
	B488	H-488x300x 11x18	A	4-M22	16	12	90	
	B582	H-582x300x 12x17	A	7-M22	16	12	60	
	B588	H-588x300x 12x20	A	7-M22	16	12	60	
	B594	H-594x302x 14x23	A	7-M22	19	16	60	
B692	H-692x300x 13x20	A	9-M22	19	16	60		
B700	H-700x300x 13x24	A	9-M22	19	16	60		
B792	H-792x300x 14x22	A	10-M22	19	16	60		
B800	H-800x300x 14x26	A	10-M22	19	16	60		
B890	H-890x299x 15x23	A	12-M22	19	16	60		
B900	H-900x300x 16x28	A	12-M22	19	16	60		
B912	H-912x302x 18x34	A	12-M22	22	19	60		
溝形鋼	C-	75x 40x 5 x 7	E	2-M16	6	6	60	
	C-	100x 50x 5 x 7.5	E	2-M16	9	6	60	
	C-	125x 65x 6 x 8	E	2-M16	9	6	60	
	C-	150x 75x 6.5x10	E	2-M16	9	6	60	
	C-	150x 75x 9 x12.5	E	2-M16	12	9	60	
	C-	180x 75x 7 x10.5	E	2-M16	9	6	60	
	C-	200x 80x 7.5x11	E	2-M16	9	6	60	
	C-	200x 90x 8 x13.5	E	2-M16	9	6	60	
	C-	250x 90x 9 x13	E	2-M20	12	9	120	
	C-	250x 90x11 x14.5	E	2-M20	12	9	120	
	C-	300x 90x 9 x13	E	3-M20	12	9	90	
	C-	300x 90x10 x15.5	E	3-M20	12	9	90	
C-	300x 90x12 x16	E	3-M20	16	12	90		
C-	380x100x10.5x16	E	4-M20	16	12	90		
C-	380x100x13 x20	E	4-M20	16	12	90		
その他	b1	C-150x 75x 6.5x10	E	2-M16	9	6	60	
	母屋	C-100x 50x 20 x 3.2	E	2-M12	6	-	60	中ボルト 600
	HV1	1-M20	E	1-M20	9	-	-	
	HV2	L-75x75x 9	E	5-M20	9	-	60	
	V1	1-M20	E	1-M20	9	-	-	
	CB20	H-200x100x5.5x 8	A	-	-	-	-	
	CB24	H-248x124x 5x 8	A	-	-	-	-	
	CB25	H-250x125x 6x 9	A	-	-	-	-	
CB30	H-300x150x6.5x 9	A	-	-	-	-		
CB39	H-396x199x 7x11	A	-	-	-	-		
HB200	H-200x200x 8x12	A	2-M16	9	-	60	換使い	



注記

- 原則として、仕口型式はAとする。
- ガセットプレート及びリブプレートの納りは下図とする。

スニップカットまたはスカラップ

スタッド要領

100 スタッド (H=80)
・スタッド要領
梁幅>200: φ19-φ200ダブル
梁幅≤200: φ19-φ200シングル

確認申請図 2012.09.24
見積図
契約図 2012.10.01
竣工図 2013.08.31
当図作成日 2013.08.31

設計番号 01-28350-000

島根会館建設工事

【竣工図】
発行日 2013.08.31
図面名称

鉄骨小梁リスト-1

縮尺 A1:1/30 A3:1/60

鉄骨梁のスタッドコネクタ(フラットタイプ)の場合

シングル配置
ダブル配置
チドリ配置

φ(軸径)
7.5φ以上かつ600以下

特記(注意事項)
・スタッドコネクタは原則として直接鉄骨梁に溶接する。フラットデッキ上に溶接する場合は、板が折り重なっている部分を選んでデッキ貫通溶接を行う。

鉄骨階段 SK1(内部)

根木 L-65x65x6E500
ワイヤーメッシュ φ6-100x100
ササラ桁 PL-12x300
BPL-19
A.BOLT (SS400) 100 2-M16 L=400 (二重ナット締め) (フック付)

(A-A) 断面

プレース標準仕上リスト (建築用ターンバックル筋かい)

採用	ねじの呼び d	羽子板		HTB		GPL			
		FB(平鋼製)	L3以上	本数・ねじの呼び	端あき e 以上	原さ t	有効巾 L6以上	必要溶接長 L以上	タイプ1/タイプ2/タイプ3
M12	38x4.5	40	1-M12	35	6	60	75	55	65
M16	50x6	55	1-M16	45	9	70	90	60	75
M20	65x9	75	1-M20	50	9	80	130	75	90
M22	75x9	85	1-M22	55	12	80	160	90	100

・L1, L2各寸法は、原則としてL/2以上とする。
・GPLの鋼材は、構造図による。

・本プレース接合部仕様は「建築物の構造関係技術基準解説書(2007年版)」(監修:国土交通省住宅局建築指導課他)構造規定に関する技術資料 付録1-2.4の(2)筋かい端部及び接合部の強度確保(保有力接合)に示す方法による

特記(注意事項)
・必要溶接長さLは、以下により設定している。
仕上タイプ1 L ≥ Le+2s
仕上タイプ2 L ≥ Le/2+2s
仕上タイプ3 L ≥ Le/2+4s
Le:計算にて求めた耐力上必要な片側すみ肉溶接最小長さ
S:すみ肉溶接のサイズ

鉄骨階段 SK2(外部一屋上) (溶融亜鉛めっき、溶融亜鉛めっきボルト)

ササラ桁 PL-12x300
D13-φ200
保護コンクリート
BPL-19
A.BOLT (SS400) 100 2-M16 L=400 (二重ナット締め) (フック付)

(B-B) 断面

プレース標準仕上リスト (山形鋼・単材)

採用	プレース主材	HTB		GPL				
		本数、径	ゲージ e1	原さ t	有効巾 L6以上	必要溶接長 L以上	タイプ1/タイプ2/タイプ3	
	L-65X65X6	5-M16	35	9	90	210	115	125
	L-75X75X6	5-M16	40	9	95	245	130	145
○	L-75X75X9	5-M16	40	9	125	350	180	195
	L-75X75X12	6-M16	40	9	160	430	225	235
	L-90X90X7	5-M20	50	9	125	320	170	180

・L1, L2各寸法は、原則としてL/2以上とする。

・本プレース接合部仕様は「建築物の構造関係技術基準解説書(2007年版)」(監修:国土交通省住宅局建築指導課他)構造規定に関する技術資料 付録1-2.4の(2)筋かい端部及び接合部の強度確保(保有力接合)に示す方法による

特記(注意事項)
・必要溶接長さは、以下により設定している。
仕上タイプ1 L ≥ Le+2s
仕上タイプ2 L ≥ Le/2+2s
仕上タイプ3 L ≥ Le/2+4s
Le:計算にて求めた耐力上必要な片側すみ肉溶接最小長さ
S:すみ肉溶接のサイズ

鉄骨階段 SK2(外部) (溶融亜鉛めっき、溶融亜鉛めっきボルト)

ササラ桁 PL-12x300
CH.PL-4.5
L-90x90x9
H.T.B 2-M20
CB25
P1
B2
BPL-19
A.BOLT (SS400) 100 2-M16 L=400 (二重ナット締め) (フック付)

(C-C) 断面

RX1, RY12通り鉄骨小梁端部取付要領図

(B-B) 断面
(A-A) 断面

屋根底詳細図

補強プレート: SS400

確認申請図	2012.09.24
見積図	
契約図	2012.10.01
竣工図	2013.08.31
当図作成日	2013.08.31

設計番号 01-28350-000

高嶋会館建設工事

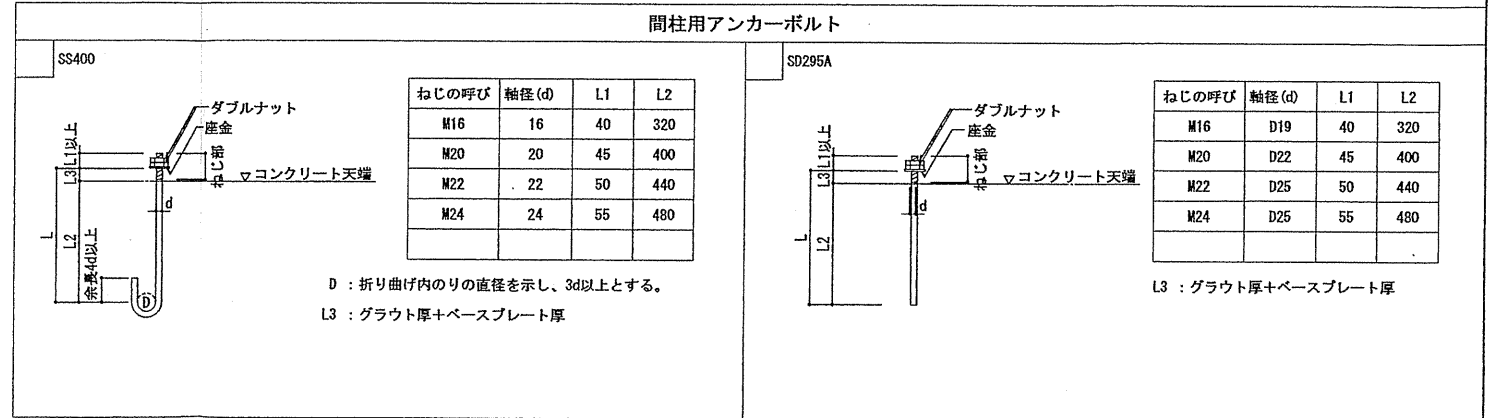
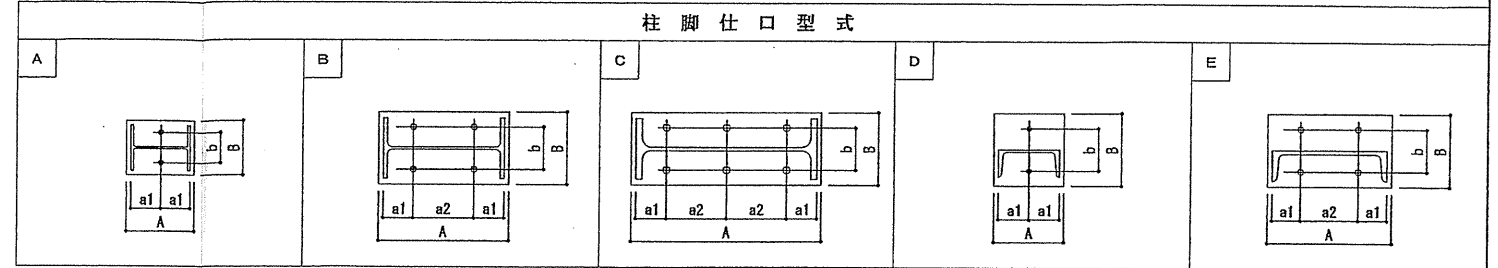
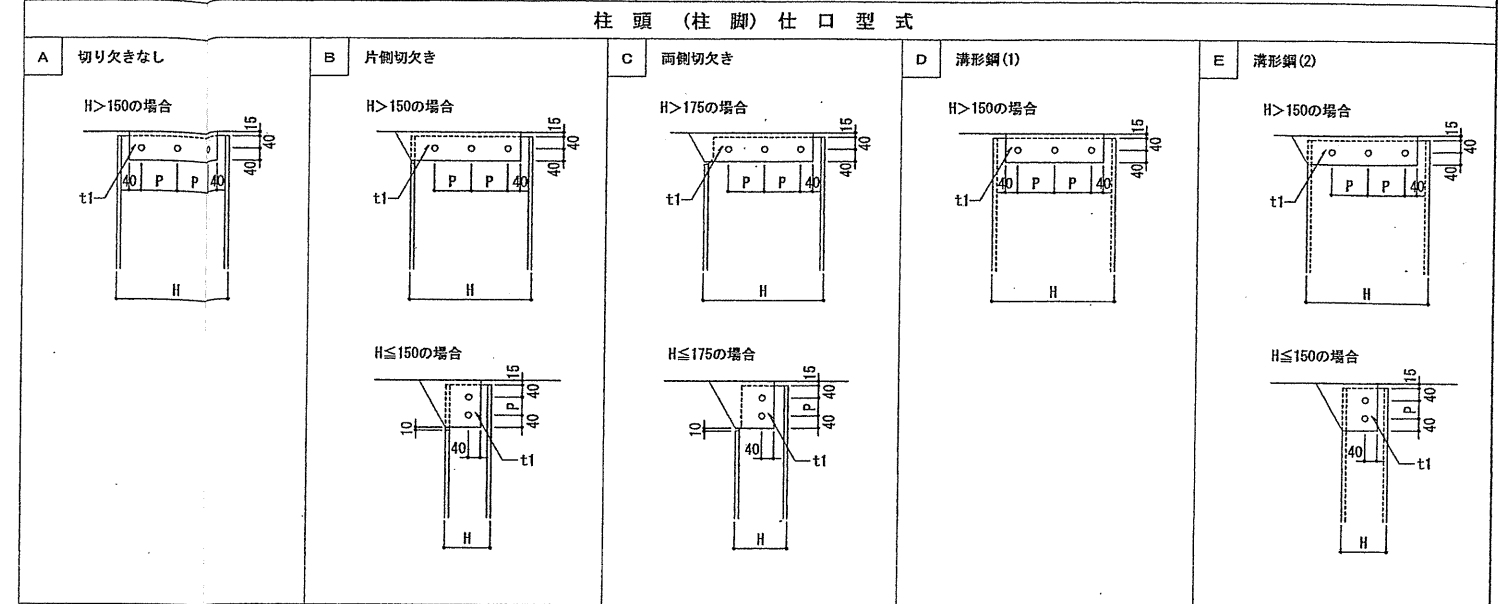
【竣工図】
発行日 2013.08.31

図面名称

鉄骨小梁リスト-2

縮尺

部 材 (SS400)	仕 口								備 考				
	採用 符号	断 面	柱 頭 (柱 脚)				柱 脚						
			型式	ボルト	ガセット プレート t1	ボルト ピッチ P	型式	ベースプレート t2 x A x B		アンカーボルト 径 本数	寸法 b a1 a2		
H 形 鋼 (細 幅)	P15	H-150x 75x 5x 7	B	2-M16	6	60	A	PL-12x180x180	M16	2	100	75	—
	P17	H-175x 90x 5x 8		2-M16	6	60	A	PL-12x210x180	M16	2	100	87.5	—
	P19	H-198x 99x4.5x 7		2-M16	6	60	A	PL-12x230x180	M16	2	100	99	—
	P20	H-200x100x5.5x 8		2-M16	6	60	A	PL-12x230x180	M16	2	100	100	—
	P24	H-248x124x 5x 8		2-M16	9	90	A	PL-12x280x180	M16	2	100	124	—
	P25	H-250x125x 6x 9		2-M16	9	90	A	PL-12x280x180	M16	2	100	125	—
	P29	H-298x149x5.5x 8		2-M20	9	120	A	PL-12x330x240	M20	2	140	149	—
	P30	H-300x150x6.5x 9		2-M20	9	120	A	PL-12x330x240	M20	2	140	150	—
	P34	H-346x174x 6x 9		2-M20	9	120	B	PL-12x380x240	M20	4	140	85.5	175
	P35	H-350x175x 7x11		2-M20	9	120	B	PL-12x380x240	M20	4	140	87.5	175
	P39	H-396x199x 7x11		3-M20	9	120	B	PL-16x430x240	M20	4	140	98	200
	P40	H-400x200x 8x13		3-M20	9	120	B	PL-16x430x240	M20	4	140	100	200
	P44	H-446x199x 8x12		3-M20	9	120	B	PL-16x480x240	M20	4	140	113	220
	P45	H-450x200x 9x14		3-M20	9	120	B	PL-16x480x240	M20	4	140	115	220
	P49	H-496x199x 9x14		3-M20	9	120	B	PL-16x530x240	M24	4	140	123	250
	P50	H-500x200x 10x16		3-M20	12	120	B	PL-19x530x240	M24	4	140	125	250
P51	H-506x201x 11x19		3-M20	12	120	B	PL-19x540x240	M24	4	140	128	250	
P59	H-596x199x 10x15		4-M20	12	120	C	PL-19x630x240	M24	6	140	98	200	
P60	H-600x200x 11x17		4-M20	12	120	C	PL-19x630x240	M24	6	140	100	200	
P61	H-606x201x 12x20		4-M20	12	120	C	PL-22x640x240	M24	6	140	103	200	
H 形 鋼 (中 幅)	P148	H-148x100x 6x 9	B	2-M16	6	60	A	PL-12x180x180	M16	2	100	74	—
	P194	H-194x150x 6x 9		2-M16	6	60	A	PL-12x230x180	M16	2	100	97	—
	P244	H-244x175x 7x11		2-M20	9	90	A	PL-12x280x240	M20	2	140	122	—
	P294	H-294x200x 8x12		2-M20	9	120	A	PL-16x330x240	M20	2	140	147	—
	P340	H-340x250x 9x14		2-M20	9	120	B	PL-16x370x280	M20	4	140	85	170
	P390	H-390x300x 10x16		3-M20	12	90	B	PL-19x420x330	M20	4	140	95	200
	P440	H-440x300x 11x18		3-M20	12	120	B	PL-19x470x330	M24	4	140	110	220
	P482	H-482x300x 11x15		3-M20	12	120	B	PL-19x520x330	M24	4	140	116	250
	P488	H-488x300x 11x18		3-M20	12	120	B	PL-19x520x330	M24	4	140	119	250
	P582	H-582x300x 12x17		4-M20	12	120	C	PL-22x620x330	M24	6	140	91	200
P588	H-588x300x 12x20		4-M20	12	120	C	PL-22x620x330	M24	6	140	94	200	
P594	H-594x302x 14x23		4-M20	16	120	C	PL-25x630x340	M24	6	140	97	200	
H 形 鋼 (広 幅)	P100	H-100x100x 6 x 8		2-M16	6	60	A	PL-12x130x180	M16	2	100	50	—
	P125	H-125x125x6.5x 9		2-M16	9	60	A	PL-12x160x180	M16	2	100	62.5	—
	P150	H-150x150x 7 x10		2-M16	9	60	A	PL-12x180x180	M16	2	100	75	—
	P175	H-175x175x7.5x11		2-M16	9	60	A	PL-12x210x240	M16	2	140	87.5	—
	P200	H-200x200x 8 x12		2-M16	9	60	A	PL-16x230x240	M16	2	140	100	—
P250	H-250x250x 9 x14		2-M20	12	90	A	PL-16x280x280	M20	2	140	125	—	
溝 形 鋼	C-75x 40x 5 x 7	E	2-M16	6	60	D	PL- 9x105x180	M16	2	100	37.5	—	
	C-100x 50x 5 x 7.5	E	2-M16	6	60	D	PL- 9x130x180	M16	2	100	50	—	
	C-125x 65x 6 x 8	E	2-M16	6	60	D	PL- 9x155x180	M16	2	100	62.5	—	
	C-150x 75x 6.5x10	E	2-M16	9	60	D	PL-12x180x180	M16	2	100	75	—	
	C-150x 75x 9 x12.5	E	2-M16	9	60	D	PL-16x180x180	M16	2	100	75	—	
	C-180x 75x 7 x10.5		2-M16	9	60	D	PL-12x210x190	M16	2	100	90	—	
	C-200x 80x 7.5x11		2-M16	9	60	D	PL-12x230x240	M16	2	140	100	—	
	C-200x 90x 8 x13.5		2-M16	9	60	D	PL-16x230x240	M16	2	140	100	—	
	C-250x 90x 9 x13		2-M20	9	120	D	PL-16x280x240	M20	2	140	125	—	
	C-250x 90x11 x14.5		2-M20	12	120	D	PL-16x280x240	M20	2	140	125	—	
	C-300x 90x 9 x13		2-M20	12	120	D	PL-16x330x240	M20	4	140	75	150	
	C-300x 90x10 x15.5		2-M20	12	120	D	PL-16x330x240	M20	4	140	75	150	
	C-300x 90x12 x16		2-M20	12	120	E	PL-19x330x240	M20	4	140	75	150	
	C-380x100x10.5x16		3-M20	16	120	E	PL-19x410x240	M20	4	140	90	190	
C-380x100x13 x20		3-M20	16	120	E	PL-22x410x240	M20	4	140	90	190		



注記 1 特記なき限り、仕口型式はAとする。



TAISEI CORPORATION
TAISEI DESIGN
Planners Architects & Engineers

大成建設株式会社一級建築士事務所
〒163-0906新宿区西新宿1-25-1
URL: http://www.taisei.co.jp

一級 第233690号
構造設計一級 第5617号
設計 井上 慶一郎
担当 宮原 貴昭

確認申請済 2012.09.24
見積済
契約済 2012.10.01
竣工済 2013.08.31
当図作成日 2013.08.31

設計番号 01-28350-000

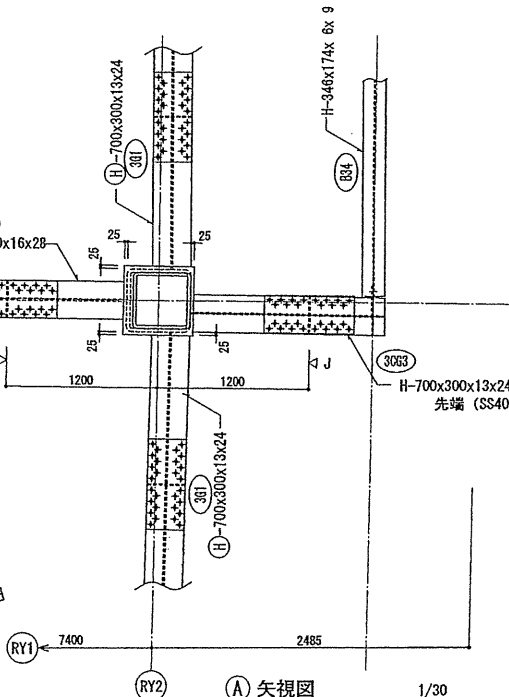
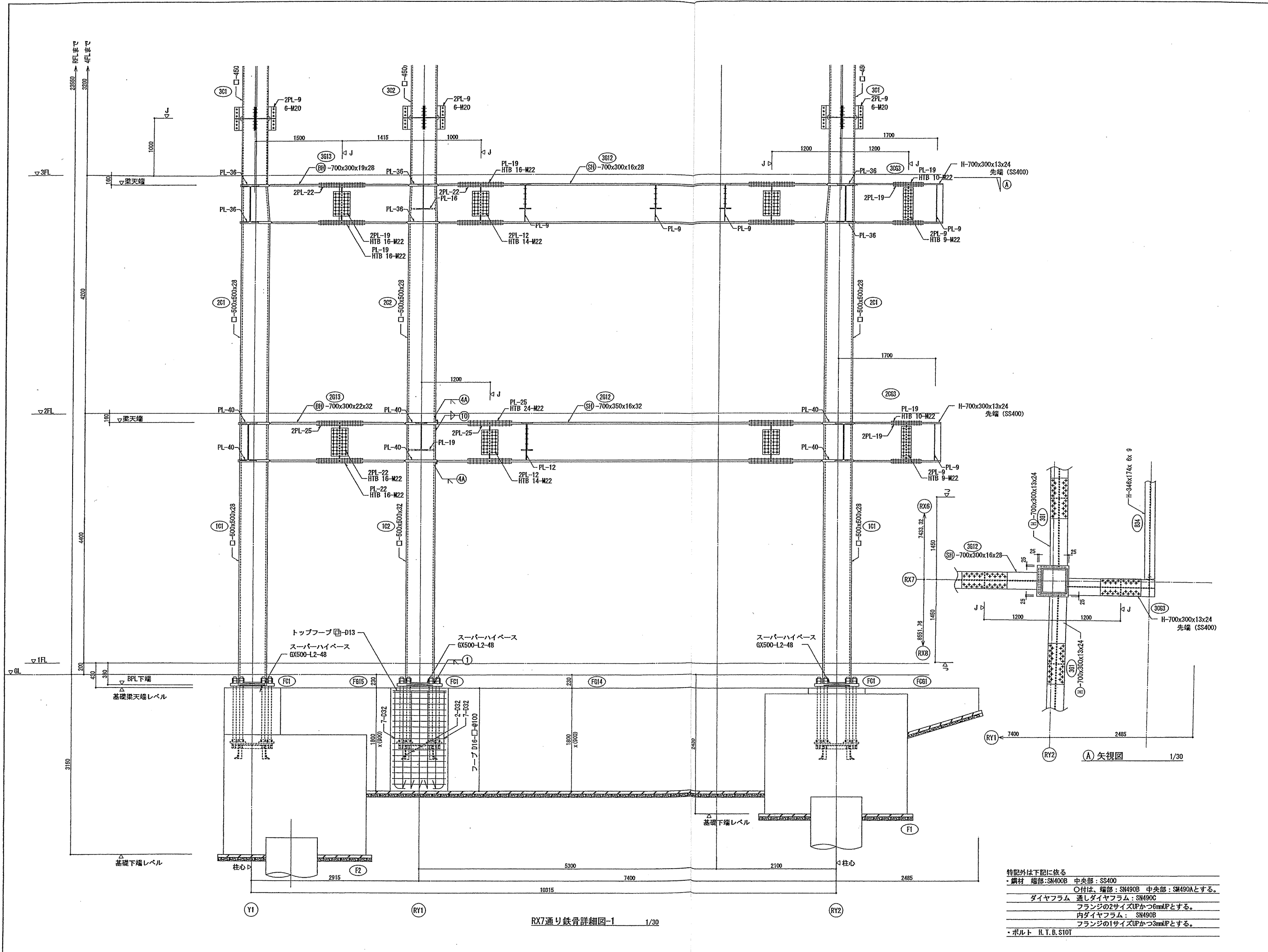
鳥嶋会館建設工事

【竣工図】
発行日 2013.08.31

図面名称

鉄骨間柱リスト

縮尺



RX7通り鉄骨詳細図-1 1/30

確認申請図	2012. 09. 24
見積図	
契約図	2012. 10. 01
竣工図	2013. 08. 31
当図作成日	2013. 08. 31

設計番号 01-28350-000

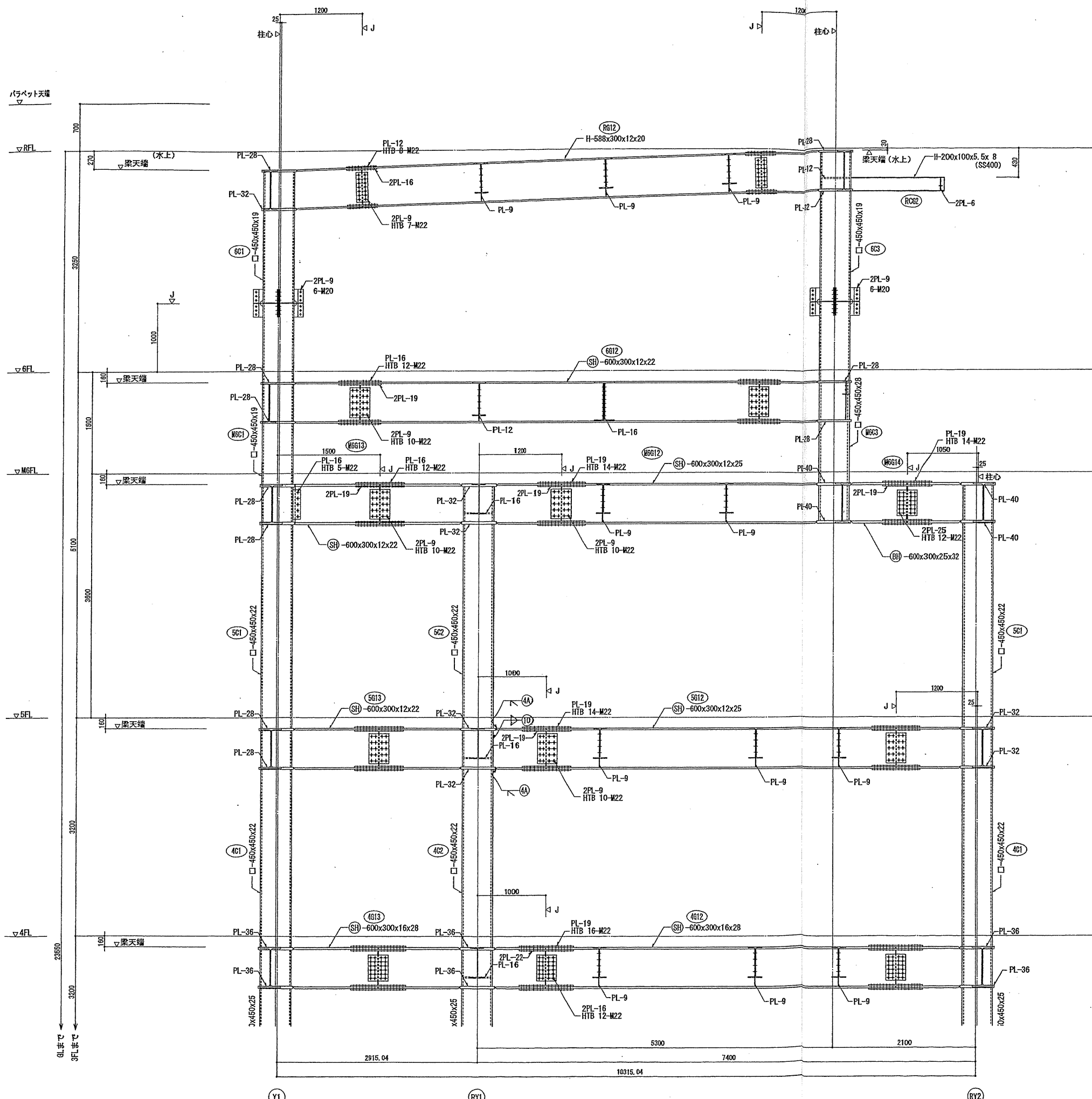
島根会館建設工事

【竣工図】
発行日 2013. 08. 31
図面名称

鉄骨詳細図-1

縮尺 A1:1/30 A3:1/60

- 特記外は下記に依る
- 鋼材 端部: SN400B 中央部: SS400
 - 付は、端部: SN490B 中央部: SM490Aとする。
 - ダイヤフラム 通しダイヤフラム: SM490C
 - フランジの2サイズUPかつ6mmUPとする。
 - 内ダイヤフラム: SN490B
 - フランジの1サイズUPかつ3mmUPとする。
 - ボルト H. T. B. S10T



確認申請図	2012.09.24
見積図	
契約図	2012.10.01
竣工図	2013.08.31
当図作成日	2013.08.31

設計番号 01-28350-000

鳥嶋会館建設工事

【竣工図】
発行日 2013.08.31

図面名称

鉄骨詳細図-2

縮尺 A1:1/30 A3:1/60

特記外は下記に依る
 ・鋼材 端部:SN400B 中央部:SS400
 ○付は、端部:SN490B 中央部:SN490Aとする。
 ダイヤフラム 通しダイヤフラム:SN490C
 フランジの2サイズUPかつ6mm厚とする。
 内ダイヤフラム: SN490B
 フランジの1サイズUPかつ3mm厚とする。
 ・ボルト H.T.B.S10T

日立スーパーハイベース工法設計施工標準 (本工法は、S造およびCFT構造に適用)

大臣認定 MSTL-0180 (ベースプレート)
MBLT-0042-0046 (アンカーボルト)
BCJ評定 BCJ評定-ST0058-03

本工法の設計・施工は、鋼構造設計標準、鉄骨工事技術指針、建築工事標準仕様書 JASS 6 鉄骨工事、建築工事標準仕様書・指針書 JASS 5 鉄筋コンクリート工事、および日立スーパーハイベース工法設計ハンドブックに準拠する。

設計

1. 材質

	ハイベース	アンカーボルト	ナット	座金	定着板
規格	HCW490st (大臣認定取得材)	HAB (大臣認定取得材)	JIS B1181 (六角ナット)	JIS G3106 ※2	JIS G3101 (一般構造用圧延鋼材)
ねじの種類	メーテル並目	メーテル並目	メーテル並目		
備考	SN490B同等	降伏比 70%以下		SM490A	SS400

(2) ハイベース下面のモルタル

後詰めモルタル	ハイベースグラウト NX2000または、これらと同等以上の無収縮性モルタル。
中心塗部分モルタル	○普通モルタル、または無収縮性モルタル。 ○強度は基礎・基礎ばりの強度以上。

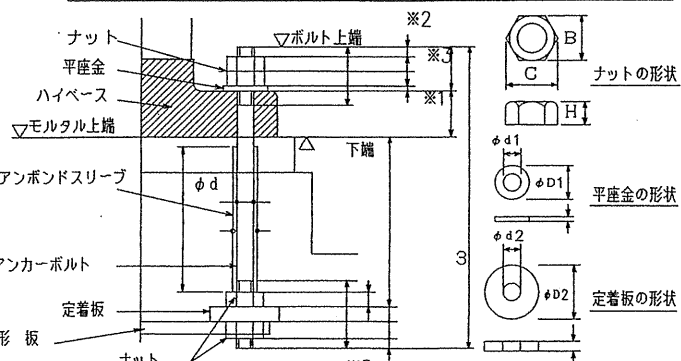
(3) 基礎・基礎ばり

コンクリート	○日本建築学会「JASS 5 鉄筋コンクリート工事」に適合する普通コンクリート。 ○設計基準強度は、 $f_c=18 \text{ N/mm}^2$ 以上
鉄筋	JIS G 3112「鉄筋コンクリート用棒鋼」に定められる、熱間圧延異形棒鋼

2. アンカーボルトのセット寸法

【注意】 ボルト本数はハイベースの型式によって異なります。

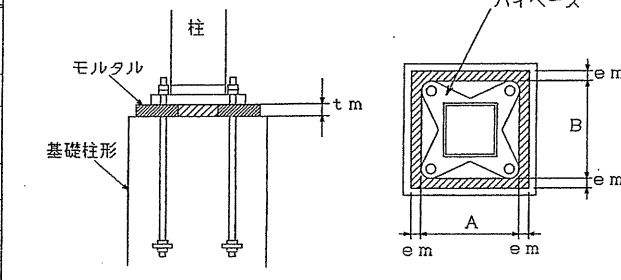
型式	G1・S1	S2・M2・L2・X2・WX2	S3・M3・L3
ボルト本数	4	8	12



ねじの呼び	アンカーボルト		アンボンドスリーブ	ナット(一種)	平座金	定着板
	軸径	長さ				
φd	φd	※1	φd	φd	φd1 φd1	φd2 φd2

※1 t2 はハイベース台座厚さを示し、ハイベース型式によって異なります。
※2 a 寸法は、ハイベース台座の厚さによって多少変動しますが、本数種以上確保下さい。
※3 t0 は、ハイベース台座からボルト天端までの最小寸法を表します。
※4 () 内は、BC型の数値を示します。 ※BC型はシングルナット仕様とする。
【注意】 アンカーボルトは二重ナットを標準としていますが、一重ナットでも適用可能です。
一重ナットとする場合は、コンクリートに埋め込む等のゆるみ止め処置をお願いします。
(一重ナットとする場合は、日立機材にご相談下さい。)

3. 基礎柱形部の標準納まり



各部名称	寸法制限	備考
ハイベース下面のモルタル厚さ (tm)	tm ≥ 30 mm	但し、標準は tm=50mm tm=30mmは柱断面がφ300、 ○300、H300以下の時に可
ハイベース周辺部のモルタル幅 (em)	em ≥ tm	ハイベース下面モルタルの高さと同等以上

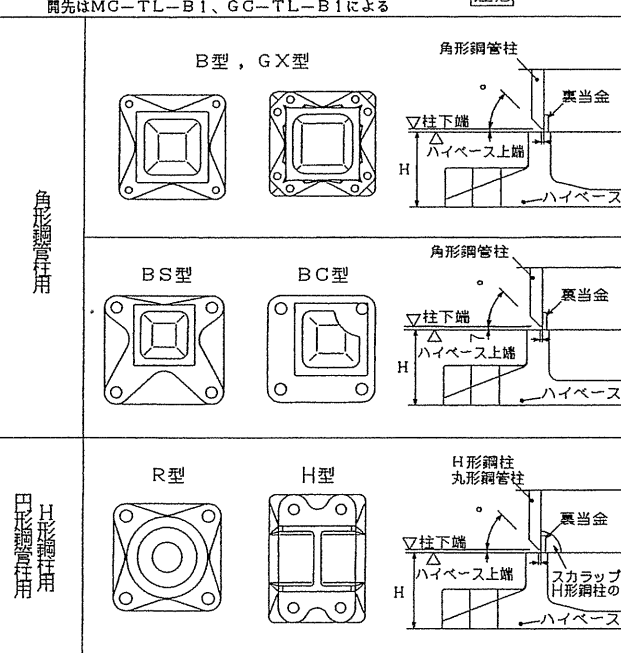
工場加工

1. 溶接材料

被覆アーク溶接	低水素系490N/mm 級高強度鋼用 (JIS Z3212 D5016相当以上)
ガスシールドアーク溶接	※鋼材490N/mm 級高強度鋼用シールドワイヤ (JIS Z3212 YCW11相当)

2. ハイベースの鉄骨柱への取付け(柱端部に開先を設ける。)

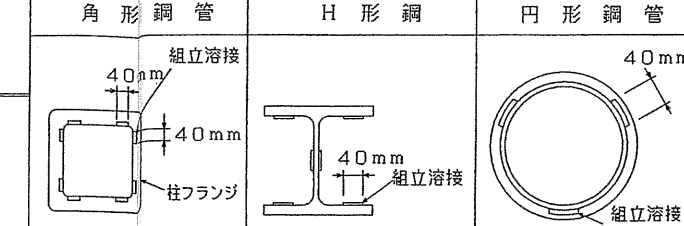
※ 柱とハイベースの溶接は、完全溶込み溶接 【注意】 開先形状は参考開先はMC-TL-B1、GC-TL-B1による



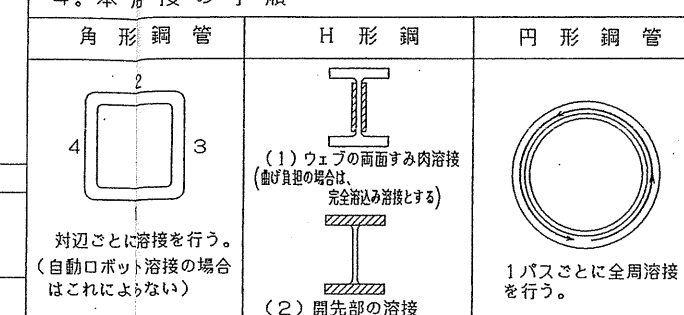
日立機材株式会社 URL

東京	TEL 03-3615-5432	中国四	TEL 082-240-1630
札幌	TEL 011-221-6558	九州	TEL 092-452-0341
東北	TEL 022-213-5595	テクニカルセンター	
関東	TEL 0273-22-9411	TEL 03-3615-5435	
新潟	TEL 025-241-0889		
横浜	TEL 045-548-9881		
中部	TEL 052-582-3356		
北陸	TEL 076-233-5260		
関西	TEL 06-6395-2133		

3. 組立溶接

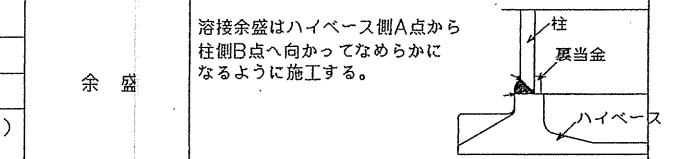


4. 本溶接の手順



5. 溶接施工一般

予熱 鋼材の種類、板厚により必要に応じて適切な予熱を行う。

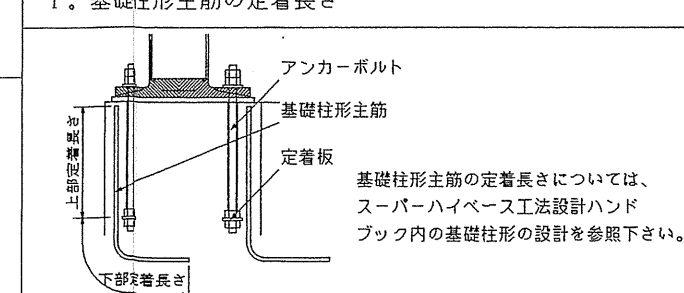


6. 検査

方法 溶接部の検査を行う場合は、超音波探傷検査によってよい。探傷は柱フランジ側から行う。
不良溶接部の補正 (1) 有害な欠陥のある溶接部は削除して再溶接する。(2) 溶接部に割れの入った場合には、割れの入った両端から50mm以上、はつり取り再溶接する。

基礎柱形部の設計

1. 基礎柱形筋の定着長さ

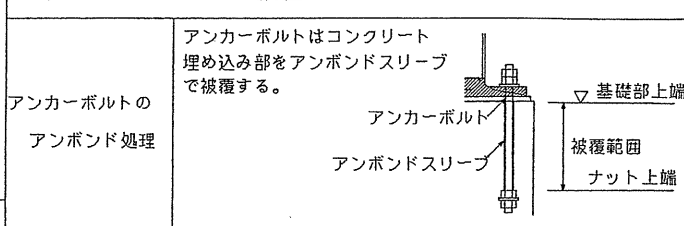


基礎柱形筋の定着長さについては、スーパーハイベース工法設計ハンドブック内の基礎柱形部の設計を参照下さい。

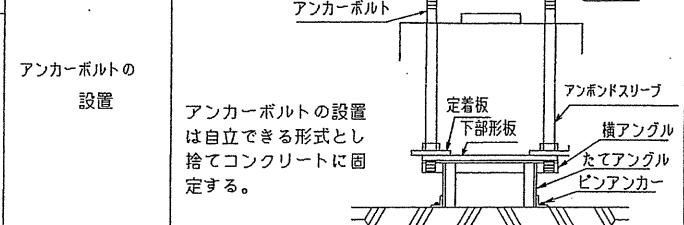
【注意】 1. アンカーボルトの設置、無収縮モルタルの充填、アンカーボルトの締め付け、これらの施工は、日立機材が定めた認定業者が行うこと。(日本建築センターの評定で義務づけられています。)
2. 本資料以外の施工方法を行った場合、日立スーパーハイベースの性能が発揮できなくなります。

現場施工

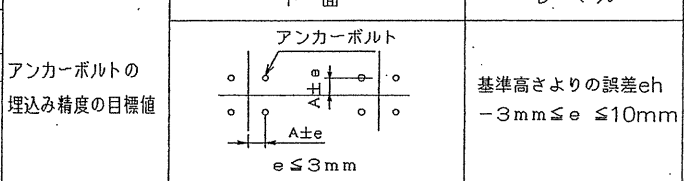
1. アンカーボルトの設置



アンカーボルトの設置



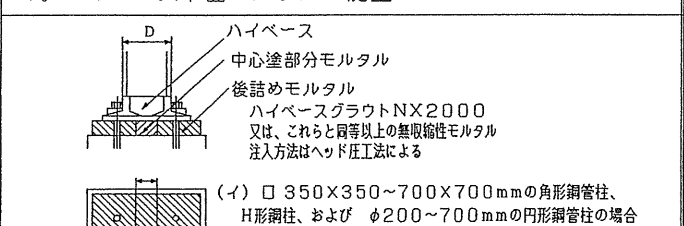
アンカーボルトの埋込み精度の目標値



2. 基礎・基礎ばりの配筋

3. コンクリートの打設

4. ハイベース下面モルタルの施工



(イ) φ350×350~700×700mmの角形鋼管柱、H形鋼柱、およびφ200~700mmの円形鋼管柱の場合
150mm ≤ a ≤ 300mm かつ寸法 D以下
(ロ) φ750×750~1200×1200mmの角形鋼管柱およびφ750~1000mmの円形鋼管柱の場合
300mm ≤ a ≤ 500mm

5. アンカーボルトの締め付け

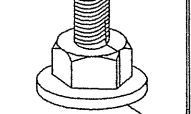
中心塗部分モルタルの養生	普通モルタル	4日以上
後詰めモルタルの養生 <th>無収縮モルタル</th> <th>2日以上</th>	無収縮モルタル	2日以上

アンカーボルトの締め付けは3日以上または、無収縮モルタルが基礎・基礎ばりコンクリートの強度以上発現した後

アンカーボルト	φ24	φ30	φ36	φ42	φ48	φ56	φ64	φ72
予備締め	20~30cmのレンチで400N程度の力で締め付ける。 ※トルクの目安 100N・m	40~50cmのレンチで400N程度の力で締め付ける。 ※トルクの目安 200N・m	70~80cmのレンチで400N程度の力で締め付ける。 ※トルクの目安 300N・m					
本締め	予備締めの状態からナットを、30°回転する。(許容差 +10°)							

予備締めが終了した段階で白ペンキ等にて、ボルト・ナット・ハイベースにわたり図に示すようマーキングを施す。

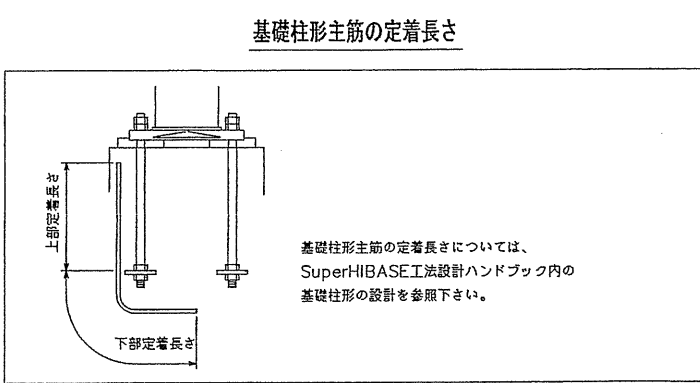
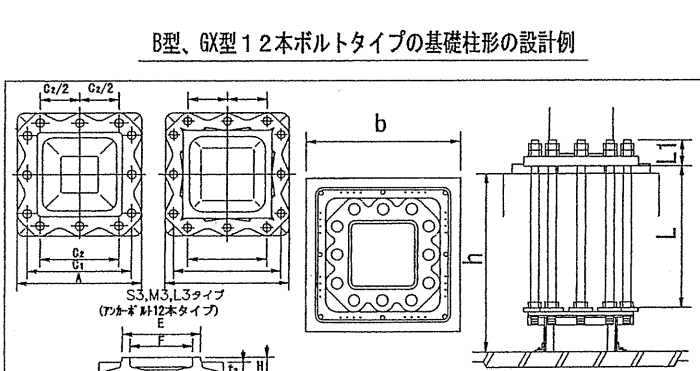
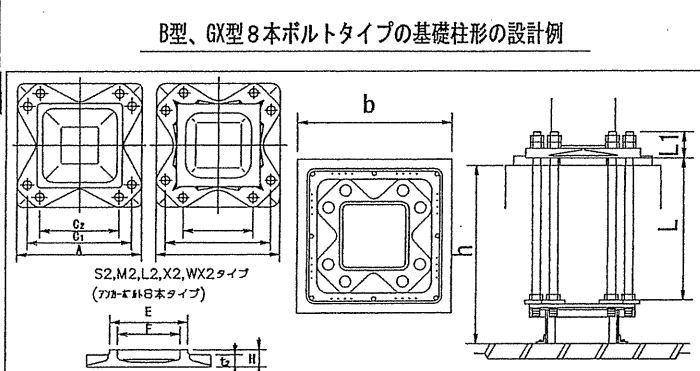
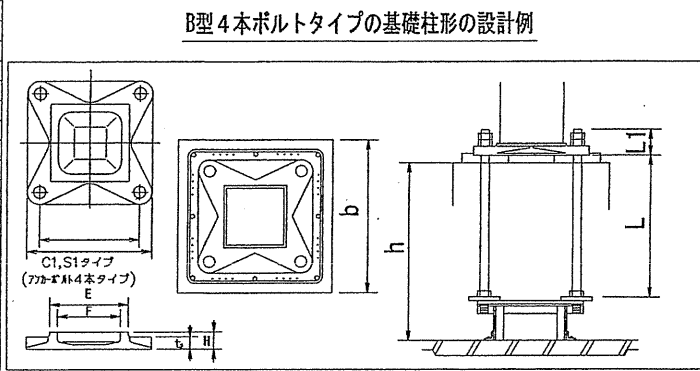
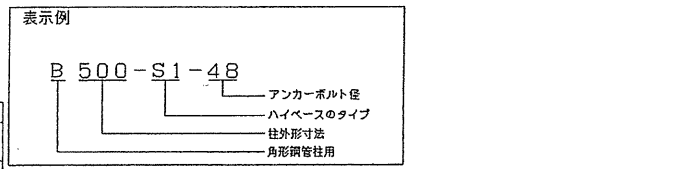
上ナットは下ナットの本締めした後40~50cmのレンチで軽く締め付ける。



・スーパーハイベース (角形鋼管口350~口800)

日立スーパーハイベース工法設計施工標準-② (角形鋼管)

柱番号	数量	サイズ	板厚範囲	ハイベース型式	ばね定数	寸法 (mm)				質量 (kg)	セット質量 (kg)	基礎柱形の設計例 < 種・質量 >					基礎柱形の設計例 < 中柱用 (方向から基礎梁が取り付け可能なものを示します。) >																					
						A	C ₁	C ₂	E			F	H	H ₂	L (mm)	L ₁ (mm)	h (mm)	Iゾーンの両側		Iゾーンの両側		Iゾーンの両側		Iゾーンの両側														
																		柱径 b (mm)	柱径主筋	帯筋	柱径 b (mm)	柱径主筋	帯筋	柱径 b (mm)	柱径主筋	帯筋	柱径 b (mm)	柱径主筋	帯筋									
□350×350	9~25	9~25	9~25	B350-C1-30	85.6	500	420	356	280	65	48	84	34	118	600	113	820以上	700	8-022	D13#150	700	12-022	D13#150	360	700	8-022	D13#150	700	12-022	D13#150	360	700	8-022	D13#150	700	12-022	D13#150	360



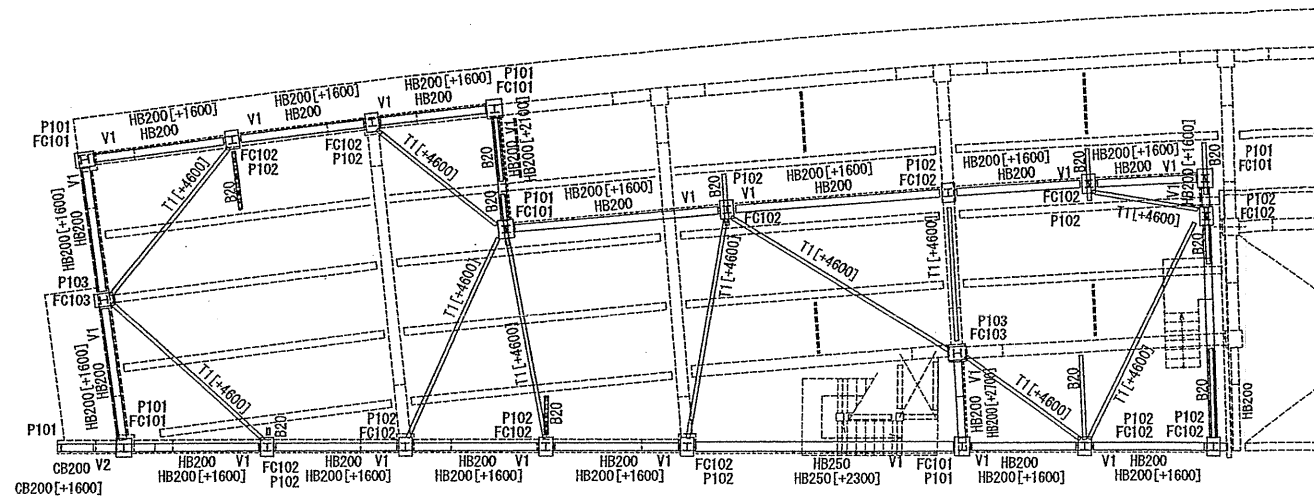
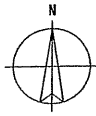
部品の質量はアンカーボルトと部品とセットの質量です。
表中に無いサイズについても対応可能です。日立設計部に問い合わせ下さい。
表中の質量は、D11~D12は320kg、D13~D22は325kg、D23~D25は335kgを標準用下さい。
注1) I、IIゾーンの区分についてはSuperHIBASE設計ハンドブックの各型式の耐力係数を参照下さい。
注2) 基礎柱形の設計例はIゾーンの両側の場合です。
注3) 上記表内の中柱用とは、方向から基礎梁が取り付け可能なものを示します。この条件を満たさない状態については、(種・質量)を参照下さい。
注4) 表中の質量は基礎梁上からの質量 (基礎梁天端と基礎柱形天端が一致する場合) の設計例です。立上りがある場合、独立基礎の場合は、SuperHIBASE設計ハンドブックの図例に準じて設計して下さい。
注5) (中柱用)の質量は、基礎梁内の上向きを(口350以下・D10#250、口400以上・D10#250)として算定しています。あはら鉄筋面積がこれより小さくなる場合は(種・質量)の鉄筋量として下さい。
注6) 表中の寸法は設計がない場合は、図がある場合は表中の寸法に100mm以上電算して下さい。

確認申請済 2012.09.24
見積書
契約書 2012.10.01
竣工図 2013.08.31
当図作成日 2013.08.31

設計番号 01-28350-000

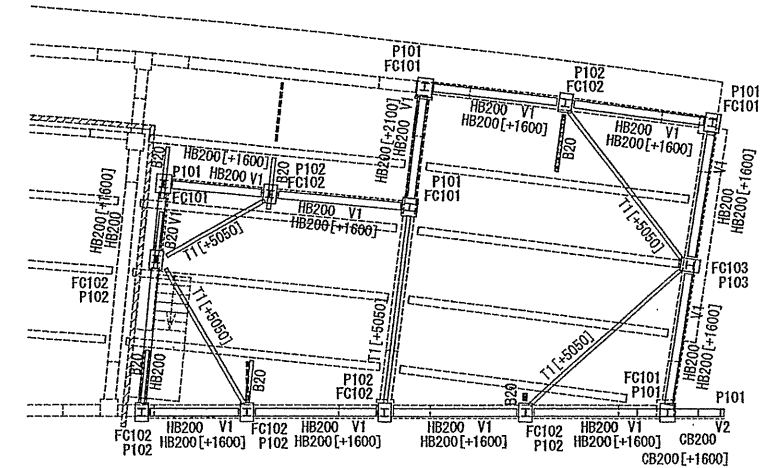
島嶼会館建設工事
【竣工図】
発行日 2013.08.31
図面名称

日立スーパーハイベース
工法設計施工標準-2



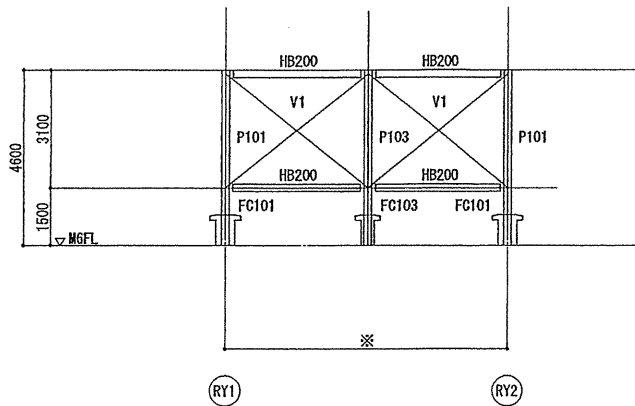
M6階+4500梁伏図 1/100

- 特記外は下記に依る
- ・ 梁天端レベル FL+4500
 - ・ []内はFLからの梁天端レベルを示す。
 - ・ △ は柱心を示す。
 - ・ 鉄骨の現場継手位置は柱芯から800とする。



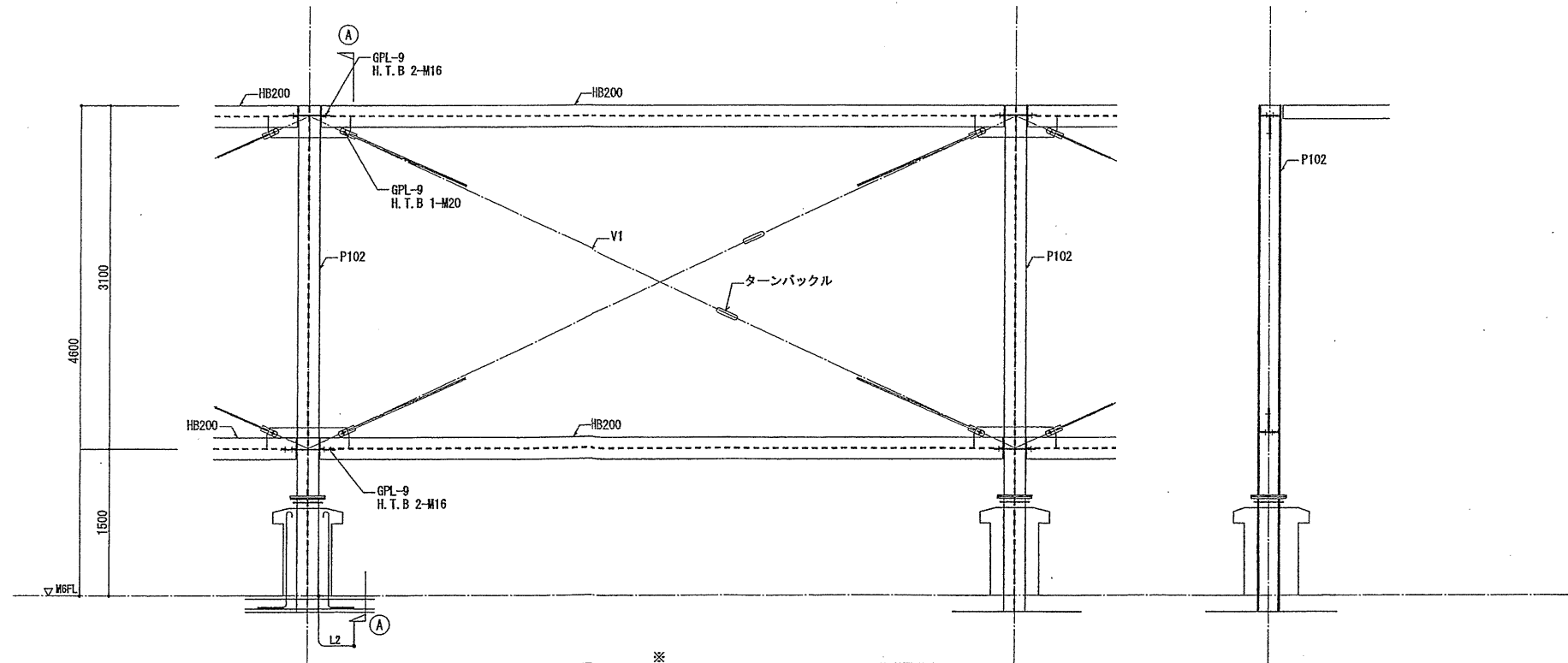
M6階+5100梁伏図 1/100

- 特記外は下記に依る
- ・ 梁天端レベル FL+5100
 - ・ []内はFLからの梁天端レベルを示す。
 - ・ △ は柱心を示す。
 - ・ 鉄骨の現場継手位置は柱芯から800とする。



RX1通り軸組図 1/100

- 特記外は下記に依る
- ・ ※寸法は意匠図参照



M6階目隠し壁詳細図 1/30

①-①断面

確認申請図	2012.09.24
見積図	
契約図	2012.10.01
竣工図	2013.08.31
当図作成日	2013.08.31

設計番号 01-28350-000

鳥嶼会館建設工事

【竣工図】
発行日 2013.08.31

図面名称

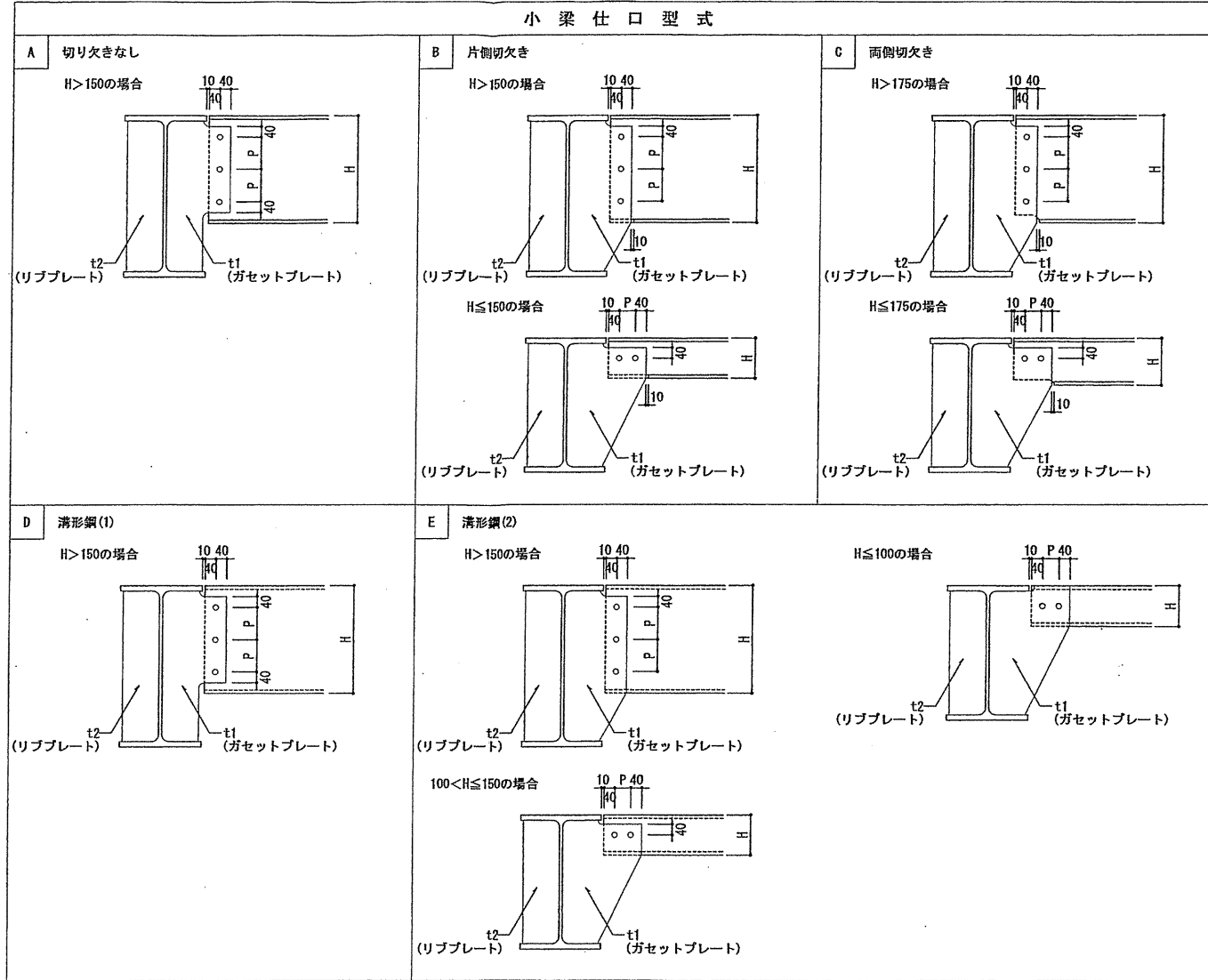
目隠し壁詳細図-1
伏図・軸組図

縮尺 A1:1/100 A3:1/200

C-032

AD009

部材 (SS400)	仕口			備考				
	採用	符号	断面					
H形鋼 (細幅)	B15	H-150x 75x 5x 7	B	2-M16	6	6	60	
	B17	H-175x 90x 5x 8	A	2-M16	6	6	60	
	B19	H-198x 99x4.5x 7	A	2-M16	6	6	60	
	B20	H-200x100x5.5x 8	A	2-M16	6	6	60	
	B24	H-248x124x 5x 8	A	2-M20	9	6	90	
	B25	H-250x125x 6x 9	A	2-M20	9	6	90	
	B29	H-298x149x5.5x 8	A	3-M20	9	6	60	
	B30	H-300x150x6.5x 9	A	3-M20	9	6	60	
	B34	H-346x174x 6x 9	A	3-M20	9	6	90	
	B35	H-350x175x 7x11	A	3-M20	9	6	90	
	B39	H-396x199x 7x11	A	4-M22	9	6	70	
	B40	H-400x200x 8x13	A	4-M20	9	6	60	
	B44	H-446x199x 8x12	A	4-M22	9	6	90	
	B45	H-450x200x 9x14	A	4-M20	9	6	90	
	B49	H-496x199x 9x14	A	4-M22	12	9	90	
	B50	H-500x200x 10x16	A	4-M22	12	9	90	
	B51	H-506x201x 11x19	A	4-M22	16	12	90	
	B59	H-596x199x 10x15	A	5-M22	16	12	90	
	B60	H-600x200x 11x17	A	5-M22	16	12	90	
	B61	H-606x201x 12x20	A	5-M22	16	12	90	
	H形鋼 (中幅)	B148	H-148x100x 6x 9	B	2-M16	6	6	60
B194		H-194x150x 6x 9	A	2-M16	9	6	60	
B244		H-244x175x 7x11	A	2-M20	12	9	60	
B294		H-294x200x 8x12	A	3-M20	12	9	60	
B340		H-340x250x 9x14	A	3-M20	16	12	60	
B390		H-390x300x 10x16	A	3-M22	16	12	90	
B440		H-440x300x 11x18	A	4-M22	16	12	90	
B482		H-482x300x 11x15	A	4-M22	16	12	90	
B488		H-488x300x 11x18	A	4-M22	16	12	90	
B582		H-582x300x 12x17	A	7-M22	16	12	60	
B588		H-588x300x 12x20	A	7-M22	16	12	60	
B594		H-594x302x 14x23	A	7-M22	19	16	60	
B692		H-692x300x 13x20	A	9-M22	19	16	60	
B700	H-700x300x 13x24	A	9-M22	19	16	60		
B792	H-792x300x 14x22	A	10-M22	19	16	60		
B800	H-800x300x 14x26	A	10-M22	19	16	60		
B890	H-890x299x 15x23	A	12-M22	19	16	60		
B900	H-900x300x 16x28	A	12-M22	19	16	60		
B912	H-912x302x 18x34	A	12-M22	22	19	60		
溝形鋼	C-	75x 40x 5 x 7	E	2-M16	6	6	60	
	C-	100x 50x 5 x 7.5	E	2-M16	9	6	60	
	C-	125x 65x 6 x 8	E	2-M16	9	6	60	
	C-	150x 75x 6.5x10	E	2-M16	9	6	60	
	C-	150x 75x 9 x12.5	E	2-M16	12	9	60	
	C-	180x 75x 7 x10.5	E	2-M16	9	6	60	
	C-	200x 80x 7.5x11	E	2-M16	9	6	60	
	C-	200x 90x 8 x13.5	E	2-M16	9	6	60	
	C-	250x 90x 9 x13	E	2-M20	12	9	120	
	C-	250x 90x11 x14.5	E	2-M20	12	9	120	
	C-	300x 90x 9 x13	E	3-M20	12	9	90	
	C-	300x 90x10 x15.5	E	3-M20	12	9	90	
	C-	300x 90x12 x16	E	3-M20	16	12	90	
C-	380x100x10.5x16	E	4-M20	16	12	90		
C-	380x100x13 x20	E	4-M20	16	12	90		
その他	V1	1-M20		1-M20	9	-	-	SHR400B, F8T
	V2	L-65x65x6		6-M16	9	-	60	F8T
	HB200	H-200x200x 8x12		2-M16	9	-	60	横使い, F8T
	HB250	H-250x250x 9x14		2-M20	9	-	60	横使い, F8T
	CB200	H-200x200x 8x12		-	-	-	-	横使い F: (外) PL-9x200x290 (内) PL-9x 80x290 4-M20 F8T W: PL-9x140x170 2-M20
	T1	2C-125x65x6x8	E	2-M20	9	-	60	F8T, つづり材 PL-9 HTB1-M20φ1000 ※屋外露出鉄骨部材: 溶融亜鉛メッキ



注記
1 原則として、仕口型式はAとする。
2 ガセットプレート及びリブプレートの納りは下図とする。

0~15 0~15
10
スニップカット
またはスカラップ
0~15

スタッド要領

100
スタッド (H=80)
・スタッド要領
梁幅>200: φ19-φ200ダブル
梁幅≤200: φ19-φ200シングル

間柱リスト 1/30

特記外は下記に依る
・アンカーボルト SS400
・屋外露出鉄骨部材は溶融亜鉛メッキとする。

階	符号	P101, P102, P103	
M6 階		H-200x200x8x12	
柱脚		50130 130 50 100 130 50 360 360	
	B.PL	PL-16x300x400 (SS400)	
	BoIt	φ-M20	
	RibPL	PL-9 (t=150) (SS400)	
	備考	-	
	符号	FC101, FC102, FC103	
	柱型		500 500
			500
	主筋		10-D16
	帯筋		D13-□-φ100

確認申請図 2012.09.24
見積図
契約図 2012.10.01
竣工図 2013.08.31
当図作成日 2013.08.31

設計番号 01-28350-000

島嶼会館建設工事

【竣工図】
発行日 2013.08.31
図面名称

目隠し壁詳細図-2
鉄骨部材リスト

縮尺 A1:1/30 A3:1/60